

熟年へのメッセージ

—輝く秋を迎えるために—

エレン・G・ホワイト著
山形俊夫訳

読者への言葉

私たちはだれでも、いつかは仕事を少なくして、若い人々に譲らなければならない年になります。そうになると感情的にも、身体的精神的必要からも、経験のある牧師や開業医、老人病専門家の助けや指導が必要となる場合が出てきます。幸いこのような助けは、今日豊富です。熟年高年の人々が利用できるよい本や雑誌、セミナー等も多く、また利用できるクラブなども世界中で増えてきています。

S D A 教会の出版社も、高齢読者のために、いくつも本を出版しました。みな良い本ですが、熟年層のためにエレン・G・ホワイ特が書いた文章を一冊にまとめたものは、これまで出版されてきませんでした。

初めてまとめられたこの本の中で、エレン・ホワイ特は年輩者たちの抱くさまざまな疑問に

対し、靈感による多くの回答を与えています。この珠玉のような思想は、彼女の手紙や原稿、書籍や雑誌の記事からとられたもので、その多くは彼女の六五歳以後、一八九二年から一九一五年までの二三年間に書かれたものです。

エレン・ホワイトは八七歳までフルタイムで働きました。六四歳の時、一般の人はもう引退が近い年齢ですが、彼女はオーストラリアで相談役また宣教師として働いていました。教会の遅い開拓者たちとともに、彼女はあの海の彼方の大陸で、主の御事業の土台を築く助けをしていたのです。

教会の働き人を養成する学校（現在のアボンデール大学）のキャンパスに新築された家で、彼女は読者の心を捕らえるイエスの地上生涯の伝記を書きました。『各時代の希望』です。執筆の間には教会で説教をしたり、年会の委員会に出席したり、助言を与えたりしました。主の計画に従った大学の建設を提案して、オーストラリア・ミッシヨナリー・カレッジができました。またシドニーの郊外に理想的なサニタリウムを作る提案をして、その結果一つの医療施設ができたのです。これらの施設を作るにあたって、教会の指導者たちは、預言の賜物による指導を信じました。

これらの仕事と平行して、彼女は流麗なペンによって、靈感を受けた記事や勧告の手紙を書き続け、教会の編集者たち、指導者たち及び一般信徒たちに与えましたが、それはオーストラリアだけでなく、北米、ヨーロッパ及び南米にも及びました。

彼女の生涯の最後の一五年間（一九〇〇—一九一五）は、アメリカ合衆国に帰り、新しく入手したカリフォルニア州セントヘレナに近いエルムスハイブンの家に住みました。そこで彼女は引退の気楽さと休息を望んだのですが、主の特別な使命者という立場のゆえに、教会員たちからひっきりなしに助言や指導を求められました。

主の僕は、キャンプ・ミーティングや年会の総会、及び地方教会などの説教を含むさまざまな招きを、断ることができませんでした。タコマパークで開かれた一九〇九年の世界総会で説教するために、北米大陸を東に向かって横断したのは、彼女が八二歳の時でした。

エルムスハイブン時代には「ダースに近い最も良い著作が出版されました。『教育』、『ミニストリー・オブ・ヒーリング』、『教会への証』六、七、八、九巻、『患難から栄光へ』、『教師・親・学生への勧告』、『福音宣伝者』、『ライフ・スケッチズ』、そして最後に『国と指導者』（死後出版）が書かれたのです。

エレン・ホワイトは、引退は人生が“錆びていく”時だとは考えていませんでした。彼女にとって引退は“消耗していく”時でした。しかしいずれにしろ彼女は、厳しい監督などではなく、理解ある心と慈悲深い態度を持った、賢明で信頼のおける相談相手でした。それは彼女が、親切な天の父とその子イエス・キリストとの深い交わりによって身につけたものでした。たとえば、老後働きすぎている説教者に、あなたは過労によって健康を損っているから働きを制限するようにと、彼女は勧告しました。あなたはよく働いたのだから今はゆったりした時間を持ち、天国に向けて成熟し、平安で幸福な引退の時を過ごす特権を与えられていることを、理解するようにと、励ましたのです。

委員会は、神に献身した僕による手紙や記事やメッセージを集めたこの本が、引退の時期にある人々にとって実的な知恵と指導の源となり、また、「私が来たのは、羊が命を受けるために、しかも豊かに受けるためである」(ヨハネによる福音書一〇の一〇)というキリストの言葉の意味を、もっとよく理解したいと思う熟年の人々にとって、助けとなることを祈ります。

目次

読者への言葉

第一章 再臨運動の先駆者たち

第二章 年輩の働き人たちの有用性

第三章 年輩者と若者の交わり

第四章 老年の親に対する子どもの責任

第五章 お年寄りの世話

第六章 老いゆく人々への配慮

第七章 家宰としての生活

第八章 遺言の重要性

第九章 熟年における再婚

145 129 105 81 65 57 45 27 1 (3)

第一〇章	生活のエネルギーを保つ	163
第十一章	苦悩における不屈の精神	181
第十二章	死に直面している人への確証と慰め	199
第十三章	死別の時	219
第十四章	聖書の人物よりの教訓	231
解説		258
訳者の言葉		261

第一章 再臨運動の先駆者たち

高齢の先駆者たちへの尊敬

第三天使の使命の働きにその初期から携わり、一八四四年の失望の時からいろいろな経験を持つ高齢の先駆者たちに、主は言われます。「あなたの助けが必要です。若い人ができる仕事を引き受けないでください。生活習慣に気を配ることはあなたの義務です。体力、知力、また霊的力を賢く用いることが必要です。多くの異なった経験を持つ人々は、全力を尽くしてその力を維持し、神の御業を進展させるために、神が許される間、その置かれた場所で、主のた

めに働くことができるようにすべきです」

御事業には経験を積んだ働き人たちの助けが必要です。長年の経験があり、各方面での御業の進展を見てきた人々、また、まちがった教えに惑わされて心を乱し、狂信に走った人々を多く見てきた人々の助けが必要です。彼らが狂信に走ったのは、真理の光を拒んだからです。そのために誤った考えが入ってきて、最終時代に神の残りの民に純粋な形で伝えられねばならない使命が、無効になったのでした。信頼できる神の僕の多くは、今はイエスにあって眠っています。ですから、今日まで生きている人々の助けを大切にしましょう。その証を重んじましょう。神の恵みの手はこれらの忠実な働き人とともにあったのです。神はその強い御手で彼らを支え、「私に頼りなさい。私はあなたの力となり、あなたの受ける報いははなはだ大きいであらう」と言われます。伝道の初期に使命を受け入れ、戦いが困難な時に勇敢に戦った人々は、今その手を緩めてはなりません。

生涯を通じて神の御事業に関心を持ってきた人々に対し、最もこまやかな関心を示すべきです。弱点がいろいろあったとしても、これらの働き人は、その場所に置かれるに足るタレントをまだ持っています。神は彼らが御事業の指導的立場をとることを望んでられます。彼らは

第1章 再臨運動の先駆者たち

嵐や試練の中で忠実に立つてきました。彼らは私たちの大事な相談役なのです。彼らがなおその賜物を主の奉仕に用いることができるのは、どんなに感謝すべきことでしょう。

これらの熱心な働き人たちが、御業を前進させるためにすべてを犠牲にした事実を、私たちは忘れてはなりません。彼らが神に仕えて年をとり、髪も白くなったからといって、御事業についての知識もはるかに少なく、神に関することについての経験もはるかに少ない人々より影響力がないような場所に置かれる理由は、まったくありません。体は疲れ、若い人々が担うような重荷は負えなくても、カウンセラーとしての彼らの価値は最高です。彼らにも失敗はありましたが、その失敗から知恵を得、誤りや危険を避けることを学びました。ですから、彼らは賢明な助言を与えることができるのではないのでしょうか。彼らは試練に耐えてきました。いくらか活力を失ってはいますが、先駆者たちの労力と自己犠牲をほとんど知らない経験の浅い働き人たちによって、押しのけられるべきではありません。主は彼らを退けることはなさいません。彼らに特別な恵みと知識をお与えになるのです。

一生を神の奉仕に過ごした人々は、地上生涯の終わりに近づくにつれて、聖霊を与えられて神の御事業に関する経験を語るように導かれるでしょう。ご自分の民に対する神の驚くべき取

り扱いや、神が試練より救い出された驚くべき恵みの記録は、新しく信仰を持った人々に伝えられねばなりません。かつては共労者であつた人の背教によつて神の僕にもたらされた試練や、最初の確信を終わりまで固く保ち続けてきた人々に関する偽りの言葉が、聖霊のお働きによつて無効とされたことなどを、伝えなくてはならないのです。

今なお存命している年老いた指導者たちを、難しい場所に置いてはなりません。働きの困難な時に主に仕え、貧困を忍び、教会員が少なかった時に真理に忠実であつた人々を、尊敬しなければなりません。すべての信徒は、試練や困難など多くの不自由を忍んできた年老いた先駆者たちを尊敬するようにと、主は言われました。彼らは神の働き人であつて、御事業の進展に顕著な役割を果たしてきたのです。

主は若い働き人たちが、御事業のために残しておかれた年老いた働き人たちと交わることによつて、知恵や力を得、成熟していくことを望んでおられます。若い人たちは、年とつた働き人たちが自分たちの間にいることによって、自分たちは非常に大きな恵みを受けているということを理解しなければなりません。働きの進展に長い経験を持った白髪の人々を、大いに尊敬し、また会議等において榮譽ある立場を与えるようにしましょう。神は、最近真理に入つた

人々がこうしたことに注意を払うよう望んでおられます。

主が、試練を経た年長いた働き人たちを祝福し、支えてくださいますように。彼らが体力と知力及び霊の力を賢く保っていくよう、助けてくださいますように。この使命の初期に証をした人々にこう告げなさいと、主は私に言われました。「神はあなたに理性を与えられました。あなたが体の健康に関する法則を理解し、それに従うよう求めておられます。無分別であってはなりません。過労にならないようにして、休息の時間をとりなさい。

神はあなたが、あなたの置かれた立場を守り、人々が悪の潮流に流されないよう救うために、あなたの役割を果たすことを求めておられます。脱ぐようにと神がお命じになるまでは、武具をつけているよう神は望んでおられます。まもなくあなたは報いを受けるでしょう」

『教会への証』七巻二八六―二八九ページ

過去の鮮やかな記憶

私たちは八月二〇日、ニューヨーク州シラキュースのキャンプ場に着きました。翌日の木曜

日にU・スミス長老夫妻に会ってうれしく思いました。また、ニューハンプシャーで三〇年前に知り合いになったホイラー長老と会いました。また三〇年来の知己であるコットレル長老もいました。二五年以上の友だちであるテイラー長老や、三五年以上の知り合いであるロビンソン兄弟にも会ったのです。長く信仰を守って堅く立ってきたこれらの兄弟がたを見て、私の心は感動しました。

これらの兄弟たちが十字架の戦士となってから、二〇年以上たち、彼らの重荷の記録は永遠の彼方に過ぎ去っていきました。しかし神の御事業の初期における彼らの経験は、決して消えることはありません。過去のことを考えると、愛と信仰の火が彼らの心に再び燃え上がるのです。彼らはヨハネとともに、「初めからあつたもの、わたしたちが聞いたもの、目で見たもの、よく見て、手で触れたもの、命の言について……わたしたちが見、また聞いたことを、あなたがたにも伝える」と言うことができるのです。

そのほかにも、私たちがたいへん尊敬している人々が来ていました。彼らは御事業の中で鍛えられた友人たちで、私たちが長年知っている人々です。彼らが、その心を長年の間温かにしてきた真理を聞くと、彼らの顔は新たな確信で輝きました。彼らは二〇年以上も前に起きた

第1章 再臨運動の先駆者たち

さまざまなでき事を、身をもって正確に知っています。彼らのある人々は、最大の試練と必要の時、神の力の著しい現れを見たのです。その時私たちの数は少なく、反対はひどく、不当な反対に対処せねばなりませんでした。一週間前に起こったことを忘れることもありますが、このような、スリリングな光景は、今なおはっきり記憶されています。

彼らの生涯の後の部分がどうであれ、働きの初期の経験は、消すことのできない跡を心に残しているのです。このような年老いた先駆者たちを失うことはできません。書いたり話したりして、彼らは多くの人々に真理の尊い言葉を伝えてきました。これからもできる限りの感化を及ぼし、勧告と、神の御業における経験とを、多くの人々に伝えるようにすべきです。彼らより若い働き人たちが、活動的な奉仕の場所を占めています。これは正しいことですが、しかし若い人々は、キリストの奉仕のために年老いた人々を、温かく心に留め、また会議でも、彼らのための場所を残しておくべきです。これらの人々が武装したまま勝利まで戦うことを、私たちは願っています。彼らが若い戦士たちとともに最後の大勝利をおさめるのを、私たちは見たいものです。戦いが終わり、彼らが勝利者の中で冠を受けるのを見ることは、本当に大きな喜びとなるでしょう。

『レビユー・アンド・ヘラルド』一八八四年一〇月二八日

死者はなお語る

午後二時半、私は「ニューヨーク州のアダムス・センター」会場いっぱいの人々にお話をしていました。……この時年老いた神の僕たちに会ったことは、心を満たす経験でした。私たちは第三天使の使命の最初から、「フレデリック・「ホイラー長老と知り合いました。彼はまもなく八〇歳です。「H・H・「ウィルコックス長老や、「チャールズ・O・「テイラー長老とは四〇年来のおつきあいでした。これらの指導者たちや私にも、高齢になったことが表れていますが、最後まで忠実なら、主は朽ちることのない生命の冠を授けてくださるでしょう。

年老いた指導者たちは、依然として有用で、退く状態ではまったくありません。ヨハネのように、活動すべき役割があるのです。彼らは次のように言うことができます。

「初めからあったもの、わたしたちが聞いたもの、目で見えたもの、よく見て、手で触れたものを伝えます。すなわち、命の言について。―この命は現れました。御父と共にあったが、

第1章 再臨運動の先駆者たち

わたしたちに現れたこの永遠の命を、わたしたちは見て、あなたがたに証し、伝えるのです。わたしたちが見、また聞いたことを、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたもわたしたちとの交わりを持つようになるためです。わたしたちの交わりは、御父と御子イエス・キリストとの交わりです。わたしたちがこれらのことを書くのは、わたしたちの喜びが満ちあふれるようになるためです。

わたしたちがイエスから既に聞いていて、あなたがたに伝える知らせとは、神は光であり、神には闇が全くないということです。わたしたちが、神との交わりを持っていると言いながら、闇の中を歩むなら、それはうそをついているのであり、真理を行ってはいません。しかし、神が光の中におられるように、わたしたちが光の中を歩むなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血によってあらゆる罪から清められます」(ヨハネの手紙一、一の一―七)

この言葉は、ヨハネが百歳近くになって皆に伝えたメッセージの、精神であり命でした。真理の旗手たちは、真理を高く掲げています。戦いが終わるまで、真理の旗を掲げる手を緩めることはありません。一人また一人と、年老いた戦士の声は聞かれなくなります。彼らが占めていた場所はいってきます。彼らをもう見ることはできません。しかし、彼らは死んでもなお語

るのです。それは彼らの残した働きが語るからです。残っているわずかの年老いた信仰者たちを、本当にやさしく取り扱い、彼らのなした働きを考えて尊敬しましょう。彼らの力が弱くなるにつれて、彼らの言葉は価値あるものとなります。彼らの言葉を、尊い証として大事にしましょう。青年でも新しい働き人でも、白髪の老人を無視したり、見捨てたりしないようにさせましょう。むしろ立ち上がって、高齢の働き人たちを神より祝福された人々と言うようにさせましょう。彼らは、これらの人々の仕事を引き受けることを、自分たちの義務と考えるべきです。最初に使命を宣べ伝えた人々に対し、信徒たちの心の中に、もっと多くのキリストの愛があるよう私たちは望みます。

『セレクトッド・メッセージズ』二巻二二三、二二四ページ

最初に重荷を負った人々に対する深い感謝

ハスケル長老、あなたは自分でできることは全部しようと熱心になっていますが、長年の間

あなたが証をすることを許されたのは、神のあわれみと恵みによることを忘れないようにしてください。あなたより若い人々ができることを、自分で引き受けなくてください。……

試練に耐えた神の僕たちの多くが、イエスにあつて眠っています。今日まで生存している人々の助けを、私たちは心から感謝しています。彼らの証を大切に思っています。ヨハネの手紙一の一章を読んでごらん下さい。そして、あなたの多くの欠点にもかかわらず、今なお神のために証をすることができていることを思って、神を賛美下さい。……

私たちは初期に重荷を負って今も生きている働き人を、たやすく数えることができます「一九〇二年」。「ユライア・」スミス長老は出版事業の初期に、私たちといっしょに働きました。

彼は私の夫とともに働きました。彼の名前が『レビュー・アンド・ヘラルド』誌の編集者のリストのいちばん上にあるように、私たちはいつも願っています。なぜならそれが当然ですから。働きを始めた人々、戦いが激しかった時に勇敢に戦った人々は、今その手を緩めてはなりません。最も不自由な時を乗り越えたあと働きについた人々は、先に戦った人々を尊ばなければなりません。

私はスミス長老にはとても親しみを覚えています。私の出版事業に対する生涯を通しての関

心は、彼と結びついていきます。彼は若い時に私たちのところに来ました、編集者としてのタレントを持ち、その地位についたのです。『レビュー』誌で彼の記事を読む時、どんなにうれしく感じるのでしょうか。とても優れていてしかも霊的真理に満ちています。私はこれらの記事を神に感謝します。私はスミス長老に強い共感を覚え、彼の名前は常に編集長として『レビュー』誌に載るべきだと信じるのです。神もそう思っておられると思います。数年前でしたが、彼の名前が二番目に置かれた時、私は残念に思いました。しかし再び一番目になった時、私は泣いて神に感謝しました。スミス長老の右の手がペンを持つことができるかぎり、神のご計画のうちにいつまでもそうです。そして彼の手が衰えた時は、息子たちが彼の口述を書き取ればよいと思います。

私は「J・N・」ラフバロー長老が、今もその能力と賜物を神の御業に用いることができることを感謝しています。彼は、試練の嵐の中でも忠実でした。スミス長老、私の主人、また少し遅れて私たちに加わったバトラー兄弟、そしてあなた自身「S・N・ハスケル」とともに、彼はこう言うことができます。「初めからあったもの……わたしたちが見、また聞いたことを、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたも私たちとの交わりを持つようになるためです。わた

したちの交わりは、御父と御子イエス・キリストとの交わりです」(ヨハネの手紙一、一の
一―三)

『セレクトッド・メッセージズ』二卷二二四―二二六ページ

先駆者の記事の再掲載

天より受けた使命は、真実で忠実です。だれかが真理でない新しい説を持ち込もうとする
と、神の教役者たちは、これらの考えに反対するはつきりした警告を述べ、もしそれが受け入
れられたら神の民はどこに導かれるかはつきり示すべきです。現代の真理の光を受けた人々
は、たやすく欺かれたり、正しい道から異なった道に導かれたりしてはなりません。物見とし
て立てられている人々は目を広く開けて、広範囲にわたるすべての結果を見極めなければなり
ません。そうでないと、神の民を誤った道に導く重大な誤謬が入り込んでくるでしょう。……

聖霊によって神が立てられた土台から少しでも動かそうとする人が出てきたら、私たちの働

きの先駆者であつた年老いた人々がはつきり語り、また、既に亡くなつた人々も、彼らの書いた記事を私たちの雑誌に再掲載することによって語るようにしてください。神が神の民を、真理の道に沿って一步一步導かれた時に与えられた光を、集めてください。この真理は時と試練のテストに耐えるでしょう。

原稿六二、一九〇五年

非常に貴重な働き人であつたG・I・バトラー*

*バトラー長老は、一八八八年に引退し、フロリダに農場を買い、オレンジの果樹園を作りました。その翌年妻が病氣になつたのでそれから一二年間引退していて、一九〇一年妻が亡くなつた後、フロリダ年会の総理に選ばれました。翌年六八歳の時、南連合部会の総理に選ばれ、五年間その職を務めました。

「G・I」バトラー長老が再び活動的な奉仕に入られたことは、満足に思いますし、神への感謝の気持ちです。彼の白髪は、彼が試練とは何かを理解していることを示しています。私たちは、彼を再び私たちの列に歓迎し、私たちの最も貴重な働き人の一人と考えます。

この使命の初期に証をした兄弟たちが、その体力、知力、霊の力を賢く維持するよう神が助けてくださることを祈ります。主は、あなたがたに理性の力を与え、あなたがたが健康に関する法則を理解して、それに従う決心をするよう望んでおられます。これらの法則は神の法則です。神は、すべての先駆者がそれぞれの持ち場に立ち、悪の大いなる潮流によって陥っている体力、知力、霊の力の衰退から、人々を救うために、その分を果たすことを望んでおられます。兄弟がた、戦いが終わるまで武装を解かないでください。それは神の求めです。無分別にならず、過労をしないで、休息の時をとってください。

戦う教会はまだ勝利した教会ではありません。主は試練を受けた僕たちが、生きているかぎり、節制の改革を支持するよう望まれます。節制の旗印を掲げてください。人々に、すべての点で厳格に節制を守り、肉体の法則に従う擁護者となるように教えてあげましょう。神の真理に堅く立ち、「ここに、神の掟を守り、イエスに対する信仰を守り続ける聖なる者たちの忍耐が必要である」(ヨハネの黙示録一四の一二)という旗印を、人々の前に高く掲げてください。

……

年をとった指導者の何人かは、まだ生きています。私は兄弟姉妹がたが、これらの先駆者た

ちを尊敬し大事にするように、心から望みます。私たちは彼らを、試練を知った人々として紹介したいと思います。すべての信徒は、メッセージの初期に著しい役割を果たした人々、試練や困難や多くの不自由に耐えた人々を、尊敬するようにしましょう。これらの人々は、奉仕に携わって、老いたのです。遠からず彼らは、その報酬を受けるでしょう。……

主は、真理を擁護して年老いた主の僕たちが、忠誠を保って堅く立ち、原則を支持して証を立てるよう望まれます。

試練を経た神の僕たちは、困難な場所に置かれてはなりません。働きの困難な時に主に仕えた人々、貧困に耐え、教会員が少ない時真理を愛して忠実であった人々は、いつも重んじられ尊敬されなければなりません。後の時代に真理に入ってきた人々は、これらのことに注意してください。神は、すべての人がこれらの注意に心を留めるよう望んでおられます。

『セレクトッド・メッセージズ』二卷二〇六、二二七ページ(手紙四七、一九〇二年)

気品のあるように年をとる

バトラー兄弟、私たち―あなたとハスケル兄弟と私―は、気品のあるように年をとりましょう。神はあなたが、光を掲げる者として神のために立つことを望まれます。互いに励まし合いましょう。私はまちがっている人々に伝えるメッセージを与えられますが、しかしそのために、責められる人に対する関心をなくすことはありません。私は彼を励まし続けます。

「兄弟を愛し、憐れみ深く、謙虚になりなさい」。私たちは、今、今こそ、聖霊を受けることが必要です。主イエスは私たちを取り扱われるのに、多くのことを忍耐してください。私たちが互いに傷つける時、主も傷つかれるのです。「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしたことである」と主は言われます。

年をとった教役者たちを、注意深く、やさしく取り扱わねばなりません。一人でもなくすませることはできないのです。主は彼らが互いに助け合い、主にあって喜ぶことを望まれます。このような戦いの試練を受けた人々は、御事業を築き上げることに関する自分たちの経験を語り、神の民の信仰を強めなければなりません。

手紙一一一 a、一九〇四年

年をとっても証を続けること

「G・I・」バトラー兄弟、

……主に奉仕して白髪になった、年老いた戦士たちが適切な証をすることによって、信仰の若い人々が、過去にお与えになった使命は地上歴史のこの時代に非常に重要であることを理解するようになることを、私は心より希望しています。私たちの過去の経験は、その力を少しも失ってはいません。私は聖書の一点一画をも主に感謝します。私は私たちのつらい経験を、喜んで受け入れます。

あなたはあなたの力以上の働きをしてはなりません。将来において、私たちの経験は今とは違ったものになるかもしれません。しかし、あなたも私も、キリストに仕え、御旨を行って年をとり、最高の価値を持った重要な経験を得ていると思います。

主の裁きが地上に臨んでいます。私たちは、心から忠実に働き、人々が前進し向上するのを

助けるために全力をあげねばなりません。最後まで戦いを進めましょう。立ち止まっている人や、疲れている人に、励ましの言葉をかけましょう。キリストとともに歩いている時だけ、私たちは安全です。何ものにも、あなたの勇気をくじくことを許してはなりません。あなたが接触する人々が、忠誠を持って働くように、助けてあげてください。

将来、どこかの集会で、あなたに会うことができればと思います。あなたと私は、長い信仰を持ってきた最年長者です。私たちが、主にお目にかかるまで生きていなかったとしても、与えられた仕事を成し遂げ、神より与えられる品位を持って、私たちの武装を解きましょう。信仰と希望を持って、最善を尽くしましょう。こんなに長く生命を与えてくださった主に対する感謝で、私の心はいっぱいです。私の右の手は、震えないで聖書の真理を書くことができます。ホワイト姉妹の手はまだ、人々に対する教えの言葉を書くことができます、みなさんに告げてください。私は旧約歴史のもう一つの書『国と指導者』を、完成するところです。

神があなたを祝福し、希望と勇気を与えてくださるよう祈ります。

『セレクトッド・メッセージズ』二巻二二九―二三〇ページ(手紙一三〇、一九一〇年)

先駆者たちのことを忘れないように

この使命の初期に働きにつき、克己と犠牲によって前進させてきた人々を、神は祝福してこられました。彼らは学ぶべきことが多くあり、過ちもし、常に指導と助言が必要でした。しかし彼らはいつも感謝していました。それは、お金もなく設備もなくとも、働きは前進してきたからです。働きを成功させるために全力を注ぎ、働きを適切に発展させるのに必要な建物を次々と建て、そしてどんな状況のもとでも主が導いてくださいました。

あとになって働きに入った人たちは、すべての準備が整っているのを見て、主と自分たちの前に働いた人々に対する負債を払おうとする姿勢がなければなりません。そのために新しい地域に入り、すべての国民、部族、国語、民族に真理を伝えるよう努めねばなりません。すべての国で、すでに休みについた人々によって始められた働きを前進させるために、男も女も召されています。先駆者たちのことを覚え、その豊かな経験から今日の働き人たちは働きを次々

に前進させていくことを学び、神の御業の中で聖霊によって示された方法に従い、御言葉の中に命じられた原則に基づきつつ、新しい伝道地域に積極的に働きを進めていくべきです。

『世界総会公報』一九〇〇年、第三期、一六四ページ

先駆者たちの批判を避けなさい

私は神が、働きの困難であつたこの使命の初期に厳しい戦いを戦つて多くを耐え忍んだ人々に対して不平を言うような人々を、お喜びにならないことを見ました。

人数の少ない時期に、耐え難い苦しみを負つた経験のある人々を、神は心に留められます。忠実な人々を、神はねたむほどに心にかけてくださいます。神は、現代の真理を確立する働きの中で年老いた神の僕たちの、欠点をあげたり非難したりする人をお喜びになりません。

『教会への証』三卷三二〇、三二一ページ

神に選ばれ、主の戦いを雄々しく戦い、心も生活も神の御事業に注ぎ込んできた人々、信仰

のうちに眠りについた人々、私たちの罪を負い、罪を許してください。尊い救い主によってあがなわれ、大いなる救いにあずかった人々を、軽んじてはなりません。神は彼らの過ちを、悪の満ちた世の人や信仰の弱い人々の多くいる教会に示すようにとは、だれにもおっしゃっていません。

主は生きている人についても、死んだ人についても、彼らの過ちを思い起こさせる責任を、だれにも負わせてはられません。神は働き人たちが、この時代に対する現代の真理を述べるよう望んでおられます。生きている兄弟たちの過ちや、亡くなった人たちの欠点を話さないでください。彼らの欠点は、神がそれらを置かれた所に、つまり、海の深みに投げ入れておきましよう。現代の真理を信じていると言う人が、神の僕の過去の過ちを言うことが少なければ少ないほど、自分のためにも、キリストが御自分の血であがなわれた人々のためにも、良いのです。

『レビユー・アンド・ヘラルド』一八九七年、十一月三〇日

互いに励まし合う^{*}

^{*}一九一三年の世界総会に対するエレン・ホワイトの第二のメッセージより。

主に仕えて白髪となった十字架の戦士たちが、過去において主が与えられたメッセージは地上歴史のこの時代に非常に重要であることを信仰の若い人々に理解させるために、彼らがしてきた適切な証を続けてくださるよう、私は心より望みます。私たちの過去の経験は、その重要性を一点も失ってはいません。

先駆者たちを失望させたり、彼らのなすことはほとんどないなどと感じさせたりしないよう、注意しましょう。彼らの感化力は、主の働きにおいてなお、大きな影響力を及ぼすことができるのです。年老いた牧師たちの証は、教会にとって助けとなり、祝福となります。神は、試練を受けた忠実な指導者たちを、彼らが武装を解くまで、昼も夜も見守ってくださいます。

彼らは、眠ることもまどろむこともない神の保護のもとにあることが、保証されているのです。彼らは、疲れを知らない天使たちに見守られています。このことを知り、自分たちがキリストのうちにあることを自覚して、彼らは、神の摂理のうちに信頼して心を休めることができます。

今日私たちがしている働きが、人々の心に深い感銘を与えるように祈りましょう。困難は増し加わるでしょう。しかし神を信じる者として互いに励まし合いましょう。標準を下げないで高く掲げ、信仰の導き手であり、またその完成者であられる主を見上げましょう。夜眠れない時祈りのうちに心を神に向けると、神は強めてくださり、国の内外にいて神に仕えている僕たちとともにおられるという保証を、与えてくださいます。イスラエルの神は、その民を今もなお導いておられ、最後まで彼らとともにいてくださるということを悟るとき、私は励まされ、恵みを受けます。

私は、働いている兄弟がたに、次のように告げることが命じられました。あなたがたの口から出る言葉に、聖霊の力が与えられますように。私たちに、聖霊の特別な導きが必要な時があるとすれば、それは今です。全的献身が必要です。この世に対して、神の力が私たちの生活と

第1章 再臨運動の先駆者たち

働きに実証されるべき時は、今なのです。

主は、第三天使の使命を宣べ伝える働きが、ますます能率を増して前進することを望んでおられます。神は、各時代を通して神の民に勝利をお与えになったように、この時代にも、教会に対する目的が勝利ある結末を見ることを、お望みになっています。神は信仰ある聖徒たちに、一致して前進し、力より力に、また信仰より、御事業の真理と義に対するいっそうの確信と信頼とに進むよう、命じておられます。

私たちは、神がともにおられ、すべての新しい経験に対処するために力を与えてくださることを覚えて、神の言葉の原則に、岩のように堅く立つべきです。神の御名のもとに、力より力へ前進するために、生活の中に義の原則を保ちましょう。働きの初期から現在まで、神の御霊に教えられて持ち続けてきた信仰を、いとも聖なるものとして維持しなければなりません。神の戒めを守る民を通して実現し、神の恵みの力によって時とともに強力になり効率的になる働きを、非常に尊いものと考えなければなりません。敵は神の民の判断力をくもらせ、その能率を弱めようとして働いています。しかし彼らが、神の御霊の導きに従って働くならば、神は彼らの前に機会の扉を開き、古い廃墟を築き直す働きをなしとげさせていただきます。主が、忠

実な人々に最後の勝利の印を押すために、力と大いなる栄光とをもって天よりおりてこられるまで、彼らの経験は常に成長するでしょう。

私たちの前にある働きは、人間のすべての力を要求する働きです。それは強い信仰を要求し、絶えざる警戒を要求します。時々私たちが出会う困難は、失望を与える場合もあるでしょう。働きのあまりの大きさに、勇気を失う場合もあるでしょう。しかし、神の助けによって、神の民は必ず勝利します。ですから兄弟がた、あなたがたの前にある厳しい経験のために、「落胆しないでください」（エフエソの信徒への手紙三の二三）。イエスはあなたとともにおられます。聖霊によってあなたの前に行き、道を備え、すべての危険の時に、あなたを助けてくださるのです。

『セレクトッド・メッセージズ』二巻四〇六―四〇八ページ

第二章 年輩の働き人たちの有用性

年輩の働き人も奉仕を続けることができる

長年の間働いて、老年になつたので奉仕ができなくなつたと、考えないでください。私は彼らが、主の助けの証拠を持っているかぎり、使命のために立ち上がることを望みます。エドソン「エレン・ホワイトの次男」は、私たちの働きの中で長く重荷を負ってきた人々を、励ましています。老年になつて、記憶が少し弱くなつても、彼らを重んじてください。主は必ずあなたがたを祝福してください。老年になつて髪が白くなつても、もう奉仕から解放されたと

考えるはなりません。仕事を単純に進めるようにしましょう。私たちは、頼ることのできる主とともにいるのです。

手紙一〇二、一九一〇年

危機に際して年輩の働き人が必要とされる

神はこの世界に、善悪や、義と不義を識別することができる人々をいつも持っておられます。危急の際に戦いの先頭に立つように、神が任命なさった人たちがいます。危機に臨んだ時、神は昔のように必要な人々を起こされます。若い人を、年老いた指導者とともに働かせ、彼らがこれらの忠実な人々の経験によって強められ教えられるようにと、主は命じておられます。これらの人々は多くの戦いを経ており、神は彼らに、ご自分の御霊の証を通してしばしば語り、正しい道を示し、誤った道を注意されました。神の民の信仰を試みるような危険が生じたとき、このような先駆者たちは、過去の経験―同じような危機が起きた時の、真理が疑われた時の、そして神よりのものでない意見が入ってきた時の経験―を語るべきです。

このような年輩の働き人たちの経験が、今日も必要です。それはサタンが、過去において築き上げられた古い道しるべを、とるに足りないものとしてしまいうあらゆる機会をねらっているからです。私たちは、よい報告を聞いても悪い報告を聞いても真理に忠実であつた人々の経験を、必要としています。彼らはその家を、砂の上でなく岩の上に建てた人々なのです。

『レビュー・アンド・ヘラルド』一九〇三年一月一九日

彼らは他の人々を助ける方法を知っている

神の御業に尽くしつつ年をとつた指導者たちは、有用な人々です。初めの確信を終わるまで堅く持ち続けた人々は、神の御事業において、二流、三流の人々と考えられるべきではありません。せん。彼らは、年をとつて役に立たなくなつたからと、捨てられるべきではありません。神は、その御事業の中に、彼らが占めるべき重要な役割を持っておられます。キリストに学ぶことによって、彼らは豊かな経験を持っています。道をまちがえた時も、正しくされることを拒みませんでした。キリストの道からはずれた時も、キリストが再び元の道に導いてくださるこ

とを拒否しませんでした。このようにして彼らは、他の人々を助けることを学んだのです。

原稿九二、一九〇三年

神に奉仕して年老い、白髪となった人々は、これらの先駆者たちの骨折りと犠牲をほとんど知らない、経験の少ない働き人たちによって、退けられてはなりません。……このような年輩の働き人たちが、ともにいるということは、非常に恵まれているのです。そのやり方によって世の中に、善悪いづれかの影響を残すような大きく重要な仕事を、神よりゆだねられた人々は、主より教えを受けた人々に、助言を求める必要があります。

原稿一一七a、一九〇一年

老齡の働き人たちは賢明な勧告を与える

生涯の力を傾けて神のみわざと取り組んできた人々に対しては、最も心のこもった敬意を表さなければならぬ。こうした老齡の働き人は、嵐や試練の真ただ中に忠実に立ってきた。彼らは病弱になっているかもしれない。しかし彼らはなお、神のために彼らの本分を全うする

才能も資格も持っている。たとえ衰えて、若い者たちが負うことのできる、また、負わなければならないような重い責任を、負うことができなくとも、彼らが与えることのできる勧告は最も価値のあるものである。

彼らは間違いをしたこともあったであろう。しかし、失敗から彼らは、誤りや危険を避けることを学んできた。だからこそ賢明な勧告を与える資格があるのではないだろうか。彼らは試みや試練に耐えてきた。そして彼らの活力の一部は失われたかもしれないが、主は彼らを除かれない。主は彼らに特別の恵みと知恵を与えておられる。

みわがが困難なときに主に奉仕をしてきた人々、真理のために立つ者がほとんどいなかったときに信仰を持ち続けた人々は、喜ばれ、尊敬されなければならない。主は若い働き人たちに、こうした信仰の深い人々と交わることによって、知恵と力と円熟とを身につけるよう望んでおられる。そのような老練な働き人が共にいるために、大変恵まれているのだということを、若い者たちは認識しよう。若い者たちは会議の場で彼らを礼遇しよう。

キリストのみわがに一生をささげてきた人たちが、地上での奉仕を終える時期に近づくと、聖霊による感銘を受けて、これまで神のみわがに携わっていたときの経験を詳しく話すように

なる。神がその民を導かれたすばらしい配慮や、試練から彼らを救い出された神の大きな恵みの記録は、新しく信仰に導かれてきた者たちに繰り返し語られなければならない。神はこの年老いた経験豊かな働き人たちが、彼らの持ち場に立って、人々を悪の大波に押し流されないよう救うために彼らの分をなすようにと望んでおられる。神は、武具を脱ぐよう彼らに命じるまでは、武具をつけているようにと望んでおられる。

『患難から栄光へ』下巻二七七、二七八ページ

特別な恵みと知識

御事業をその初期から経験してきて年をとった人々に、そして御事業がいろいろな方面で成長するのを見守ってきた人々に、主は特別な恵みと知識を与えておられます。これらの人々を高く評価し、尊敬すべきです。過去において、彼らが御事業を前進させるためにすべてを犠牲にした事実を忘れてはなりません。彼らが年をとったことは、彼らが御言葉の研究においても信仰経験においてもはるかに少なく、キリストとその民に対するコミュニケーションの知識も

はるかに少ない人々より、大きな感化力を及ぼしてはいけないという理由にはなりません。働きにおいて重荷を負ってきたこれらの先駆者たちを、無視したり軽んじたりしてはならないことを、私は教えられました。彼らは神の働き人であり、今日も山で示された型に従って、作品を築き上げていく上で、すばらしい役割を果たしてきたのです。

原稿三四、一九〇一年

年輩の牧師たちにキャンプミーティングでの話を頼むこと

一八九〇年に、私は人々に伝えるために次の使命を与えられました。

「大会衆が集まるキャンプミーティングの時、提示すべき大切な真理を持たない若い人々に話をさせるのはまちがいです。この時代に対する真のメッセージを持たない人々によつて時間がとられています。御事業の先駆者たち―人々に与える生命のパンを持っている人々、集まっている幾百幾千の人々が必要としている大切な真理で心がいっぱいになっている人々―が座って、その時にふさわしくない若い説教者たちの話を聞いています。これでは福音使命は半

分も伝えられていません」

同じ使命を今の教会にも伝えるように言われました。年をとった牧師たちに過度な負担をかけてはなりません。彼らが教会に来た時、お話を頼むのは、いつも礼になっっています。

「兄弟、あなたは信仰において私たちより経験があります。私たちに必要な主よりの言葉をお持ちではないでしょうか」と言うことは、彼らに尊敬を示すことになります。

このような働き人たちの時間は貴重です。彼らは人々の必要とする言葉を持っています。彼らがあなたがたのところに来た時には、いつでも時間を与えてあげてください。彼らから、できるだけの助けを得るように計画してください。

多くの会衆が集まるキャンプミーティングで、一般に対するお話はなるべく、年輩の、経験ある、福音の言葉を語ることができる人がすべきです。十分吟味されていない若い人を、大会衆の前に立たせてはいけません。彼は全力を尽くすでしょうが、その言葉は、長く活動的な奉仕に携わり、神の深い事柄を理解し、それを明瞭に力強く語る白髪の人言葉ほどには、重味を持たないでしょう。

よく吟味しないで、若い人を大会衆の前に立たせるのは、その人にとっても気の毒です。聞

く人々の心にも、よい印象を残さないでしょう。

キャンプミーティングには、長い経験と最善のタレントのある人々、私たちの信仰のしつかりした理由を明瞭に説明し、次の言葉に従っている人々を呼んでください。「立って真理を帯として腰に締め、正義を胸当てとして着け、平和の福音を告げる準備を履物としなさい。なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち、神の言葉を取りなさい」

私たちのキャンプミーティングは、人々を並べて、彼らの能力を見せびらかすために開くものではありません。人々は霊的な恵みを受けるために集まるのです。その中には生命の水を求める人々がいます。彼らの渇きが止まるまで、飲む機会を与えてあげてください。神の愛に満ちたメッセージを聞かせてあげてください。円熟したタレントを持ち、神が教育し、訓練なさった人々の話を聞く機会を与えましょう。これらの人々の心は、人々の必要としている真理で満ちています。心のうちに神の言葉が燃えていて、与えられた使命を述べる機会が再び与えられないかもしれない人々が黙って座っているのに、吟味されていない人々を立てたりしてはなりません。これらの試練を経た戦士たちに、過労にならない程度に、よりよいものを与えるすべ

ての機会を提供してあげてください。彼らは、私たちの信仰の柱になっている真理を述べることができます。

若い牧師たちは、大会衆に向かって話をするように頼まれないからといって、自分たちにはする仕事がないと考えてはなりません。すべての人に、なすべき仕事があるのです。たとえば、比較的小さいテントで集会をすることもできます。いくつかのテントの人が、一つのテントに集まって、祈禱会や親睦会を持つこともできます。そのような集会において、若い牧師たちはよい奉仕をすることができるのです。要点に触れた短いお話をして、それから出席している人たちに話す機会を与えましょう。すべての教会員は、交わりの集会で神のために証をすることを学ぶべきです。

若い牧師たちは、特別な集会をして、青年や子どもたちのために働くことができますし、また彼らのための個人的な働きをすることもできます。

年長いた指導者たちは、あちらこちらを回って、各集会を訪ねるようにしましょう。教会員は彼らの長い経験から益を得ます。彼らに真理を力強く述べてもらいましょう。ただし、彼らの足が平和の福音の備えをしていることを確かめてください。真理を、人の心に悪い感情を起

こさせないよう、愛とやさしさと同情をもって述べてもらいましょう。「そこで、あなたがたに幾らかでも、キリストによる励まし、愛の慰め、“霊”による交わり、それに慈しみや憐れみの心があるなら、同じ思いとなり、同じ愛を抱き、心を合わせ、思いを一つにして、わたしの喜びを満たしてください。何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え」なさい。

教会員全体と、年の若い経験の少ない人々に、「年をとった働き人、白髪の人々、神の御業の中で長く忠実な奉仕をした人々、神の共労者として天の宮廷で認められ誉れを与えられている人々を、きちんと敬い尊びなさい」と告げるようにと私は命じられました。

手紙二五二、一九〇三年

本国の伝道には経験ある働き人が必要

ハスケル兄弟、姉妹、

……今日私は、ラフバロー長老^{*}がオーストラリアに行くことについて、彼と会って話しま

した「*この手紙が書かれた時、J・N・ラフバロー長老は六九歳であった」。本国から多くの働き人を外部に送り過ぎているように、私には思われますと、私は彼に言いました。教会は彼の働きを必要としています。私は彼が旅行を遅らせて、教会で信徒たちを励まし慰め、教会がもつと落ち着いた状態になるようにしたらどうかと勧めました。ほとんど最初のころからこの働きにかかわり、一八四四年直後のころからの経験のある、高齢で老練な働き人たちの助けが必要とされています。ヨハネのように、「私たちが聞いたもの、目で見えたもの、をあなたがたに伝える」と証することが出来る人々の助けが、私たちには必要です。

手紙一九五、一九〇一年

本国の伝道から、中年や高年の伝道者の感化を取り去って、遠い伝道地に送り、彼らが訓練を受けていない仕事をさせたり、たとえ訓練を受けていても、それに適応していけないような仕事をさせたりする余裕は、私たちにはありません。このような人々を送り出して、そのあいた場所を未経験な人で埋めようとしても、それは不可能です。

『レビュー・アンド・ヘラルド』一八八三年七月一七日

青年より老年の方が生産的

キリストの真の働き人は、たえず成長しなければなりません。その生涯の午後の太陽は、朝の太陽より円熟し、実り豊かになることができます。形も大きく、輝きも増し、そしてやがて西の丘に沈んでいきます。労している兄弟がた、本国か外国伝道地の困難な働きで死ぬ方が、なにもしないで錆びていくよりはるかにいいのです。困難に会っても氣力をなくしてはなりません。勉強もせず、向上もしないで、満足してはなりません。神の御言葉を熱心に学び、よく知らない人を教え、神の群れを養ってください。そうして心が満ちて神の言葉の倉から、新しいものも古いものも自由に取り出せるようになるのです。

あなたの経験は、一〇年、二〇年、三〇年も昔のものではなく、日ごとの生きた経験でなければなりません。そうすれば人々に時にかなった糧を与えることができます。後を見ないで前を見てください。過去の経験を語ろうとして、一生懸命に思い出そうとしないでください。それは今日、あなたにとっても他の人にとってもどんな意味があるでしょうか。過去のよ

い経験を大事にすると同時に、より輝いた新鮮な経験が欲しいと思いませんか。過去に行ったことを誇るのではなく、今日できることを示してください。あなたの働きや言葉で誇るのではなく、

「主の家に植えられ

わたしたちの神の庭に茂ります。

白髪になってもなお実を結び

命に溢れ、いきいきとし

述べ伝えるでしょう

わたしの岩と頼む主は正しい方

御もとは不正がない、と」(詩編九二の一四―一六)

という神の約束を証明してください。常に活動することによって、あなたの心と知力を若く保ってください。

能率は常に増加する

五〇歳か六〇歳になった牧師たちは、仕事の能率が前より悪くなってきたと感じるべきではありません。年をとり経験のある人々こそ、きちんと方向づけられた、ゆるぎない努力をすべきです。そういう人々が今、特に必要な時期です。教会はそういう人々を失うわけにはいきません。彼らは、肉体や精神の衰えを語ったり、自分たちが役立つ時代は過ぎたと感じたりしてはなりません。

彼らの多くは、厳しい精神的緊張に苦しんでいるのに、それを肉体的な運動によって和らげることをしていません。その結果、彼らの力は低下し、責任を回避する傾向が出てきます。彼らに必要なのは、もっと活動的な労働です。このことは、時とともに白髪になった人たちだけのことではありません。若い人たちでも同じ状態に陥り、知力的に弱くなっています。彼らは型の決まったお話のリストを持っていますが、その範囲を越えると、お話ができなくなってしまう。

馬に乗って、信者を訪問するのに、多くの時間を費やしていた昔の牧師は、体の運動をできるだけ避けて、本ばかり読んでいる今日の牧師より、いろいろ困難や風雨にさらされていたにもかかわらず、はるかに健康でした。

年齢と経験を積んだ牧師たちは、神に用いられる僕として、仕事も常に能率よくして毎日前進し、人々の前に提示する新鮮な材料を絶えず集めることを、自分たちの義務と考えなければなりません。福音を解説する努力は、いつも前進し続けていなければならないのです。年々信仰は深くなり、心はやさしくなり、霊性は深く、聖書の知識は徹底していきます。年齢が進み経験を積むにつれて、人々のことがより完全にわかるようになり、彼らの心により近づくことができるようになるのです。

だれが反対しようとも、正しいことを主張することを恐れない人々が必要とされています。彼らは廉潔で、試練に耐え抜いた勇気の持ち主でなければなりません。教会はこのような人を必要としています。神は彼らとともに働いて、福音事業の各分野を支えてくださいます。

最後の日々が最善であるように*

*オーストラリアで医療施設を指導していた六八歳の老医師に宛てて書かれたもの。

人をいらいらさせたり、怒らせたりする言葉を、出さないようになさい。主は、あなたが品性のすべての点を守るように望んでおられます。人々に真理と健康改革の知識を伝えることで、あなたは人々の祝福となることができます……。

主はあなたを愛しておられ、与えられた仕事を、力強くなすよう望んでおられます。人々に語る時、何か独創的な新しいことを述べようとしないでください。実際的なことを、要点に触れて、短く語りなさい。そうすれば、飢えた魂を養うことができます。

真理を長く知っている私たちは、老年になったら、心も働きの方法も、円熟したいものです。第三天使の使命の、単純な、しかし重要で意味の広い真理を理解し、神の愛のうちにこれらの真理を受け、そして人々に分け与えたいものです。

親愛なる兄弟、あなたは声を訓練するには年をとりすぎていると感じる必要はありません。

あなたの声は低すぎます。音を出すとき、口を開き、腹部の筋肉を使ってください。現在あなたは、明瞭に話すことを学ぶのにとってもよい立場にいます。働き人たちに話すとき、呼吸を深くし、声の調子はゆとりがあつて、よく響くようにしてください。そうすれば健康にもなりま

す。話し方もよくなり、人々を助けようとするあなたの努力も成功するでしょう。……

主はあなたをお見捨てになつてはいません。主はあなたが恵みに成長し、人々を助ける力が増すことを、望んでおられます。しかし、彼らに興味を持たせようと思うなら、要点に触れた話し方をし、自分では半分話したと思う前にやめなければなりません。

年老いた信者の一人でも、感化力と能率が落ちていると考えることは、私には耐えられませんが、主はあなたが、全力をあげて主と協力するよう望んでおられます。あなたが喜んで主と一つになれば、あなたの最後の日々は、最も輝いた、最善のものとなるでしょう。私がさしあげた注意を、心に留めてください。真理のはつきりした線に沿って語ってください。聞く人たちがよく聞こえるようにと、あなたが本気で努力するなら、それはあなたの健康にも益となります。話し方を改善することは神から与えられた義務です。決心してやればできるのです。

第三章 年輩者と若者の交わり

神の共労者たち

子どもたちは、お年寄りや苦しんでいる人たちに同情を寄せ、貧しい人や悩んでいる人たちの苦しみの軽減に努めるよう、教育されねばなりません。また伝道の働きに熱心で、小さい時から、他の人たちのため、またキリストの御事業進展のために、克己と犠牲の精神が植えつけられ、神の共労者となるように教えられねばなりません。

『教会への証』六巻四二九ページ

ほとんど経験のない多くの青年が前面に出てきて、お年寄りや役職者に対する尊敬もなく、

忠告や譴責を受けると怒ります。こうした尊大な青年たちが、私たちの間にはすでに多すぎるほです。神が求めておいでになるのは、謙虚で、静かな、真面目な青年や、原則に関してバランスのとれた考えを持ち、語ること祈ることもでき、お年寄りの前では起立し、白髪の人たちを敬意を持って取り扱うことができるような、熟年の人々です。

『レビュー・アンド・ヘラルド』一八八三年十一月一日

神はまた特に年老いた人々に対してやさしい尊敬を示すようにお命じになる。「しらがは栄えの冠である、正しく生きることによってそれが得られる」と神は仰せになっている。それは戦いを戦い、勝利を勝ち得、重荷に耐え、誘惑に抵抗したことを物語っている。それは休息に近づく疲れた足、まもなくあく座席を物語っている。このことを子どもたちに考えさせる時、彼らは礼儀と尊敬をもって年老いた人々の道を和らげるであろう。「あなたは白髪の人の前では、起立しなければならない。また老人を敬い、あなたの神を恐れなければならない」との命令を心に留める時、彼らの若い人生には恵みと美がもたらされるであろう。

年長の牧師は若い働き人を教育しなければならない

神は高齢の僕たちが、若い人々に対する相談役として行動し、危急の際いかにすべきかを教えるよう求めておられます。老年の働き人は、ヨハネのように、実際経験の生きた証をすべきです。そして、これらの忠実な働き人が、「主に結ばれて死ぬ人は幸いである」(ヨハネの黙示録一四の一三)という言葉をもって休みにつく時、私たちの学校には、真理の旗を取って、これを新しい場所に掲げる男女が、見いだされねばなりません。

年長いた指導者たちが、伝道地で働いている時、彼らの働きで益を受けた人々は、彼らを大事にし、尊敬すべきです。重荷を負わせて彼らを倒れさせてはなりません。彼らの助言勧告を感謝しなさい。働きの重荷を負ってきた父や母として、大事にしてあげてください。過去において、働きの必要を予見した人々が、すべての重荷を自分で負う代わりに若い男女の肩に負わせ、エリヤがエリシャを教育したように教育したのは、貴い働きです。

ダビデは神より受けた教えや指導に対して、感謝を捧げました。「神よ、わたしの若いとき

からあなた御自身が常に教えてくださるので」(詩編七一の一七)と彼は言っています。この使命の歴史において、当時のいちばん重い苦勞を背負った人々には、彼らの若い時に、「わたしの軛を負い、わたしに学びなさい」(マタイ一の二九)と招いて真理の光を与え、教えてください。くださったその主が、今日も同じように若い男女を喜んで教えてくださるということを、覚えてはなりません。

重荷を負ってきた人々が退いて、しばらく休むことは、賢いことです。忠実な働き人は、過酷な重荷から解放されねばなりません。教育者として彼らがなすことのできる働きを正しく評価しましょう。人々の心に触れようとする彼らの働きに、主御自身が協力してください。重荷との格闘は若い人たちに譲るべきです。また将来の働きは、強壯な青年たちがしなければなりません。働きは、信仰の導き手であり完成者である神の支配のもとにあります。神は機会を持っている人に、それにふさわしい力を与えることができ、また実際に与えてくださいます。神は神の戦いを戦うことができる人を起こしてください。神が御事業をなりゆきにまかせられるようなことは決してありません。この働きは偉大で、厳粛なものであり、前進しなければならぬのです。

第3章 年輩者と若者の交わり

神の御事業の先駆者たちが重荷を負って、残っている力を使い果たしてしまうのは、神の御旨ではありません。若い人たちが、負うことのできる責任を負い、信仰のよき戦いを雄々しく戦うべきです。主は、働きに関心を持っているどんなに賢い人よりも、だれを神の御業に選ぶべきかをよく知っておられます。聖霊を若い人々の心に送り、神のために恐るべき敵と戦うように導かれるのは神です。このようにして神は、タルソのパウロが天より示された真理のために、与えられたタレントのすべてを用いて、彼を支持すべきであつた背教者たちと戦うように、聖霊を与えられたのです。神の僕たちは今日も、パウロと同じ困難に出会うでしょう。あの人々はこのような経験を経て、今日真理の旗を掲げています。真理の擁護に立つことが出来るのは、このような人々です。いつも学び続ける者であるなら、神はその律法を擁護するために彼らをお用いになることができます。

年をとった働き人たちは、すべての責任すべての重荷を自分たちが負わねばならないと考えるだけでなく、新しい伝道地が絶えず開かれています。若い人たちは、聖書をよく理解し実行して真理を実際生活に取り入れ、日ごとにキリストに頼り、ダニエルのように主に頼つてきた経験ある働き人たちと、一つになつてください。ダニエルは一日に三回神に祈りを捧げまし

た。彼は、力強い助言をくださる方が知恵と力の源であることを知っていました。イエスにある真理はもろ刃の御霊の剣であり、それがダニエルの戦いの武器でした。

言葉においても精神においても原則においても、神に信頼してきた人々は、ともにいる若い人々の模範です。このような忠実な神の僕たちは、彼ら自身もキリストの愛のきずなによって若い人々に引き寄せられているので、同じ愛のきずなで彼らと結ばれているのです。

『セレクトッド・メッセージズ』二卷二二七―二二九ページ

年長の働き人は若い働き人を励ます

主はその民が絶えず前進することを望んでおられます。主は若い人々が、聖霊に満たされ、よいをつけ、積極的に戦うことを喜ばれます。若い男女が、彼らの能力をできるだけ働かせ、そのタレントを最大限に伸ばし、「あなたは、年が若いいうことで、だれからも軽んじられてはなりません」という言葉を忘れないように、彼らを常に励ましてください。彼らが言葉や行動で決して誤りを犯さないとは私たちは思いません。しかし、彼らが主の叱責に注意を

第3章 年輩者と若者の交わり

払い、すべての過ちを正していくなら、彼らは進歩を遂げていきます。

神が御事業のために若い人々を起こされるとき、真理の知識が増すにつれて彼らが主を恐れる者となるのを見て、私たちは喜んでいきます。このような人々は、神とその聖なる御業に対する崇敬の念を増していきます。

年長の働き人は若い働き人を励ましなさい。決して軽んじたり、みくびったりしてはなりません。

毎日、若い学生教師は新しい知識を蓄えていきます。理解力も啓発されていきます。彼は、「わたしの目の覆いを払ってください。あなたの律法の驚くべき力にわたしは目を注ぎます」と言うことができます。神の慈しみと偉大さを感じて、彼は子どものように神に従い、喜んでお仕えるようになります。

このような教師たちは、年輩の教師たちの前で感じがちな抑圧を感じることはありません。彼らの心は神の愛に輝いています。生徒たちはその精神をつかみ、心の扉は天に向かって開き、感謝の歌が、神の愛とともに心に燃えて、昇っていきます。教師も生徒も、神のみかたちと一つになりたいという、心からの願いを持って、自分たちの義務を学ぼうとする時、利己的

な意志から来る頑固さに打ち勝つ力を与えられます。

完全に悔い改めて教育の仕事に携わっている青年男女の中に、本当の知恵を見ることができません。彼らが神にすべてを捧げる時、神のことをますます深く学ぶのです。……

私たちは年老いた教師を、過小評価したりしません、年長の教師も、若い教師も、神のために働くよう励ましたいのです。ただ私は、学校は最も年長で経験のある教師でなくても十分運営できるということを、示したいと思うのです。

神は若い謙虚な人を通してお働きになることができます。若い人がそうするのを禁じてはなりません。キリストに従う若い人々は、「キリストの愛が私たちを駆り立てている」と言うてください。キリストの恵みの力をもって人の心に働きかける時、この愛がすべての障害や垣根を取り払い、魂に拒むことのできない感化を与え、自分をまったく神に捧げるようにと導くのです。

兄弟、あなたの言動が、最善を尽くしている人々や成功を収めている人々の手を弱めることがありますように。

エリとサムエルの間の温かい友情

サムエルの生涯は、子どもの時から敬虔と献身の生涯でした。若い時エリのもとで指導を受け、その愛すべき品性のゆえに、年とった祭司の温かい愛情を受けるようになりました。彼は親切で心が広く、勤勉で従順であり、礼儀正しい人でした。青年サムエルと、祭司の息子たちの生活は、著しく対照的で、エリは、サムエルを預けられたことに心のやすらぎと慰め、祝福を感じていました。国の中心的な指導者であったエリと、ほんの小さい少年との間に、温かな友情が存在したことは、珍しいことでした。サムエルはよく手助けをし、愛情深く、そしてエリはどんな父親よりもやさしく、この若者を愛したのです。エリが老いて弱くなってきた時、自分の息子たちの、がっかりさせるような無謀で不品行な生活に失望し、サムエルに慰めと心の支えを求めたのでした。

青年と老人が支え合い、青年は老人に助言と知恵を求め、老人は青年に助けと同情を求める姿は、何と心打たれる光景でしょう。しかし本来こうあるべきなのです。青年が老人との友情

を喜ぶような気持ちを持ち、墓に近づいている人々と愛のきずなで結ばれるのは、神のお喜びになることです。

『サインズ・オブ・ザ・タイムズ』一八八八年一月一九日

テモテとテトスを訓練したパウロ

パウロは若い人々を福音使命のために教育することを、自分の仕事の一部と考えました。彼らを伝道旅行に連れて行くことによって、後に責任の一部を担うことができるような経験をさせることができました。彼らと別れた後も、彼らの働きとの接触を保ちました。テモテ及びテトスへの手紙は、彼がいかに深く二人の成功を望んでいたかを示しています。

「多くの証人の前でわたしから聞いたことを、ほかの人々にも教えることのできる忠実な人たちにゆだねなさい」とパウロは書きました。

パウロの働きの特徴は、今日の伝道の働きにも重要な教訓を与えています。経験ある働き人は貴い働きができますが、すべての重荷を全部引き受けるのではなく、若い人々を訓練し、重

荷を彼らにも負わせます。御事業における経験を積んだ人たちが、若い人々を、神に対する奉仕のために訓練することを、神は望んでおられます。

若い働き人は、自分を監督する人の考えや意見にまったく包み込まれて、自分の個性を捨てたりしてはなりません。自分を指導している人のために自分の独立性を失い、自分の判断を捨てて、善悪についてただ言われた通りにするようになってはならないのです。自分で大教師イエスに学ぶことは彼の特権であり、いっしょに仕事をしている人が、「主がかくいわれる」ということと調和しないことをする時には、部外者のところに行くのではなく、上級の責任を持つ人のところに行って、彼に事情を話し、自分の考えを自由に述べるべきです。このようにすれば、学ぶ者は教える者の祝福となることができます。

『福音宣伝者』へ英文＜一〇二、一〇三ページ

第四章 老年の親に対する子どもの責任

その義務はいつまでも続く

両親を敬うよう子どもたちに負わせられた義務は、一生継続するものである。両親が年老いて弱っているなら、子どもたちは父母の必要に準じて愛情と配慮を与えなければならない。両親の心から不安と当惑の念をすべて取り去るためには、もしそれが自己犠牲を必要としても、子どもたちは雄々しく断固として自分たちの活動の方法をかえなければならない。……

子どもたちは父母を愛し、やさしくいたわるよう教育しなければならない。子どもたちよ、

あなたは自分の手で父と母を世話しなさい。なぜならそうすることができの喜んで、小さな親切の行為をすることができる手はほかにはないからである。親切の種をまく貴重な機会を活用しなさい。

『アドベンチストホーム』四〇五ページ(英文三六〇ページ)

正しくない両親にも親切を示すこと

かりに子供が少年時代にきびしい扱いを受けたと思っても、親に対し、ことに彼らが年をとって弱くなっているときに、報復や復しゅうの精神をいだくことは、彼らがキリストの恵みと知恵に成長するのに役立つだろうか。それは彼らに神のみかたちを反映させるだろうか。両親の無力そのものが子供の愛を受けなければならないことを示していないだろうか。年老いた父や母の窮乏が心の崇高な感情を呼びささないだろうか。そしてキリストの恵みによって親は彼らの子孫からやさしい思いやりと尊敬をもって扱われないのだろうか。ああ、どうか父や母に対して心を鉄のように固くしないでほしい。キリストのみ名を公言するむすめがどうして母

親に対し、特に病気で年老いた母親に対して憎しみをいだくことができよう。どうか子供は親に対してクリスチャン生活の最も美しい実であるやさしさと愛とを心に宿してほしい。

特に恐ろしいのは、年老いて弱くなり、第二の子供時代に附随するそれらの弱い性質の出てきた母親に子供が憎しみをいだくことである。子供はそのような母親をどんなにか忍耐深く、どんなにかやさしく許すべきではないだろうか。彼らは心をいら立たせないようにやさしくこゝとばをかけなければならない。真のクリスチャンは決して不親切であつたり、どんな事情のもとにあつても父や母をおろそかにすることなく、「あなたの父と母を敬え」との戒めを心に留めなくてはならない。神は言われた、「あなたは白髪の人の前では、起立しなければならない。また老人を敬い……」と。

子供らよ、弱くなつて自分の世話もできなくなっている両親の晩年を、満足と平安と愛に満ちたものにしてあげなさい。あなたはキリストのために親切と愛といつくしみと寛大なことばだけをかけて、親を墓に下らせてあげなさい。

『アドベンチストホーム』四〇七、四〇八ページ(英文三六〇―三六三ページ)

老後の親の世話は特権である

子どもに父母を敬うことを教える最善の方法は、父が母にやさしい心づかいを示し、母が父に愛情のこもった尊敬を表すのを見る機会を、彼らに与えることです。両親の間の愛を見ることによって、子どもは第五条の戒めを守るようになるのです。

自分たちが成人してしまうと、両親に住む家を備えることで、自分たちの義務はすんだと考える子どもたちがいます。食物と住居を与えるだけで、愛も同情も与えません。両親が高齢になって、愛情や同情が示されるのを願う時に、子どもたちは無情にも両親を顧みなくなってしまうのです。子どもたちが両親に対する愛と尊敬を表さなくてもよい時などないのです。両親が生きている間、彼らを尊敬することは、子どもたちの喜びでなければなりません。子どもたちは年をとった両親の生活に、できるだけ気持ちよさと明るさをもたらすべきです。晩年の道を滑らかにしてあげましょう。親を敬い大事にしてきたということは、子どもにとってのいわば最高の推薦状です。天の記録の書にも、父と母とを愛し敬ってきたということほど、よい

第4章 老年の親に対する子どもの責任

記録はないのです。

年をとった両親は、最も恵まれた状態でも、喜びや楽しみはあまりないということ、子どもたちは忘れてはなりません。子どもが大事にしてくれないということほど、親の心に悲しみを与えるものはないのです。年をとって、何もできない両親を悲しませることほど悪い罪が、他にあり得るでしょうか。年老いた両親を悲しませる人は、戒めを破った者、天の神を尊ばない者と記録され、その悪い道を悔い改めて離れないなら、彼らは聖徒の嗣業を継ぐ資格がない者となってしまうでしょう。……

両親を助け慰めたという思いは、子どもたちにとって一生涯満足な思いとなり、彼ら自身が同情と愛を必要とする時に、特に喜びを与えるでしょう。心が愛に満たされた人は、その両親の晩年の道を滑らかなものにしてあげて、計り知れない大きな特権と考えるでしょう。彼らは、愛する両親のこの世での最後の日々に、慰めと平安を与える助けができることを喜びます。子どもとして両親を助けず、何もできなくなった年老いた両親に親切に仕えないなら、私たちの心が石のように堅く冷たいものでないかぎり、あとで必ず自責の念にかられ、後悔することでしょう。

両親に対する義務はいつになっても続くものです。彼らに対する私たちの愛や、私たちに対する彼らの愛は、年月がたとうが、離れた所にいようが、変わるものであってはなりません。私たちの責任は決して無視できるものではないのです。

『レビュー・アンド・ヘラルド』一八九二年一月一日

きわめて重要なこと

あなたは両親に対して当然持つべき愛を持っていないということを、私は示されました。あなたの性質の中にある悪が、異常なほど働いています。あなたは両親に対してやさしくなく、尊敬の念を持っていません。彼らにどんな欠点があったとしても、あなたの態度は許されるものではありません。あなたの態度は冷酷で無礼です。天使たちは、「あなたのまるところは、刈るところとなる」と言って、悲しんで顔をそむけています。時がたてば、あなたはあなたの両親があなたから受けたのと同じ取り扱いを、子どもから受けることになるでしょう。あなたは、どうしたら両親を幸福にすることができかを考えてきませんでした。また、そのために

自分の希望や楽しみを犠牲にするということをしてきませんでした。両親の地上における日々は、あといくらかありません。あなたが、彼らの最後の日々を問題のないものとするために全力をあげたとしても、なお彼らには心配や困難があるのです。

「あなたの父母を敬え。そうすればあなたは、あなたの神、主が与えられる土地に長く生きることができ」。これは約束を伴った最初の戒めです。これは子どもも青年も、中年も老年も守らなければならない戒めです。人生のどの時期においても、子どもが両親を敬わなくてよい時などないのです。この厳粛な義務は、すべての息子、娘が守るべきものであり、神が忠実な人々にお与えになる土地において、長く生きる条件の一つなのです。これは無視すべき問題ではなく、重要な意味を持っています。約束は服従が条件です。これに従えば、神がお与えになる地において長く生きることができ、従わなければ、かの地で長く生きることとはできないのです。

『教会への証』二巻八〇、八一ページ

第五章 お年寄りの世話

施設は最上のプランではない

人々を雇い、彼らの時間とタレントを用いることによって、お年寄りや孤児たちを集めた上でその食事や衣服の世話をさせるということは、すべきではありません。それは、こうしたことを取り扱う最善の方法ではないのです。

また、年をとった男女がいっしょに住むために建物を建てることも、最善の方法ではありません。彼らが助けを受けられるそれぞれの場所で、助けを受けられるようにしてあげてください。

い。親族の人が、貧しい親族を助け、教会は教会の中の困っている人を助けるべきです。これこそ、神が教会に望んでおられる働きで、そうすれば神の祝福を受けるでしょう。

『福祉の奉仕』へ英文へ 二三八ページ

家庭のない年老いた男女の世話をすることは、いつもその必要を訴えられる問題です。彼らのためにどんなことができるでしょうか。主が私にお与えになった光は、一度ならず繰り返して示されました。年をとった人々の世話をする施設を作り、彼らをいっしょに生活させることは、最善の方法ではありません。また、家庭を離れて世話をされることも、最善の方法ではないのです。おのあの家庭で親族の面倒を見るようにしてあげてください。それができない場合は、教会の仕事となります。教会はそれを義務また特権として受けなくてはなりません。

『教会への証』七巻一七二ページ

九時に私たちは、いつも必要を訴えられている問題、家庭のないお年寄りたちについて相談するために、何人かの兄弟たちと大きいテントに集まりました。彼らのためにどんなことがで

きるでしょうか。

主が私に与えられた光が繰り返されました。各家庭が自分の親族の面倒を見、彼らのために適切に必要な備えるということです。それができないときは、教会が重荷を負わねばなりません。慈善の行為を実行すれば、神が教会を祝福してください。貧しい人も神のもので。不幸な、不自由な状態に放置しておいてはなりません。

教会にそれができないときは、年会がその問題を取り上げ、主のものである貧しい人々の必要を満たすべきです。

『セレクトッド・メッセージズ』二卷三三一ページ

友人たちの間に留まるべきこと

老年者もまた家庭という有益な感化が必要である。自分自身の家庭を失った損失は、キリストを信ずる兄弟姉妹の家庭でたいい補われるものである。老人に家庭の興味と仕事を分担するように仕向けると、自分はまだ役にたつという気持ちを起させる。老人の助けは価値があると

いうことを知らせ、他の人々のために働く仕事はまだあることを感じさせるならば、老人の心に喜びを与え、生活に興味を起させるものである。

頭が白くなり、足どりが弱まって、墓場に近づいていることがわかる老人は、できるだけ友人や親しい者の間から離さぬようにし、よく知っている者、愛する者と共に礼拝をさせ、愛と優しい手をもって保護すべきである。

できるだけ家族も自分自身の親類のめんどろをみることを特権としなければならない。しかし、それが不可能であるときはその仕事は教会のものとなり、義務であるばかりでなく特権として受け入れられる性質のものである。キリストの精神を持つ者はすべて、力のない者や老年者に対して優しい気持を抱く。

こうした無力な人が自分の家庭にいることはキリストと協力してあわれみの働きをし、キリストのような品性を養う貴重な機会である。老人と青年がまじわることには祝福があり、青年は老人の心や生活に光明を与える。生命力が衰えていく人々は、青年の希望に満ちた精神や快活な性質に接して、そこから力を受ける必要がある。また青年は老年者の知恵や経験から役にたつものを得るであろう。しかし、何よりもまず青年は無我の奉仕を学ばなければならない。

同情と忍耐と犠牲を必要とする人が存在することは、多くの家庭にとって無限の祝福であり、家庭生活を美しく、いっそう、りっぱなものにする。そして、神の美を与え、天の不滅の宝に富む者となるキリストの恵みを、老いたる者にも若い者にももたらすのである。

『ミニストリー・オブ・ヒーリング』一八一、一八二ページ

エレン・ホワイトの、両親に対する世話*

*エレン・ホワイトの両親であったロバート・ハーモンとユニス・ハーモンは、ミシガン州バトルクリークのウッド・ストリートにあったジエームズ・ホワイトとエレン・ホワイトの家に同居し、後に隣の家に移りました。道を隔て、ジエームズ・ホワイトの両親の家がありました。ディーコン・ジョン・ホワイトとその妻の家です。ジエームズとエレンは、これら信仰深い人々の必要にこの上なく心を配りました。この四人の両親はみなアドベントの信仰を受け入れました。

私の子どもたちはいつものように元気です。父と母は、私たちといっしょに住み、満足で幸福なように思われます。彼らは自分の部屋を掃除し、食事はいっしょです。私は二人の子どものようになつた年寄りを自分で見ていられるので、いろいろな心配から解放されています。母

は私の希望通りに、すべてを指図通りにやってくれます。私が母の着つけをきちんとし、髪を整えると、上品で尊敬すべき老婦人のように見えます。父もすべての点で、私たちを満足させようと努めています。私たちが父の身なりを整えると、父はとても立派に見えます。

ご家族の皆様、特にご両親にどうぞよろしくお伝えください。もっとお手紙をください。失望や疑いに陥らないでください。上を見上げ、元気を出してください。そうすれば神は私たちを勝利に導いてくださいます。

手紙二七、一八六一年（ルシнда・ホール宛）

かつての義理の兄弟に対する助け

愛するステファン・ベルデン兄弟・姉妹^{*}

^{*}ステファン・ベルデンは、サラ・ハーモンと結婚しました。彼女はエレン・ホワイトの姉妹です。フランク・

E・ベルデンは彼らの子どもで、よく知られた賛美歌作者でした。サラは一八六八年に亡くなりました。これらの手紙が書かれた時、ステファンは三度目の妻とオーストラリアの北東部にあるノーフォーク島に住んでいました。

私は決してあなたがたを忘れてはいません。あなたがたがノーフォーク島で良きことができるように、主が道を開いてくださることを私は祈っています。時々若干のお金を送るようになります。米国に来てから送ったものは皆、利子を払って借りたものです。しかし私が生きているうちは、あなたがたの面倒を見ます。神様があなたがたに平安と慰めを与えてくださいますように。神は私たちの唯一の希望であり助け主です。できるだけたびたび手紙をくださるとうれしいです。私もできるだけたびたび書きます。手紙が書けないときは、だれかを通して連絡します。この便に、私がオーストラリアの兄弟たちに書いた手紙の写しを同封します。

手紙一四六、一九〇二年

私は数百ドル、ステファン・ベルデンに送りました。彼とその妻が、食べ物や着物のことで苦しむのを見ていられなかったからです。私は彼らのノーフォーク島往復の費用も支払いまし

た。

手紙二五八、一九〇三年（ルシンダ・ホール宛）

あなたがたに興味があると思われる手紙の写しを送ります。あなたがた二人と話すことができたらどんなにいいでしょう。あなたがたにお尋ねしたいことがあります。オーストラリア連合年會からあなたがたに毎週二ドル送るように手配したのですが、あなたがたは、受け取っていますか？このことについて知らせてください。ヒンドソン兄弟は、入金は普通オフィスの帳簿のあなたの口座に記入されていて、オフィスに何か品物を注文すればそこから支払いがなされているとおっしゃっています。あなたがたに直接お金を送ったほうがいいでしょうか。もしそうなら、そのことを知らせてください。そうしますから。

私はオーストラリアを去る前に、あなたがたが毎週一定額のお金を受け取るよう手続きをしました。兄弟がたは、私が依頼した通りにすると約束しました。あなたがたの事情を知らせてください。もし私が手配したことが実行されていなければ、私はもう一度手紙を書きます。私はあなたがたが食物や衣服が足りなくて困ることがないようにしたいのです。

フランクがあなたがたにあまり手紙を書かないのは、いいことではありません。彼が手紙を書かないことも、経済的援助をしないことも、とても残念に思います。あなたがたが自分たちの状況を知らせてくだされば、私が生きているかぎり、困るようにはさせません。あなたがたの子どもたちが義務を果たさなければ、あなたがたの足りない分は私が補うように努めます。私自身二万ドルに対する利子を払っている身ですが。

便があるたびに手紙をください。この前の手紙で、あなたがたがアメリカに来ることについてのお尋ねに答えておきました。私はこのことの決定に責任をとりたくはありません。あなたがたがいいと思うようにしてください、また、あなたがたの友人たちが決めるようにすることもできます。私の年ではこれ以上の責任はとれません。私は神の御事業に関して非常に重い責任を持っています。毎朝一時か二時に起きて、大事な事柄を書いているのです。

手紙四一、一九〇五年（ステファン・ベルデン夫妻宛）

オーストラリアに行くどの便にも、ステファン・ベルデンへの手紙を入れ、それに私が他の人々に書いた手紙の写しを添えています。私が一つでも手紙を出し損なうと、彼はとても気に

します。私は今、できるだけものを彼に送っています。というのは、どの便であれそれが、私が彼に送ることのできる最後のものとなるかもしれないからです。かわいそうに、彼はがんで死に瀕しています。そして私はこんなに遠く離れているので、彼を助けることができません。しかし私は彼に手紙を書き、また彼のために祈ることができます。

手紙三四八、一九〇六年

ステファン・ベルデンの未亡人への慰め

気の毒なステファンは、ひどく苦しんだに違いありません。しかし最期が静かに来たことは感謝です。彼について次の言葉があてはまります。「ここに、神の掟を守り、イエスに対する信仰を守り続ける聖なる者たちの忍耐が必要である。また、わたしは天からこう告げる声を聞いた。『書き記せ。「今から後、主に結ばれて死ぬ人は幸いである」と。』“霊”も言う。『然り。彼らは労苦を解かれて、安らぎを得る。その行いが報われるからである。』また、わたしが見ていると、見よ、白い雲が現れて、人の子のような方がその雲の上に座っており、頭には金の

冠をかぶり、手には鋭い鎌を持っておられた。すると、別の天使が神殿から出て来て、雲の上に座っておられる方に向かって大声で叫んだ。『鎌を入れて、刈り取ってください。刈り入れの 때가 来ました。地上の穀物は実っています』(ヨハネの黙示録一四の二二―一五)

これらの場面は間もなく現実のものとなり、「今から後、主に結ばれて死ぬ人は幸いである」という御言葉の意味が、よくわかるようになるでしょう。

あなたは今、ステファンがすべての苦痛から自由になったことを喜んでいいのです。もう彼のために心配する必要はありません。

オーストラリアの兄弟たちが、あなたを忘れていないこと、また、島に留まるにしてもほかの友だちのところに行くとしても、あなたの世話をすると約束したことを知って、私は喜んでいきます。神があなたを祝し、強め、長い間の緊張から回復するのを助けてくださいますように。ノーフォーク島から出るすべての便で、手紙をくださるようお願いします。

手紙三九三、一九〇六年(ビナ・ベルデン夫人宛、一九〇六年十二月一六日)

老年の働き人たちのための資金^{*}

^{*}このメッセージが出されて九年後の一九一一年に、高齢や病弱の牧師たちの世話をするための資金が作られました。年月がたつとともに、この年金計画は拡大し、引退した広範囲の教会の働き人たちに対する経済援助ができるようになりました。

御事業のため危険に身をさらし、過労のために病気になり、休息や回復が必要になった牧師やその他の神の忠実な働き人、また、年をとり、健康を損ねて、働きの重荷を負えなくなった人々に対して、何らかの備えが必要です。

牧師はしばしば、健康によくない場所で働くことを命ぜられることがあります。そして彼らは、難しい場所を避けることを好まず、また人々の助けと祝福になることを願って、あえてその任命を受けます。しばらく働くと、健康が損われてきていることに気づくのです。違った気候の場所に移したり、仕事を変えたりしても、治らない時は、どうしたらいいのでしょうか？

キリストのためにこの世の有望な仕事を捨て、快楽や富より貧困を選び、自己を捨てキリス

トのために魂を獲得しようと熱心に働いてきた人々、いろいろな働きを前進させようと御事業のために多くの献金をし、その戦いで倒れ、疲れて病氣になり、生活にも事欠くようになった人々が、貧困や苦痛の中で戦っているのをそのままにしておいたり、あるいは、彼らは生活保護者だと考えたりしてはなりません。働き人が病氣になったり体が弱くなったりしたときに、「私が働けなくなつて、妻や子の必要を支えることができなくなつたら、彼らはどうなるのだろう」と、心配させるようなことがあつてはなりません。これらの忠実な働き人や彼らの扶養家族の必要のために備えをすることは、当然のことです。

国家のために戦つた兵士のためには、十分な備えがなされています。彼らは、危険な戦いを経験し、強制的に前進させられ、嵐にさらされ、牢獄で苦しみました。そのことを示す傷や生涯続く疾患を背負っています。彼らの忠誠と犠牲を示すこうした証拠のゆえに、彼らは自分たちが救つた国家に対して、正当に要求をすることができのです。その要求は認められ、かなえられます。しかし、セブンスデー・アドベンチストは、キリストの戦士たちのためにどんな備えをしてきたでしょうか？

教会員はこの問題の重要性を感じていないばかりか、おろそかにしています。教会には思い

やりがありません。神の言葉の光がその道を照らしているのに、この最も神聖な義務をおろそかにしています。主は、ご自分の忠実な僕たちに対するこの無視を、たいへん不快に思っております。教会員は、彼らが健康であった時に彼らからの資金や奉仕を喜んで受けたように、今彼らが逆境の時には、同様に喜んで助けるべきです。

神は、私たちのうちの貧しい人々に特別な注意を払う義務を、私たちにお与えになりました。しかしこれらの牧師や働き人たちを、貧しい人々と同じに考えてはなりません。彼らは朽ちない宝を天に積んできたのです。彼らは年会の必要にこたえました。今度は年会が彼らに奉仕すべき時です。このようなケースが持ち出されたとき、それを避けて道の向こう側を通って行っただけで、彼らの必要を満たす実際的なことを何もしないようなことではいけないのです。言うだけで、彼らの必要を満たす実際的なことを何もしないようなことではいけないのです。過去にはそんなこともありました。ある場合には、セブンスデー・アドベンチストはこうして自分たちの信仰告白を辱め、神の御業が非難される機会を与えることになったのです。

今や、このような神の僕たちに、気持ちのよい家と、数エーカーの土地を与えて、彼らが自分の食べる物を作れるようにし、自分たちは兄弟たちの憐れみに頼っているのではないと感じ

るようにしてあげて、人々の非難をはねのけることは、神の民の義務です。これらの疲れた働き人たちは、休息に対する自分たちの正当な要求が認められた静かな小さい家を、どんなに平安と喜びの気持ちで見ることでしょう。

このような人々に対する義務についてたびたび取り上げられたのですが、決定的なこととは何もなされてきませんでした。一つの民として私たちは、このことについて責任を感じるべきです。すべての教会員は、人間としてすべての同胞に、またキリストにある兄弟たちに、関心を持つべきです。私たちは互いに肢体であり、一つの肢体が苦しめば、他の肢体も苦しむのです。何かしなければなりません。年会は、疲れ果てた働き人が必要としている、そして当然受けるべき特権と慰安を理解する、霊的な識別力を持つべきです。

『教会への証』七卷二九〇―二九二ページ

第六章 老いゆく人々への配慮

年齢は自己訓練を緩める理由にはならない

長年信仰を持ってきた人々が、昔は試練や困難に耐えることができたが、年をとって弱くなり、試練が来ると非常に悩むと言うのを、私は耳にしたことがあります。これはどういう意味でしょうか。もうイエスはあなたの救いではなくなったのでしょうか。あなたが年をとって白髪となってからは、不信仰な感情を表す特権があるというのでしょうか。このことを考えてみてください。この問題についても、この世のことを考える時と同じように、理性を働かすべき

ではないでしょうか。自己を抑え、神に仕えることを、あなたの生活の第一のことと考えるべきです。ほかのことがあなたの心の平和を乱すのを、許してはなりません。その必要はないのです。いつまでも成長を続け、神を中心にした生活のうちに、前進していかねばなりません。キリストは、ヤコブが見た梯子です。その土台は地上にあり、いちばん上の段は最も高い天に達しています。そして一段一段あなたは、その梯子を昇って、永遠の御国に行くのです。サタンのようになって、醜い人間性を表していい理由はありません。神は私たちの前に、クリスチャンの高い特権を掲げておられます。それは、「信仰によってあなたがたの心の内にキリストを住まわせ、あなたがたを愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者としてくださるように。また、あなたがたがすべての聖なる者たちと共に、キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し、人の知識をはるかに超えるこの愛を知るようになり、そしてついには、神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、それによって満たされるように」(エフェソ三の一七―一九)なることです。

今いる所で満足する

愛する「ソーヤ」兄弟・姉妹

夜、私はあなたがたとお話ししているように思われました。そしてこう言っていました。

「あなたがたが学ばねばならない教訓は、主にあって心が安らかになることです。もし落ち着かず、不満な気持ちを助長するならば、あなたがたの宗教経験は損われてしまうでしょう」

あなたがたは二人とも、遠く離れた所に行って伝道の働きに携わるには適していません。あなたがたは、そのような境遇で出会う困難に打ち勝つ忍耐力を持っていないからです。あなたがたが、今いる所で伝道ができないなら、あなたがたが知られていない所に行くことを考えるのは、正しい方向ではありません。あなたがたはなけなしのお金を使い果たし、それ以上得ることはできないでしょう。

私はあなたがたに言いたいのです。今いるところで満足していなさいと。自分の心を統御してください。不安な気持ちを自分に許していると、周囲の人々の祝福にはなりません。あなた

がたは自分たちの家庭を持っています。それを大事にしてください。そしてお二人の命が保たれていることを感謝してください。健康であることを感謝してください。ノース・カロライナは、あなたがたにとってカリフォルニアほどよい所ではありません。あなたがたが、見苦しくない清潔な衣服を着け、平和な満足した気持ちでちゃんと家事をこなし、激励と助けを必要としている人々に、機会あるごとに励ましの言葉を語れるなら、これらは立派な伝道です。

あなたがたが、考えている計画を実行するなら、必ず失望します。あなたがたは、自分たちは今の場所では評価されていないと考えていますが、その気持ちを捨ててください。他の場所で伝道しなければならぬという思い込みを捨ててください。あなたがたに与えられている健康と力に、感謝すべきです。不幸な気持ちになるままにしておく、家庭でできるはずの伝道もできなくなってしまう。あなたがたは互いに祝福となり、また周囲の人々の祝福となることができるのです。今いるその場所で、快活に、そして幸福に過ごしてください。心に神よりの平和を宿してください。失望しないで、希望と励ましの言葉を語ってください。そうすれば、人の心を高める感化を与えることができます。主があなたがたを祝福し導いてくださるように祈ります。

あなたがたの年齢を考えても、今の場所にいることに十分満足できるはずです。若い男女たち、難しい場所を与えてください。天国に行く備えをしながら、安らかに快適な生活をすることは、あなたがたの特権です。あなたがたが直接の働きに携わることが最善であると主が思われるなら、主があなたがたのために、カリフォルニアへの道を開いてくださるでしょう。主があなたがたの道をはっきり示されるまでお待ちなさい。神は、あなたがたが遠い国で、見知らぬ人に頼らなければならないような状態になることを、お望みになりません。今の場所で満足し、神の御働きのためにあなたがたのことができることをして過ごしてください。あなたがたの証の言葉で助けを与えることができるところで働きなさい。あなたがたのわずかな資金を、新しい働き場に行って使ってしまったねばならないなどとは思わないでください。

この問題について、私の思いを率直に書きました。私はあなたがたが今の場所について、あなたがたの小さい家庭を守り、平和と幸福のうちに過ごされることを心より願います。あなたがたが毎日キリストの平和と、尊い恵みに満たされてはならない理由は何もありません。あなたがたの受ける試練が今の十倍も重くなるような場所に、行かないでください。私はあなたがたのことに特別な関心を持っています。そしてあなたがたが神にすべてをお任せし、永遠の生命

へと導かれていくことを祈っています。

手紙三二六、一九〇八年

身なりをきちんとする

愛する□バート兄弟、ハンナ姉妹「ソーヤ」

お手紙受け取りました。御返事を差し上げます。私を誤解しないでください。私が今まで差し上げた助言には、あなたがたの最善の方向を妨げようとする気持ちはまったくありません。あなたがたが今よりもっとよい住居や、その他の益を得るところに、資産の投資をするのを妨げる気持ちはまったくないのです。

しかし、よく考えて動いてください。見知らぬ人々の間に入って、資産をなくすような所には、行かないでください。あなたがたがノース・カロライナに移るといふのは、軽率で無定見なことです。あなたがたの事情を知っている人は、そのようなアドバイスをするはずはありません。

せん。よく考えて、注意深く行動する必要があります。主に全的にお任せすれば、主はあなたがたをお見捨てになることはありません。

□バート兄弟に助言があります。あなたの服装や外見を改善する必要があります。服装が乱れていると、私たちの信じている真理が非難を招くことになります。あなたは自分が主イエス・キリストを代表していることを忘れないでください。全生活が聖書の真理と調和するようにしましょう。「マタイ五の一三一―一六を引用」

あなたは服装をおろそかにしています。これはあなたの品性の決定的な欠点です。あなたが信者にも未信者にも与えている印象は、聖霊の御心になわなないものです。この点についてあなたがきちんとしていないので、教会の人々は、あなたには文書を売る働きは勧められないと感じてきました。これができればあなたは多くの益を与えることができたはずなのです。また、あなたがすることのできる、有益な仕事があります。それは戸毎を訪問して、適切な言葉を語ることです。しかしあなたは、きちんとしていれば与えたはずのよい感化を、自ら壊しています。

あなたは主のために立派な仕事ができることを覚えてください。しかしそのためには、あな

たの風采は、主のために光を照らす器にふさわしいものでなければなりません。このことを考えて、衣服や外見が改善されるよう努力してください。もしあなたが、私たちの教会の集会で公の仕事を依頼されても、適当な服装についてだらしない考えを持っているなら、あなたが助けようとしている人たちに最上の感化を与えることはできないでしょう。

これは大切なことです。現在のまた将来の、他人に対するあなたの感化に影響を及ぼすことなのです。あなたの態度も服装も尊敬されるものでなければ、主が救霊に関して十分な成功をお与えになることは期待できません。真理は、よく整った服装の印象によって強調されます。そしてあなたが、自分の感化力のすべてを主のために用いたいと思っていることを、私は知っています。

私がこの問題にこだわるのは、この点があなたの品性の決定的な欠点だからです。あなたの服装の乱れのために、主の栄光は表されていません。それは小さいことに見えるかもしれませんが、神の誉れと栄光になっていません。恵みと聖い感化力に富む男女は、自分たちの影響力に関するすべてのことについて慎重です。主に対する奉仕において、あなたの現在と将来の有用性は、このことをどう考えるかにかかっています。私たちは終わりの時に近づいています。

キリストの御国に魂を導くために、全力を尽くさねばなりません。

手紙三三六、一九〇八年

過労と兄弟に対する不信を捨てる

さて、ハスケル兄弟、あなたはカリフォルニアで多くの仕事があるでしょう。私はあなたに健康が与えられるように願っています。しかし過労にならないように注意してください。あなたの頭脳は多くの困惑するような問題には耐えられないでしょうから、そんな問題は避けてください。他の人ができる責任を引き受けて、その重荷で倒れないようにしてください。兄弟たちが、あなたが過労にならないようにしてくれるなら、その努力に信頼してください。彼らがあなたの責任の一部を他の人に与えても、それはあなたを信頼しなくなっただか라고思っではありません。そう考えるとあなたはみじめになります。「人の悪を思わない」のは、イエス・キリストのすばらしいご品性の特質の一つです。

あなたのことが私に示されました。そしてあなたが、兄弟たちはあなたを我慢しているだけ

で、信賴しているのではないと思って、長い間悲しみ落胆していたことを知りました。彼らが、バトラー長老に対してしたのと同じようにあなたを取り扱ったとしたら、正しいことではありません。彼らは自分たちを神の立場に置き、そうすることによって自分たちの宗教経験も、またバトラー長老をも、だめにしてしまいました。そして教会は、神にすべての栄光を帰すべきなのに、人間に栄光を帰したために、力を失い、キリストを見失ったのです。……サタンの策略を警戒なさい。自分が十分評価されないと思って、いろいろ悪いことを考えることほど、人間の心を弱め、バランスを失わせるものはありません。……

あなたが信じる心を持ち、過去に経験した神への信賴に頼るのではなく、現在の新鮮な信仰を持ち、揺らぐことのない確信を持ち続けることを、私は心から希望します。あなたの魂は、毎日福音の真理によって温かにされ、生き生きとされなければなりません。そして、毎日生きた新しい経験をして、新しくなっていくのです。聖霊による慰めと希望と喜びを持つてください。主が若い人を育て、より大きい重荷を負わせて真理のメッセージを伝えさせられるのを見て、ちよつとでも心を乱すようなことがあってはなりません。

兄弟たちを責めないこと

年をとった兄弟たちに、神の前に謙虚な歩みをするように言うことを命じられました。あなたがたはイスラエルの神の指導によって与えられた仕事をなすべきです。人を批判する傾向は多くの人にとって最大の危険です。あなたがたが批判したい兄弟たちは、あなたがたが多分負うことのできない責任を負うように召されているのです。そして、あなたがたは彼らの助け手となることができません。あなたがたは、他の人々の仕事に関連して、過去における経験を述べることによって、御事業に対して大きな責任ができるのです。主は兄弟たちを矯正したり非難したりすることを、だれにもお許しになってはいません。

兄弟たちとともに主を知ることに進んでください。重荷を負っている人々に同情し、できるだけ励ましてください。いつも一致する言葉を語り、意見の相違を語らないようにしましょう。

年配者は都会で働かないこと

弱い人や年とった人を、健康的でない、人口密集地に送って仕事をさせるべきではありません。不必要に健康を犠牲にするような場所で働かせないように。都会で伝道する兄弟たちは、都会から離れた場所が得られるなら、都会の騒音や混雑の中で生活して健康を害する必要はありません。

『伝道』七一、七二ページ

“孤立した信仰”を避ける

苦しんでいる兄弟へ

私たちは苦しみの中にあるあなたに同情しています。……

老兵は戦場で熱心さのあまり危険と死に身をさらします。そうすることによってのみ、完全

に義務を果たしているという確信が持てるのです。神への奉仕についても同じようなことが起こります。キリストの兵卒が、引きこもって何もせず自分の義務の場所を棄て、「私は救われている」と言っている世の罪人が滅ぶままにしておく、そんな孤立した信仰に満足しないで積極的に働くなら、疲れたり傷ついたりすることが当然起きてきます。……

兄弟よ、私は、あなたが自分の考えで行動し、熱心すぎるという非難の言葉を、一言でも述べようとは思いません。私もあなたと同じことをしたでしょう。すべてのことを前もって見ていたなら、多くの苦しみから逃れていたかもしれません。けれど、あなたは先を見ないで真理の御業に対する熱心と献身で行動しました。だれか他の人が自分の義務を果たさなかった責任があるのかもしれませんが。しかし、私はあなたを責めることはしません。

手紙五^a、一八九一年

年長の働き人に見られる子どもっぽい行動

主の目はあなたがたに注がれています。主は、あなたがたができる仕事をする道を開こうと

望んでおられます。S 姉妹、主はあなたに、自分の力では自分をコントロールできないことを悟る力をお与えになります。あなたは、何でも自分のやり方でしなければならぬと考えています。他の人が活動しているのを見ると、自分は取り残されたように感じ、そのためにイライラしてきます。

キリストの愛が、いつも心に宿っていないかもしれません。苦勞多き生活を経たのちのあなたの年では、静けさ、愛、平和、休息、そして主が来られるとき、平安の内にお目にかかる準備をする時間が、いちばん大切です。あなたは疲れて、物事を正しく見ていません。あなたが青年を訓練する立場に留まるよう頼んだとしたら、それはあなたにとって重すぎる責任となるでしょう。神経も疲れているあなたを、困難に満ちた立場に置くことはまちがいです。子どもを取り扱う時、あなたはしばしば厳しすぎるのです。

愛ほど大きな力はありません。神と隣人に対する愛、これこそ神があなたに要求なさる義務のすべてです。あなたがなさったよいわざを傷つけないでください。戦いの混乱から身を引いて、神の道に従って休息と平和を得てください。あなたが役立てる道は開かれるでしょう。S 兄弟、神があなたにお与えになった伝道者としての仕事をなさってください。

S 兄弟、S 姉妹、今あなたがたを試みる質問が与えられています。あなたがたは、将来と永遠の生命のためにあらゆる力を養い、休息と平和を求めますか。主は、この上ないやさしさであなたがたのことを考えておられます。お二人とも学校の仕事の責任を軽くする必要があるので。主は、お二人が今までの責任から解放されることを望んでおられます。

お二人とも働きから絶縁されたと感じるべきではありません。働きが前進することに関心を持ち、他の人が責任を持って成功に導いていることを感謝してください。ある人は働きのある方面に適しており、他の人は他の方面に適しています。皆一つになって前進し、調和して働くべきです。パウロは植え、アポロは水を注ぎますが、神が育ててくださるのです。主は、ある人を耕し種をまくために、他の人を収穫のためにお用いになります。そして収穫の時に、まく人も刈る人も共に喜ぶのです。これが主の働かれる方法です。主は一人ひとりに仕事をお与えになります。最善を尽くしましょう。主がともにおいでになれば、私たちは栄えるのです。

この手紙を読んだ時、私はあなたがたの最善の友であると思っています。私はお二人を、今までの忠実な働きに対して尊敬しています。あなたがたは主のためになすべきことがあります。しかし、あなたがたは今までより軽い責任を持つべきです。特にS 姉妹が、教える仕事か

ら解放されるよう私が望むのは、姉妹がいつもやさしい気持ちを養う機会を持つためです。

姉妹よ、決して不愉快な考えを抱いたり、あるいは正当に取り扱われていないと思ったりしてはなりません。あなたは子どものようになっています。自分では気がついていないかもしれませんが、そうなのです。あなたは静穏と休息を必要としています。あなたは好き嫌いが激しすぎます。神の御事業を妨げないように気をつけてください。こう言ったからといって、私はあなたを傷つけようとは一瞬も思っていないません。

私の息子のエドソンは、あなたがたが学校の利益となる正しい関係にあるように忍耐強く努力してきました。神が無限の計画を実現してくださいますように。神の手がこの計画を実現してくださる時、協力してください。それを妨害しないように、あなたがたの言動が、賢明なアドバイスを与える助け手として召されたその働きを妨げることをないようにしてください。

愛する姉妹、すべての猜疑心とねたみの感情を取り去ってください。神はお二人を見ておられます。この手紙が誤解されるかもしれないことを恐れ、私の心は苦しみます。しかし私はあなたがたに、あなたがたのほんとうの友だちを知って彼らを評価しなさい、と言うように命じられました。教会に忍びこむ弊害を改善するために何かしなければならぬ時、主が語ってく

ださったことを感謝しましょう。主があなたがたに語られる時、主に感謝してください。それは将来の悲しみからあなたがたを救うためだからです。

学校を拡大し完成することに關してあなたがたがどんな精神を表すか、あなたがたに注意するよう主は言われました。というのは、あなたがたは、他よりの助けがなくてこの仕事を前進させることができると考えてはならないからです。たとえば、あなたがたの満足でないことが必要に行われたとしても、他人の行動について、無分別な批判の言葉を語って意見の相違を来たすことのないようにしてください。あなたがたがさ細なことで不満足になることを思うと、私は悲しくなります。

手紙六三、一九〇二年

異教の考えを受け入れる危険

「G・C・」テニー兄弟、あなたは自分で気がついていませんが、思っているよりはるかに真理から離れてきています。バトル・クリークの人たちとの関係は、あなたにとって大きな危

険となっています。あなたの過去の経験から得た光は、消えようとしています。

『医事伝道』誌に書いたあなたの記事のあるものを読んで、驚き、また悲しく思いました。特に、聖所問題の記事がそうでした。その記事は、あなたが信仰から離れてきていることを示しています。あなたは、信者の理解を混乱させました。天の聖所における儀式を正しく理解することは、私たちの信仰の土台です。

今日バトル・クリークにおいて働いているサタンの誘惑から離れていれば、あなたの立場は有利であつたでしょう。

私たちは、多くの人をバトル・クリークに集めた結果を見て、残念に思っています。私たちをSDAとした基礎的な真理を信じていた牧師たちで、聖書の真理を教えてそれを支持するためにバトル・クリークへ行った者は、今や年をとって、白髪となり、聖書の基礎的真理より離れ、異教の考えを受け入れています。こうなると、次には人格的神を否定し、聖書に明示された信仰のとりでを破壊することになるのです。聖書は、「惑わす霊と、悪霊どもの教えとに心を奪われ、信仰から脱落する者がいます」と警告しています。

お金に関する心配

年配者たちは、しばしば自分の精神力の衰えを認めることを好みません。彼らは子どもに属することを自分が引き受けて、命を短くします。サタンは彼らの想像力に働きかけて、お金についていつも心配させようとします。お金は彼らの偶像となり、彼らはみじめなほど心を使つて、お金を貯めます。時々快適な生活を抑えて、必要以上の資金を得るために自分の力以上に働きます。こうして彼らは、いつも欠乏感を持ち、いつか困るのではないかと恐れています。

このような恐れは、サタンから来るものです。サタンは、卑屈な恐怖感や嫉妬に導くからだの諸器官を興奮させ、心の高貴さをおしばみ、高尚な思想や感情を壊してしまします。このような人は、お金のことになるかと正気を失います。彼らが神の計画に従った場所を占めれば、その人生の終わりは最高に幸福であることができます。信頼するに足る正直で賢明な子どもたちがいるから、彼らが親を幸福にしてくれるに任せましょう。そうでないと、サタンが精神的な

弱さにつけこんで働きかけてきます。親たちは、心配や重荷はわきに置いて、できるだけ楽しい時を過ごし、天に入るような成熟を遂げるべきです。

『教会への証』一卷四二三、四二四ページ

お金はあなたの魂をあがなわない

兄弟、あなたは大きな危険の中にいます。あなたの宝は地上に積まれ、心はその宝に捕らわれていきます。しかしあなたが集めることのできるすべての資産は、たとえ数百万であろうとも、あなたの魂をあがなうことはできません。だから、頑迷と不信に留まってはなりません。そしてあなたの場合は、神の慈悲深い目的を挫折させてはなりません。神が心ならずもあなたの財産を取ったり、またはあなたの身体を苦しめたりなさることのないようにしてください。多くの人が、まもなくこのような裁きに導かれる道を歩いています。彼らは自分の利己的な関心で、一日一日、一週一週、一年一年を過ごしています。神から与えられた技能と機転によって集めたものを、自分と自分の家族のことだけに用い、恵み深い神のことは何も考えられて

いません。与えてくださった神に何もお返ししようとしません。彼らは生命も、ゆだねられたタレントも、自分自身のものだと考えます。神が正当に要求なさる部分を神にお返ししても、彼らは創造主はそのため彼らに対して負い目があると考えます。ついには、これらの不忠実な僕たちに対する忍耐も限界を越え、彼らのすべての利己的でこの世的な計画は、たちまち終わります。彼らが自分の栄光のために集めたので神はそれを散らし、彼らはその神の力に反抗することはできないのです。

「兄弟、今日私は希望の捕らわれ人としてお話ししたいのです。あなたはすでに生涯の半ばを過ぎ、今は急速に衰えていると思いますか。人生の夕べがきました。日陰が長くなっているのを見ませんか。あなたには、自分のため、人のため、そして神のために働く時は、わずかしが残っています。もしあなたが勝利者の中に数えられたければ、自分の魂のためにしなければならぬ特別の仕事が残っています。」

あなたの生涯の記録はいかがですか。あなたのためのイエスの訴えは、無駄だったのでしょか。あなたといっしょにいた友だちのうち、すでに召された人もいます。彼らの信仰は破綻し、永遠の生命を得ることができなかったかどうか、または神に対して富み、比べものになら

ないほど恵みのある永遠の栄光を嗣ぐ者となったかは、永遠が表すでしょう。神が長い忍耐を持って、悔い改めと神の前に謙遜であることを求めておいでになることを、考えてみませんか。

『教会への証』五卷三五〇、三五一ページ

よりよい国を愛して

私たちの年老いた父^Tは、地上のものに愛情を注いでいますが、それは取り除かれ、天に入るために成熟しなければなりません。今は神のみ子に対する信仰に生き、その愛情は天国に注がなければなりません。地上の朽ちる宝から離れて、心をすべて最も重要な永遠のものに注ぐべきです。彼の恵みの時はほとんど終わっています。神に捧げる時はもうわずかしが残っていません。彼の力は使い果たされ、知力は衰え、せいぜい弱い奉仕しかできないでしょう。しかし心から精いっぱいすれば、十分受け入れられるのです。^T兄弟、あなたは年とともに利己的で頑固になり、このみじめな世界の宝に対して、強い欲求と愛着を持つようになって

きました。

「姉妹はこの世を愛しています。彼女は生まれながら利己的で、肉体の弱点のためにひどく苦しみました。神はこの苦しみをお許しになりましたが、サタンがその生命を取ることはお許しになりませんでした。苦しみの炉を通して、神は地上の宝への執着を弱くされたのです。それは苦しみを通してしかできなかったのです。彼女も体が薬物によって毒せられた一人でした。薬物に無知のため、彼女は現在のようなのです。しかし、神は生命を取ることとはせず、恵みの時と苦しみを延ばし、真理によって清められ、きれいに、白くされ、鍛えられ、苦難の炉を通して、品性の滓を除き、純金より尊い、オフルの金のくさびとしてくださったのです。」

『教会への証』二巻一八四ページ

第七章 家宰としての生活

慈善の働きは二倍の祝福を受ける

神の知恵によつて、救いの計画においては作用と反作用の法則があり、慈善の働きはそのすべての分野で二倍の祝福を受けるように定められています。神は罪人を救うのに人間の助けがなくても、その目的を達することがおできになりました。しかし、あがないの大事業の中で人間もその一部をなさなければほんとうに幸福ではないことを神は知っておいででした。人間が祝福ある慈善の働きの結果を失うことがないように、あがない主は人間を協力者として参加さ

せる計画を立てられました。

『レビュー・アンド・ヘラルド』一八九七年三月二三日

あなたが財産を安全にしておくことを望むならば、それを十字架の釘跡がある手に置きなさい。自分で持っていれば永遠に失われます。神に与えれば、その瞬間から神の名が刻まれ、神の不变の手によって封印されるのです。あなたのものを楽しみたいならば、それを苦しんでいる人の祝福のためにお用いなさい。

『教会への証』九巻五〇、五一ページ

自分が幸福であるためには、他の人を幸福にするために生きなければなりません。自分の所有物、タレント、愛情を、キリストに対する感謝の捧げ物となさい。そこに幸福と将来の朽ちない光栄を見いだしてください。

『教会への証』三巻二五一ページ

天に宝をたくわえよ

キリストは、「天に宝をたくわえよ」と勧められました。あなたの宝を天に移すことは、あなたの最善のエネルギーを注ぐ価値があります。それは最も重要なことで、あなたの永遠の利益を含んでいます。神の御事業に投じたものは失われません。魂の救いと神の栄光のために与えたすべてのものは、この世の生活と来世の生活において最も成功ある仕事に投資されたものです。あなたの金銀のタレントは、その銀行に渡せば価値が絶えず増えていき、天国のあなたの口座に記録されます。あなたはその銀行の手で増加した永遠の実を受け取るのです。神の御事業に投資すれば、天に宝を積んでいるのです。天に積んだ宝は、災害にあつたり、なくなったりはせず、増加して永続するものとなるのです。

『レビュー・アンド・ヘラルド』一八八八年一月二四日（『スチュワードシップに関する勧告』三四二ページも参照）

家宰であることは各々の責任

両親は、神によって与えられた権利を行使すべきです。神が彼らにゆだねられたタレントを神の栄光のために用いるべきです。子どもたちは、父のタレントに対する責任はありません。彼らが健康な心とよい判断を持っているならば、両親は祈りをもって考慮し、また神の御心の知識と真理における体験を持った適当なカウンセラーの助けを借りて、その財産の処理をすべきです。

もし苦しみの中にあり、貧困と戦っている子どもがいて、資産を正当に使用することができないならば、彼らも考慮すべきです。しかし信仰のない子どもがあつて、この世のものを豊かに所有し、この世に仕えているならば、わが子だからといってその両親が財産を彼らに与えることは、彼らを神の家宰とされた神に対して罪を犯すことになります。神の要求を軽く考えてはなりません。

両親が遺言書を書いていても、生きているうちに神の御事業のために資産を捧げることが妨

げるものではないということは、はっきり理解しておかねばなりません。彼らはそうすべきです。彼らは生きていくうちに余分の資産を処分する満足感を地上で持ち、将来にその報いを受けるべきです。神の御業を前進させるために彼らの分を尽くすべきです。彼らは、神が貸し与えられた資産を、神のぶどう園でなすべき仕事を実行するために用いなければなりません。

お金を愛することは、この世界で行われるほとんどすべての犯罪の根です。自分のことだけ考えて子どものためにだけ資産を貯え、神の御事業の欠乏を顧みず助けない父親たちは、恐るべき過ちを犯しているのです。彼らが資産によって祝福しようと思っている子どもたちは、かえってその資産によってのろわれるのです。

子どもに対して資産は、しばしば苦いことの根になります。残された資産についてしばしば争いが起こり、遺言書の場合は、父親の計画で皆が満足することはまれです。そして、残された資産は、父親への生き生きとした感謝や彼の思い出に対する敬意を残す代わりに、不満とつぶやき、ねたみ、無礼を引き起こします。互いに平和であった兄弟姉妹が反目し、家族が遺産のためにバラバラになる結果となります。富は現在の必要を満たし、他人によいことをするためにだけ望ましいものです。しかし遺産は、しばしばそれを持っている人の祝福となるよりわ

なとなります。両親は、子どもが自分では何も労していない資産を残されることによって引き起こされる誘惑にあうようなことをすべきではありません。

ある子どもたちは、真理を信じると言っていますが、彼らの父親が生存中に神の御業のためにその資産を捧げず、自分たちのためにとっておくよう、間接的方法で父親に影響を与えています。父親が神の家宰としての責任を子どもに移すようにさせた子どもたちは、自分たちがどういうことをしているか知らないのです。彼らは二重の責任を引き受けています。一つは、父の心を導いて、神がその栄光のために与えられた資産を処理するにあたり、神の目的を実行できないようにしていること。もう一つは、父が銀行に預けておけば、神は高利とともに受け取ることがおできになったはずの資産に対する家宰としての責任です。

神から与えられたタレントをいかに用いるかについて責任がまだある間に、多くの親たちは、その資産を子どもの手に渡してしまうことで大きな誤りを犯しています。このような資産の移動措置は、両親にとっても子どもにとっても幸いとはなりません。そして両親は、数年でも生きていれば、たいいていそうしたことを後悔するのです。親に対する子どもの愛は、このような行為で増すではありません。また両親の寛大さに対して、子どもは両親に感謝と義理を

感じるわけでもないのです。このことの根にはのろいがあります。子どもの側には利己主義が、両親の側には不幸と息がつまるような依存感のみじめな感情が残るのです。

両親は、生きている間に子どもが独立できるよう助けを与える方が、死ぬ時に多額の資産を残すよりよいのです。もっぱら自分の努力に頼るようにされた子どもは、父親の遺産に頼る子どもより实际生活によりよく適応してゆき、立派な男女となります。自分の力に頼るようにされた子どもは、一般に自分の能力を重んじ、自分の特権を利用し、人生の目的を成就するため自分の能力を養い育てていくのです。彼らはたいがい勤勉、節約、道徳的価値などクリスチャン生活の土台となる性質を伸ばします。親ができるだけのことをしてしまった子どもたちは、しばしば強い感謝の念を持たないものです。

『教会への証』三卷一——二二三ページ

他人に責任を負わせること

安息日を守る兄弟たちが、自分でできるのに、自分の家宰としての責任を妻の手に任せるこ

とは賢明ではありません。神もお喜びになりません。夫の家宰としての責任を妻にゆだねることはできません。しかし時々このようなことが行われ、両方を傷つけるのです。

信者の夫は、未信者の妻を喜ばせ、反対を和らげ、最後には真理を信じるように導こうと考えて、自分の財産を任せることがあります。しかしこれはお金で平和を買うようなこと、真理を信じさせるために妻を雇うようなことです。神がその御事業を前進させるために与えられた資産を、夫は真理にまったく関心のない妻に渡します。このような僕は、神が利子とともに御自分のものを求められた時、どんな報告をするのでしょうか。

信者の両親はよくその財産を未信者の子どもに渡し、神に属するものを神に捧げることができないようにしてしまいます。そうすることによって、神が彼らに与えられた責任を避け、かつ神の御業に投資して神が要求される時お返しするよう彼らに委託された資産を、敵の手に渡すこととなるのです。

自分のビジネスをやっている両親が、同じ信仰を持っている子どもであっても財産を譲ることは、神の御旨ではありません。子どもたちは神の御業に対する多くの献身がなく、逆境や苦難によって訓練されてもいないので、永遠の宝を地上の富より高く評価しません。このよう

な人々の手に置かれた資産は、最悪の結果をもたらします。地上の物に愛情を注ぎ、財産に頼り、加えてもう少し必要であると感じる誘惑となるのです。自分の努力で得たものでない資産を手に入れた人が、それを賢く用いることはまれです。

自分の財産を妻に渡した夫は、妻が信者であっても未信者であっても、誘惑の戸を開くことになります。信者ならば、貧しい場合が多いのですが、利己主義となり、多くを得たいという気持ちになって、夫の家宰としての務めと彼女の務めの間の戦いは、より激しいものとなります。救われるためには、このような正しくない悪の傾向に勝利して、主イエスの御品性に学び、他人に善を施す機会を求め、キリストが私たちを愛してくださったように他人を愛さなければなりません。救い主のような豊かな愛の賜物を身につけてください、キリストの生涯は高貴な、無我の愛に満ちていました。その全生涯は、たった一つの利己的行為によっても損われなかったのです。

『教会への証』一巻五二八、五二九ページ

生きている時の捧げ物と死に臨んでの献金

多くの人が、生きている間は神の御業から身を引き、死ぬ時愛の行為をしようと思ってその良心のとがめをしずめています。彼らは生きているうちは、信仰と信頼を働かせて何かを神に捧げようとはしないのです。しかし、このような死に臨んでの捧げ物は、キリストが信仰者にお求めになっているものではありません。生きている間は利己的であつてもいいということでは絶対にはないのです。生涯の最後の瞬間まで自分の財産にしがみついている人は、御事業に捧げるより、死に捧げることになるのです。損失は絶えず起きています。銀行は倒産し、資産はいろいろな方法でなくなります。多くの人はいろいろな計画をしますが、結局は問題を遅らせ、サタンは資産が金庫にまったく入ってこないように働きます。神に返る前に資産はなくなり、サタンが喜ぶのです。

あなたの資産でよいことをしようと思うなら、サタンがそれを得て神の御業を妨げる前に、直ちに行動してください。御事業を前進させるために財産を処理する道を主は開かれました

が、多くの場合サタンの勢力が働いて、投資によって必ず二倍になると確信できるような企てを示します。彼らはそのエサにひっかけて投資し、神の御事業は一ドルも受けず、また彼ら自身も何も得られないことになるのです。

兄弟がた、いつも御事業のことを考え、自由になる資金がある時には、自分の将来のために、永遠の生命を得ることができるよう貯えてください。イエスはあなたのために貧しい者となり、その貧しさによって、あなたの天の宝が豊かになるようにしてくださったのです。あなたのためにすべてを与えられたイエスに、あなたは何を捧げますか。

あなたの慈善の贈り物を、死ぬ時の遺産の遺言の中に書くだけでは十分ではないのです。御事業がそれによって助けられることはまったく確実ではありません。サタンは巧みに親戚の心を動かし、神の御業に厳粛に捧げられた物が世の利益となるようなまちがった意見がとられるようにします。そして、遺言された額よりはるかにわずかしが神の御業には与えられません。サタンは、親戚が財産を捧げようとするのに抗議するよう、人々の心を動かすことさえあるのです。彼らは、主に捧げられる物は皆遺族から奪われたものであるかのように考えているようです。もしあなたが資産を神の御事業のために用いたければ、生きているうちにそれを全部捧

げるか、または生活に実際必要でない物を全部捧げるかです。そうしている兄弟がたも若干あります。そして彼らは、自分で遺言執行者となる喜びを感じています。神が貸し与えられた財産が永久に無駄にならないようにするためには、生命を取られなければならないほど人間は貪欲なのでしょうか。あなたがたのだけれも、主の資金を土に埋めて益としなかった僕の運命を自分のものとしないうにしましょう。

死に際の慈善は生きている間の善行の代わりにはならないのです。多くの人々は、その財産のきわめてわずかを除いてすべてを友だちや親戚に残します。ですが、彼らのために貧しくなり、彼らが神の息子、娘となるために恥辱を受け、笑いものになり、死を受けられた、彼らの最高の友のためには、資産のごくわずかしが残さないのです。それでいて彼らは、死んだ義人が永遠の生命によみがえる時、この友イエスは、彼らを永遠の住まいに入れてくださると期待しているのです。

キリストの御事業から資金が失われるのは、単なる思いつきやよく考えてもいない行為によってではなく、あなたが慎重に考えて遺言状を作り、あなたの財産を未信者の手に任せただけからです。あなたは生きている間も神から盗み、死後も神の物を盗むのですが、このことは、あな

たの思考力の完全な同意のもとに遺言状という文書の中で行われたのです。このように神の物を盗用して、神はあなたに対してどういう御心を持たれると思いますか。あなたの家宰としての決算が要求される時、あなたは何と言いますか。

兄弟がた、利己的生活から目を覚まし、首尾一貫したクリスチャンのように行動なさい。主は、あなたが資産を節約し、生活に必要なものは一ドルでも教会の会計に入るよう望んでおられます。姉妹がたよ、キャンディやひだ飾り、またはリボンに使う、一〇セント、二〇セント、一ドルを、神の御事業のためにお捧げなさい。多くの姉妹がたはいい給料を取っていますが、それはほとんどすべて彼女たちの衣服の誇りのために使われています。

御事業の資金の欠乏は、終末が近づくにつれて増してきます。青年に学校での短期間のコースを与えるために、そして彼らを伝道の有効な働きのために、また各部門の働きのために準備させなければなりません。私たちのすべての学校はまもなく閉じられるでしょう。人々がクリスチャンの慈善についてのクリストの要求に従っていたら、いかに多くのことがなされていたことでしょう。クリストのために喜んですべてを捧げる精神があったら、どんな影響を与えていたことでしょう。このことは、私たちの告白する真理に対する最も説得力のある論拠の一つ

で、誤解したり反対したりすることの出来ないものです。

私心のない献金の模範によって人の心を動かすように、個人個人で働きましょう。すべての人が教会の金庫を資金で満たすためにできるだけのことをすれば、仕事はさらに大きな力をもつて前進するでしょう。

『教会への証』五卷一五四―一五七ページ

事務的なことがはつきりしていない

し兄弟姉妹は、終末時代の御事業に確信を持ち、イエスが来られた時永遠の報いを受けることができるように、クリスチャンとしての品性を完成しなければなりません。し兄弟は、肉体と精神の活力を失っています。あまり多くの責任を負うことができなくなってきました。彼は思慮のある忠実な兄弟がたと相談すべきです。

し兄弟は神の家宰です。彼は資産をゆだねられています。その義務に目覚めなければなりません。そして、神の物を神に返さなければなりません。神の要求を了解しなければなりません。

せん。生きていて理性の力があるうちに、神が彼にゆだねられた財産を、適当な目的に充当する機会を捕らえねばなりません。彼の生涯が終わったあとで他人に任せないようにしてください。

サタンは、常に人間の弱さにつけこんで、自分の目的にそうように働きます。サタンは悪意のある敵です。彼は、自分の資産で神の御業を助けようという目的を持った多くの人々に戦術を使って打ち勝ちました。ある人々は、その資金を充当して行うべき神から与えられた仕事をあきらめました。そして彼らが神のお与えになった資金を神の御事業のために用いることをあきらまして、サタンは来てそれを自分たちの仲間のために使ってしまう。

兄弟はもっと注意深く行動すべきです。私たちのような信仰を持たない人々が、いろいろな口実をつけて彼から資金を取っていきます。彼は、その人々が正直だと思って信頼しています。彼の手から敵の手に渡った資金を取り返すことは不可能でしょう。彼は神の御事業を助けることによって安全な投資をすることができたはずで、そうすれば天に宝を積むことができたのです。しかし身体障害者になったため、自分が助けようと思って、自分の資産を自由にできないので、助けられないことがしばしばあります。主が彼の資金を求められた時、資金は

他に貸してあって、その中のある者は返却の意志もなく、またその件について無関心な人もいます。

サタンは不正直な借り手を通して、ほかの方法と同じように完全に自分の目的を達するのです。真理と正義の敵がやっていることは、私たちの救い主の御国の進展を妨げることなのです。彼は自分の勢力を通して働き、その目的を実現しようとしています。彼が、神の倉に入るべき資金を妨げることができれば、働きの一つで成功したのです。つまり、魂を救う計画に用いられるはずの資金を自分の側に留めておいて、自分の働きを助けるのです。

し兄弟は事務を正しく、きちんとしなければなりません。永遠の生命を得るために、よい業に富み、将来に対してよい土台を自分のために作ることは彼の特権です。自分のまちがった判断に従うことは安全ではありません。経験のある兄弟たちと相談して、彼の仕事を立派にやりとげるために、神の知恵を求めるべきです。今こそ熱心になり、自分のために「擦り切れることのない財布を作り、尽きることのない富を天に積（む）」べきです。

助けは今必要

神の御事業が資金を必要としている時に十分与えることができる多くの人が、利己的な心でその資金を貯え、彼らの死後、神の御事業のために大きなことをしようと計画して、良心の責めを和らげようとしています。彼らは遺書を作り、多額の資金を教会や各種の必要のために与えることにして、自分に要求されたことを実行したと感じています。この行為のどこで自己を捨てているのでしょうか。かえって、彼らは利己主義を表しているのです。これ以上資金がいらないければ、神に捧げます。しかし、できる限り自分の手もとにおいて、追いつ返すことができない死の使いが来てそれを放棄しなければならなくなるまで、自分のものにしておくのです。

神は私たちをみな神の家宰とされました。そしてどんな場合でも、私たちが義務を怠り、または他人にそれを任せることをお許しにはなりません。真理の事業を進展させるために、今ほど資金が緊急に必要な時はありません。私たちのお金は、現在ほど有効に使われる時はないでしょう。正しく用いることが一日でも遅れれば、救霊に用いる時が制限されてしまうのです。

神が私たちに任せられたことを他人に任せるなら、私たち自身に対しても、私たちの持ち物全部をくださった神に対しても、不当なことになるのです。だれが私たちの捧げ物について私たちよりよくすることができでしょうか。実際に可能なかぎり、すべての人が、生存中にこの問題について自分の意志を実行することを神は望んでおられるのです。

逆境、事故、または人の悪巧みのために、考えていた捧げ物の行為が永久に妨げられるかもしれません。そして、財産を蓄積した人がそれを守ることができなくなるのです。現在善をなすよい機会を見過ぎて、神がその栄光のために与えられた資金を主にお返しする前に家宰の立場から追い出されるまで、何もしない人が多いのは悲しいことです。

キリストの教えの中における一つの特徴は、しばしば、強い口調で、貪欲の罪を責められ、この世の利得と利得に対する過度の愛の危険を指摘されたことです。富んだ人の邸宅や神殿や街頭で、キリストは救いを求める人々に、「どんな貪欲にも注意を払い用心しなさい」「神と富とに仕えることはできない」と警告なさいました。

お金を得ることに心が注がれ、利得に対する欲望から生じる利己主義のために、教会の多くの人々の霊性が死に、その心から神に対する愛がなくなります。頭と手は常に富の蓄積を計画

し、そのために働き、神と人類の必要は忘れられているのです。

もし神が私たちに繁栄をお与えになったとすれば、私たちの時間や注目は、神から離れて、神が私たちに貸し与えられた物に向けられるべきではないのです。与えたかたは、与えられた物よりも大切です、私たちは、値を払って買われたものです。私たちは、私たち自身のものではありません。私たちの救いのために無限の値が払われたことを忘れたのでしょうか。感謝の心はなくなっただのでしょうか。キリストの十字架を見るとき利己的な安楽にふける生活を恥ずかしいとは思いませんか。

『レビュー・アンド・ヘラルド』一九〇六年十一月一日

新しい伝道地で働く必要

愛するクロー兄弟

あなたも私も年をとってききましたから、自分自身を反省する必要があると思います、手紙を書きます。私たちは、主が与えてくださったタレントである資金についてどうしているでしょう

か。あなたは今までどんなになさったでしょうか。本当は神に属するものを神に返されたでしょうか。主の御事業を進めるために、主があなたに要求されるすべてのことをなさったと思いますか。新しい伝道地に入り、真理が宣べ伝えられていない場所に真理を高く掲げるために必要な資金について祈っていた時、あなたのことを示されました。あなたの名前が語られたようでした。主は、「彼は私が委託した資金を持っている。それを必要とする新しい伝道地のために用いることは、彼の永遠の益となるでしょう」と言われました。

私はあなたに手紙を書く決心をしました。私たちの大きな必要に対してお金を送ってください。することはできないでしょうか。主の御事業の前進のために主があなたの資金をお望みになるなら、それをこのために投資してください。私は私の物を全部使い果たしてしまいました。それで今度は、主があなたにゆだねられたものをお返しすることをお願いしているのです。見渡すかぎり畑は色づいています。人々は私たちが行って集会することを要求しています。これを拒むことはできません。私は私の土地を担保にしようとしたが、オーストラリアの銀行はこの方法ではお金を貸してくれません。主は、あなたがよい仕事に資金を投資して、私たちを助けることができることを示されました。大きな仕事をしなければなりません。

私たちは開かれた神の摂理に従って動きたいのです。かなりの前進はできました。しかし、ここでやめることはできないのです。

はっきり申し上げますが、あなたが持つておいでになる主の資金を返して、私たちの差し迫った必要を満たしてくださいませんか。主があなたの心に働いてくださるよう祈ります。私たちは、罪のうちに滅びつつある魂を救うためにできるかぎりのことをしたいと思っています。一つの魂は、全世界より価値があるものです。よい働きがなされていると思っています。ニューカスルでは約三五人バプテマスを受けました。あと一五人バプテマスを待っています。この地域全体が目覚ましています。ニューカスルの近くの都市も伝道しなければなりません。お金は神の家宰の手にあつて、私たちのところに来るはずなのに、お金の不足で妨げられるのでしょうか。

たとえば話の中で、すべての人は主人から何かを受けています。各自は真理を前進させる上で生じる必要を補うために、自分の責任を果たすべきです。財産はタレントです。主はメッセーヂを送られます。「あなたの持つている物売って、施しなさい」と。私たちの持つている物は疑いもなく、すべて主の物です。「銀もわたしのもの、金もわたしのもの」と、万軍の主は

言われます。経済的に苦しくなった時、神がご自分の資金を保管していると言われる人々に、滅びゆく魂のために働きを進める資金をお願いすべきではないでしょうか。私たちは、あなたがたが控えめにまくことを望みません。控えめにまけば控えめにしか刈り入れることはできないからです。私たちはあなたが天に財を貯えるように望んでいます。豊かにまく者は、豊かに刈り取るのです、刈り入れはまくことに比例します。コリントの信徒への手紙二の九章を読んでください。

まもなくキリストは、すべての人に、その行為にしたがって報いを与えられます。あなたのお金はまもなくあなたの手を離れて、他の人に移るでしょう。そうなるともうあなたの家宰としてのテストにはなくなります。今はあなたの物で、主はあなたを試みようとなさっています。生きているうちに、自分の財産の分配者となり、義務を忠実に果たすことによって与えられる祝福を受けてください。神の物を神にお返しなさい。これが神の方法です。神は、そのタレントを家宰としての僕に貸与され、真理の知識が伝達されるために用いるようになさるのです。この仕事は、神の僕の手にある資金がなければできません。

私たちは、あなたが財産を処分されるようにお勧めします。神がそれを求めておられます。

私たちは病人のために集会の家と病院が必要です。この新しい伝道地に、神の御事業が前進するのを望んでいます。神の御事業が前進するために、惜しみなく献金してください。

手紙五三、一八九九年

神は私たちの義務を示される

貧しい男女が、その家を売って御事業のために献金することについてアドバイスを求めてきました。彼らは資金を求める訴えに動かされました。そして、自分たちのためにすべてのことをしてくださった主のために何かをしたいのです。このような人に私は申し上げます、「今あなたの小さい家を売ることはあなたの義務ではないかもしれませんが、神のもとに行けば、神はあなたの熱心な祈りを聴き、あなたの義務を理解する知恵を与えてくださいます」。天からの知恵を神に求めれば求めるほど、人の知恵を求めることは少なくなり、天からはるかに大きな光が与えられ、神は謙遜に求める人々を祝福してくださいます。

しかし私は、神が財産を与えられた人で土地も家も持っている人には、「遅くならないうち

に、それを売って施しなさい。神はあなたが今までなさったよりもっと多くの期待をしておられるのです」と言うことができます。財産を持っている人々に、「神は私と私の資産をどの程度お求めになっているのですか」ともっと熱心に祈るよう勧めます。人々が主の日に立つ準備をするために今なすべき働きがあります。救霊の働きに資金が投ぜられ、救いに入った人々は、魂を導くために資金を携えて来るでしょう。

『レビュー・アンド・ヘラルド』臨時号、一八八八年一二月二一日

第八章 遺言の重要性

主の遺言の執行者

キリストは人類を愛し、彼の生活のすべての行動でその愛を表されました。イエスは、彼が人間を愛せられたように人間も互いに愛しあいなさい、と言われました。イエスの救いの力と愛は、神を信じる人々の生活の中心となるべきです。

昇天なさる直前、キリストは弟子たちに、「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じてお

いたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」という任命をお与えになりました。

このようにして、もっとも重要な委託が弟子たちに与えられたのです。キリストは、この世に永遠の生命という宝を遺言によって残され、弟子たちはこの遺言の執行人となることを期待されました。彼らはその仕事の責任を知っていました。彼らは、飢えている世界に対して生命を与えるパンを持っていることを知っており、各地に行って御言葉を宣べ伝えたのです。キリストの愛に動かされ、必要なすべての人に生命のパンを裂き与えることを控えることはできませんでした。救い主の最後の言葉が、いつも彼らの耳に響いていました。

最初の弟子たちに与えられた御命令は、すべての弟子に与えられているのです。一人ひとりが主の遺言の執行者なのです。私たちは皆、熱心に求める人に神よりの真理を与えてきました。すべての信徒は神の共労者なのです。

『レビュー・アンド・ヘラルド』一九〇二年一月七日

延ばしてはいけない

生命の終わりに近づきつつある年輩者たちに私は勧めます。イエスにあって眠る前に、主の物を正しく処理しなさい。あなたは主の家宰であることを忘れてはなりません。あなたが生きているうちに、神の物を神にお返しなさい。あなたの理性が働くうちにこのことを実行してください。私たちが年をとったとき、神がお立てになった機関に私たちの財産を贈与していくようにするのは私たちの義務です。サタンは、必要な資産を主の御事業から引き離そうとしてあらゆる手段を尽くします。神の御事業が神の真理の前進と御名の栄光のために一ドルまで必要としているのに、資産というタレントをこの世の企業と結びつけている多くの人々がいます。私たちは天に宝をたくわえ、錆びることのない袋に入れておくべきではないでしょうか。

私は特に、まもなくその資産を処分しなければならない年輩のかたがたに、宣教と教えのために忠実に働いてきた人々を覚えるよう勧めたいと思います。健康と生命が失われる時、あなたの資産を神の御事業に投資できるところへおいってください。そうすれば資産は銀行に渡り、

常に増加していくのです。

『教会への証』七巻二九五、二九六ページ

サタンが事務的なことを支配するとき

神は、信者と言っている多くの人々が世のビジネスをだらしない方法でやっているのを喜びになりません。彼らは、自分たちの取り扱っている財産が神に属していること、また家宰としての報告を神にしなければならぬことを忘れているようです。ある人たちはこの世のビジネスをまったく散らかしたままにしています。サタンはそれを眺めていて、時機をねらい、彼の働きによって、安息日を守っている人々から多くの資産を奪います。そして、その資産は彼の側にいくのです。

年輩のある人々は、この世の仕事の清算を好まないでそのままにしているうちに突然病気になるって死にます。そして、真理に興味のない子どもたちが財産を取り、サタンはそれを自分に都合のよいように使います。「だから、不正にまみれた富について忠実でなければ、だれがあ

なたがたに本当に価値あるものを任せるだろうか。また、他人のものについて忠実でなければ、だれがあなたがたのものを与えてくれるだろうか」

サタンとその使いたちは、神の民の資産の処理について、神よりも多く関係しているという恐るべき事実を示されました。終末時代の神の僕たちは愚かです。彼らはサタンに彼らの事務的なことを支配させ、神の御事業に属している、また属すべきものを彼の側に任せているのです。神は不忠実な僕に目を留め、説明を求められるでしょう。

神の家宰は、忠実で賢明な処置によって、この世の仕事を公平で正確にまちがいなくやっていくことができるのを私は見ました。老人や虚弱な人や子どものない人々が、自分の資産を、彼らが突然この世を去った時に、神の御業に用いられるところに置いておくことは、彼らの特権であり、義務でもあるのです。しかしサタンとその使いたちは、このことについて自分たちが勝利していることを喜んでいます。救いを継ぐ賢いはずの人々が、神のお金が自分たちの手から敵の手に流れていくのを喜んで許しているように見えます。このようにして、彼らはサタンの王国を強めているのに、あまり気にしていないように見えるのです。

法的な勧告が重要な時

一八七〇年のバーモントでのキャンプ・ミーティングの時、神の御霊が、老境にある富を持った両親に、その資産の処理についてはっきりした証を述べるように私を促しました。私は、一般の事務処理については注意深く、抜け目なく、迅速で徹底している人々が、その資産を生きているうちに処理することについては見通しと迅速さを欠いていることを示されました。彼らはいつ自分の恵みの時が終わるかを知りません。そして、毎年毎年そのビジネスを清算せず、しばしば自分の理性を用いることなしに生涯を閉じてしまいます。あるいは、彼らは一瞬の警告もなく突然亡くなり、彼らの資産は、彼らが承認しないような方法で処理されてしまいます。彼らは怠慢の罪を犯しており、不忠実な僕なのです。

現代の真理を信じるクリスチャンは、知恵と洞察を表すべきです。長い病気の間に資産を調整するよい機会が来ることを予期して、資産の処理をおろそかにすべきではありません。たとえばいつそのビジネスから離れても、その処理に対して意見を言うことができなくなっても、彼

らが生きている時に処理したと同じように処理されるような状態にしておかねばなりません。多くの家族が資産の全部を不正に盗まれています。一時間で十分やれることをおろそかにしたために、彼らは貧しくなってしまうのです。遺言を書く人は、それが有効性を持つように書くために、法律的な勧告を受ける努力と費用を惜しんではなりません。

真理を信じると告白する人々は、その信仰を行為によって示すべきです。彼らは不正な富を持って友を作り、ついに永遠の住居に受け入れられるようにすべきです。神は人間を資産の管理者となさいました。神は彼らの手に救霊の大事業を前進させるため、資金をお与えになりました。その魂のためにキリストは彼の家、富、栄光を捨て、貧しくなり、その屈辱と犠牲によって多くのアダムの子らを、神のもとに導かれたのです。神の摂理の中に、主は、主のぶどう園での働きは彼の管理者に授けられた資金によって支えられることを定められたのです。神の御事業前進のための要求に彼らが答えないならば、彼らは不忠実で怠慢な僕であることを表しているのです。

法律の要求を満たしているか

ある遺言書はしっかりした方法で書いてないので、法律の要求を満たすことができません。それで幾千ドルが御事業に対して失われるのです。兄弟たちは、神の御事業の忠実な僕として、この問題に対して頭を働かせ、神の物を神のために安全に確保する責任を感じなければなりません。

多くの人がこの点について不必要な心づかいをします。彼らは、年をとった人や病人に資産のどんな処理法を考えているかを知ろうとこの問題を持ち出すのは、触れてはならない話題だと考えているのです。しかし、これは救霊のために御言葉を伝えるのと同じように聖なる義務なのです。神の富や資産を持っている人がいるとして、彼は間もなく管理者の立場が変わろうとしている時、神が御事業のために与えられた物を、自分の親戚だからといって悪者の手に渡すでしょうか。クリスチャンは、その人の将来を考えてあげると同時に、神の御業の将来も考えなければなりません。そのために、主の資金を正しく処理しなければならないのです。彼に

与えられたタレントを賢く用いなければなりません。彼の兄弟たちは、彼がこの世での生命を終えようとしながら同時に神の富を盗んでいるのを黙って見ていたのでしょいか。これは本人にとっても御事業にとっても大きな損失です。なぜなら、彼は資金のタレントを神の真理に関心を持たない人々に渡すことによって、どの点から見ても、彼はそのタレントを包んで地中に隠していることになるからです。

主は彼に従う者が、自分でできるうちにその資産を処理することをお望みになります。ある人は、「私たちは自分たちの物と言えるすべての物を実際に処分しなければなりませんか」と聞くかもしれません。私たちは今、そうすることを求められていないかもしれませんが。しかしキリストのために喜んでそうするようであればなりません。私たちは、すべての所有物が絶対的な意味で神の物であることを認め、神の御事業の前進のために必要な時にはいつでも惜しみなく用いるべきです。ある人々は、宣教師を外国に送り、真理を印刷し、秋の木の葉のように全世界へ散らすために必要な資金が求められた時、その訴えに耳を閉ざします。

このような人は、自分が死ぬ時献金をする処置をすでにしていると言って、自分の貪欲なことの弁解をします。彼らはその遺言の中に、神の御事業のことを考慮しました。ですから、神

より什一やその他の献金を奪って、貪欲な生活をします。そして遺言書で、神が彼らに貸出し与えられたもののごくわずかの部分を神に返し、大部分は真理に関心のない親族に与えてしまふのです。これは最も悪質な盗みです。生きている間だけでなく死ぬ時も神の物を盗むのです。

現在の生活の最後近くまで来世の生活の準備を延ばすのは、まったく愚かなことです。また、神の御事業に対して寛大な心を求められた時、あなたが神の家宰であることを他人に譲る時まで延ばすことは大きな誤りです。あなたの資産のタレントをゆだねる人は、あなたほどよくやらないかもしれません。富を持っている人々はそんな危険をどうして冒すのでしょうか。死ぬまで財産を処分しない人は、神に捧げるより、死に捧げているのです。そうすることによって、御言葉のうちに明らかに示されている神の計画とまったく反対の行動をしているのです。良いことをしようと思えば、現在の尊い瞬間を捕らえて、好機を失うのを恐れているかのように力いっぱい努力しなければなりません。

この世において神の要求に答えず、知っている義務をおろそかにし、死に臨んで遺産を残すことを考えて自分の良心の呵責を静めようとしている人々は、神からおほめの言葉をいただく

ことも、報いを受けることもできません。彼らは克己をすることもなく、できるだけ長く、死がそれを要求するまで、彼らの資金を利己的な気持ちで自分の手に持っていたのです。

多くの人が死の近くまで延ばそうとしていることは、もし彼らがクリスチャンならば、元気づけにしたりはせずです。彼らは自分自身を神に捧げ、また自分の持っている物を神に捧げ、家宰として働きながらその義務を果たした満足を味わうことができたはずで、自分自身の遺言執行者となり、責任を他人に転嫁することなく、神の御要求を満たすことができたはずで、

私たちは、自分を神の財産を管理する家宰、神を事業主と考え、神が要求なさる時、神御自身のものを彼にお返しすべきです。神が御自分のものを利子とともに受け取られる時が来た時、貪欲な人は、ゆだねられたタレントを増し加えていないで、役に立たない僕と宣告されることになるのです。

主は、彼の僕の死を損失とみなされます。彼らは善に対する感化力を持ち、神の倉を補充するために喜んで献金したからです。死んでからの遺産は、生きた時の献金に比べれば、つまりない代用品にすぎません。神の僕は、神に対してよい業と寛容な献金によって遺言書を毎日書くべきです。彼らは、神に捧げる物が、自分で使う物に比べて比較にならないほどわずかな

ることを許してはなりません。毎日遺言を書くとき、彼らは自分の愛情の最も大きな部分を占めている目的と友だちのことを考えるでしょう。

彼らの最善の友はイエスです。彼はその生命を惜しまないばかりか、彼らが富むために貧しくなられたのです。イエスは、全心、全財産、私たち自身と私たちの持ち物全部に値する方です。しかし多くの自称クリスチャンは、この世においてイエスの要求を先送りし、死ぬ時にわずかなものを差し上げることによって彼を侮辱しています。

このように、神から盗むのは衝動的な行動ではなく、よく考えられた計画で、その前置きとして、彼らは「健全な精神状態で」とことわっているのです。生きている間に、神の御事業を横領して、死後もそれを続けているのです。しかも、それを精神力のすべてで承認しているのです。多くの人が死の床で、このような遺言書を書いて満足しています。彼らの遺言書は、死に対する準備の一部であり、彼らの所有物がその死の時を妨げないために準備されたのです。彼らはその家宰としての仕事を要求された時、気持ちよく思うことができるでしょうか。

未来の永遠の生命を得ようと思うならば、この世においてよい業に富んでいなければなりません。裁きの座が定められ、記録の書が開かれる時、すべての人はその行為によって報いを受

けるのです。天の記録に載っている教会員の多くの名前に、盗みを行った、と記されています。これらの人は悔い改め、主のために私心なく与えることをしなければ、不忠実な僕と同じ運命にあずかることは確かです。

活動的な実業家が、突然倒れることがあります。そして調査してみると、そのビジネスは破産状態にあることがわかります。その財産を決済する努力の中で、財産の全部でなくても、大部分を弁護士報酬に費してしまい、妻や子ども、それとキリストの御事業は、資金を盗まれることになります。主の財産の忠実な家宰は、自分のビジネスがどんな状態にあるかを知っており、賢い人のように、突然の変化に対しても備えをしています。恵みの時が突然終わり、その資産の決済を求められても、大きな困惑は残さないでしょう。

多くの人は、健康に見える間、遺言書を作ることをあまり考えません。しかしこの用意は、私たちの兄弟たちが考えておかなければならないことです。経済状態を知り、事業が混乱に陥らないようにしておくべきです。その資産を、彼らがいつその事業から離れてもいいように整理しておくべきです。

遺言書は法律的に正しく作られなければなりません。遺言書が作られてから、数年そのまま

にしておいて、御事業の必要に応じて寄付が続いてなされても問題はありませぬ。兄弟がた、遺言書を作ったからといって、死が一日でも早く来るということはありません。あなたの財産を処理する時、神の御事業のことを忘れないでください。あなたは神の代理人で、神の財産を預っているのです。だから神の御要求を第一に考慮すべきです。もちろん、あなたの妻と子どもが衣食に欠くようであってはなりません。彼らの必要のために準備をしてください。しかし習慣だからといって、あなたの遺言に、必要な状態ではない親戚の名前の長い列を入れないでください。

現在行われている財産処理の利己的な方法は、神の計画ではないことを覚えてください。それは人間の考えたものです。クリスチャンは改革者となり、現在のやり方をやめて、遺言の作り方についてまったく新しい観点を持つべきです。あなたが取り扱っているのは、主の資財であることをいつも考えに入れてください。この問題では、神の御旨が守るべき律法なのです。もしだれかがあなたを財産の遺言執行者としたならば、あなたは遺言者の意志を綿密に調べて、少しでもまちがいのないようにするでしょう。天におられるあなたの友イエスは、あなたに財産を任せられました。そしてそれをいかに用いるべきかについての遺言をなさいました。

この遺言が、無我の精神で調べられるなら、神の御旨が誤って行われることはないでしょう。神は、もし人間が感謝と従順な心を持っているならば、どんな危機にも十分な資金を備えてくださっているのに、神の御事業は恥ずかしいほどおろそかにされています。

遺言書を作る人は、それを作り終えたらもうそれ以上の義務はないと感じるべきではありません。与えられたタレントを絶えず働かせて、主の御事業を築き上げていかなばなりません。神はすべての人が、その資産を賢く処理するように計画を立ててくださいました。神はその御事業を奇跡で支えるように考えてはられません。神は、自分たちの資産を節約して、御事業前進のために用いている、何名かの忠実な僕を持っておられます。自己犠牲と献金は例外的なことではなく、それが習慣となるべきです。神の御事業は成長するにつれて資金が必要となります。国の内外から光と真理を持った宣教師が常に求められています。このために、働き人と彼らを支える資金が必要なのです。

第九章 熟年における再婚

ジョゼフ・ヘア・シニアに対する勧告

愛するヘア兄弟、先日いただいたお便りについて申しますと、この問題に関して私は特別な光を受けていないので、あなたが関心をお持ちの点について何もお話しすることがありません。

ウエスレー・ヘア氏と奥さんに相談してみてください。彼らは、あなたが考えている人を知っているので、適当な相談相手となるでしょう。あなたも言うように、老年のあなたは寂しい

と思います。もしあなたが愛し、その人もその愛にこたえるなら、私に異存はありません。しかし私は、あなたが考えている女性を知らないのです、お二人を知っている人のように意見を述べることはできません。

ただ一つのこととは確かです。あなたが長年仕えてきたお方は、あなたにとって安全なカウンセラーであるということです。絶対にまちがいをなさらないこのお方にお任せなさい。あなたも、残されている時は短いのです。私たちは永遠の生活に対して成熟していく必要があります。キリストは言われました。「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい。わたしの父の家には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとに迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる」(ヨハネによる福音書一四の一―三)。このことを喜び、できるだけよくよいなようにしましょう。

老人にも青年にも、招きが与えられています。「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負

い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる」(マタイによる福音書一一の二八、二九)。心と魂と声をもって、休みの港、快い休みがあることを感謝しましょう。この招待と休息を受けることは、あなたの特権であり、私の特権でもあるのです。私たちは今、人生の残りの時には、すべての困惑や心配からできるだけ解放され、キリストの生命のうちに休むことを望んでいます。「わたしの範は負いやすく、わたしの荷は軽いからである」(同三〇)とイエスは言われます。

主は、主に頼る者を失望させることはなさいません。彼は私たちにとって、初めであり、終わりであり、すべてのことにおいて最善です。彼は、必要なすべての時のいと近き助けです。この奉仕の最後の日々が、キリストの力によって支えられ、導かれ、守られますように。主があなたを祝福し、強め、神の愛の心をやわらげ静かにする感化によって、あなたの最後の日々を最良の日々としてくださるように祈ります。主があなたを祝福し、あなたを守り、彼の愛のうちに休みを与えてくださることは、わたしのあなたに対する最も熱い希望なのです。

『性的行動、姦淫、離婚に関する証』三——三三ページ(手紙七〇、一八九八年)

J・N・アンドルーズへの勧告

わたしは、あなたが先日ヨーロッパへ帰る前に結婚するようにと、次の理由によって勧めました。まず、あなたの世話をする妻が必要です。また、あなたの子どもたちの母となるべき良き伴侶なしに、家族を連れてヨーロッパに行くべきではありません。この子どもたちは、すべての点であなたの心の特徴を持ったり、あなたの考えだけで育てられたりしないほうがいいと思うのです。あなたの心はバランスがよくとれていません。あなたが持っていない、そしてその重要なことがあなたにはわかっていない他の要素が、あなたの働きには必要なのです。

妻を亡くしたあと、独身で過ごすというあなたの考えはまちがっています。しかし、この点についてはこれ以上言いません。適切な能力を持った高貴なクリスチャン女性の感化は、あなたの心の傾向に反対の影響を与えるでしょう。あなたは、神の御事業に関連した宗教的性質を持つあらゆるものを見る集中力と強い洞察力を備えています。それがあなたに、心と体を弱

らせる心の重荷と精神の憂うつをもたらしています。あなたと反対の感情を持ち、あなたの考えを暗い問題から遠ざける能力を持っている人があなたと一緒にになり、その人が自分の個性を放棄せず、独自性を保ち、あなたの心を陶冶する影響力を持っているなら、あなたは今、病気に打ち勝つ肉体の力を持ち、病気に対抗することができたはずです。

『性的行動、姦淫、離婚に関する証』三四ページ

あなたがヨーロッパへ帰る前に妻を得るようにと私がテキサスから手紙を書いたことを覚えているでしょう。私がこの問題について光を持っていなければ、このような勧めを与えたと思いますか。このような勧告は、はっきりした理由がなければなされるものではありません。私は、あなたが自分の判断と考えに固執しすぎていることを示されました。あなたの信頼する人たちにもっと喜んで従い、自分の感情や印象に左右されないなら、あなた自身のためにも神の御事業のためにも、はるかによい結果となるでしょう。

あなたがヨーロッパへ伴侶なしに行ったのはまちがいであったことを私は示されました。もし出発前に、子どもたちのために母となることができる信仰ある女性を選んでいたら、それは

賢明なことで、あなたの有用性も十倍になっていたでしょう。

『性的行動、姦淫、離婚に関する証』三四、三五ページ

S・N・ハスケルの再婚 *

*ハスケル長老の最初の妻は一八九四年に亡くなり、一八九七年六四歳の時彼は再婚。妻ヘティ・ハー
ドは四〇歳であった。

私たちは、ハスケル長老の手紙を夕方、安息日が終わってから受け取りました。あなたがたの関心が一つになったことを聞いて喜んでいます。この結合を神が祝福してください。

そして、お二人が互いに力となり、助けとなるよう祈ります。神の平和があなたがたの上に留まるようにということが、私の心からの希望であり、熱心な祈りです。「行って……立ち、この命の言葉を残らず民衆に告げなさい」（信徒言行録五の二〇）

ハスケル兄弟、あなたが助け手（ハスケル夫人）を持っていることを喜びます。しばらくの間、このことを願ってきました。私たちが従事した働きは、イエス・キリストの知識を広める

ため、彼において私たちを一つとしました。暗黒と誤謬の中にある人々に福音の使者として仕え、あなたがたがお互いに新しい関係で幸福になるのは、あなたがたの特権です。私たちは、あなたも私も愛している大いなる働きにおいて、同じ心で一致することができます。それは、わたしたちの前にある大いなる目的、すなわちキリストの御国の拡張とその栄光を祝うことです。これに関係しているすべてのことにおいて、私たちはクリスチャンの交わりの中で、また、天使たちの仲間として一つなのです。……

私に与えられた光によって、私は確信しています。聖別された器としてあなたがたが結合すること、光は今、暗黒と誤謬の中にある多くの魂の救いのために輝くでしょう。私は、あなたが自分のために生きてきたのではなく、あなたがたが愛し仕え、拝してきた方のために生きてきたことを知っています。

『性的行動、姦淫、離婚についての証』三三、三四ページ

ジョージ・バトラーの再婚の希望*

*バトラー長老の最初の妻は、一九〇一年一月一八日に六七歳の夫（長老）を残して亡くなりました。彼はエレン・ホワイトの承認を受けていましたが、ケック夫人と長老の息子のハイランド・バトラーの反対があり、ケック夫人の姉妹と結婚する意図を延ばしました。そして結局、一九〇七年七三歳の時再婚しました。

愛するケック兄弟、姉妹（一九〇二年五月）

夜の間、私の心は重荷を感じていました。バトラー兄弟はケック姉の姉妹との結婚を考えていることを知ったからです。ある兄弟たちはこのことを私と話した時、この結婚はバトラー兄弟が感化力を損うと言い、特に妻の死後こんなに早く結婚するのはよくないと反対しました。その時私は、この問題をほとんど考慮していませんでした。しかし、夜になってある人と話していた時、この問題は違った様相を呈してきました。

その時私は他の人と語っているようでした。その人に、「この結婚にどうしてそんなに反対

なのですか」と聞いていました。その答えは、「彼は彼女よりずっと年上なのです」ということでした。私は、「彼が彼と同じ年頃の女性と結婚するのは適当で賢明なことでしょうか。このような女性は、彼の働きに助けとなることができるでしょうか。高齢のバトラー長老は妻だけしかできない世話を受けるべきです。その若い女性がこのような生活をしたいと思っているとすれば、だれがそれを止めることができるでしょうか。彼女はおよそ三五歳と聞いています」と言いました。

ハスケル姉妹は、ハスケル長老がその仕事の助け手が必要としていることを確信したので結婚しました。年齢が離れていることは、ハスケル長老には結婚の障害になるように思われませんでした。彼は私の意見と勧告を求めました。私は、「彼女の心がその方向に向いているならば、躊躇しないでください。あなたの働きを支え勇気づける、霊的で理知的な女性を、あなたは必要としています」と言いました。彼らは結婚し、神はそれを大いに祝福し、彼らの生涯は御事業のために二倍も有用となりました。

バトラー長老とケック姉の姉妹との結婚には、主の御手があるのではないのでしょうか。この問題について他の人たちが考えるようなことは、私たちは考慮する必要はありません。私たち

は、「この結婚は主の御旨ですか」と問うべきです。二人が助け合って、お互いの有用性を増すための、神のご計画であるかもしれません。

長年の間、病気の妻のために、バトラー長老は仕事をするができず、多くの特権を失い、彼がなすことができたはずの仕事を妨げられていました。苦悩と病気で心身ともに弱かった妻を、彼は忠実にやさしく世話しました。彼女が亡くなった時、彼は悲しみのうちに妻を葬りましたが、希望のない人のようではありませんでした。

妻の死後、彼と数年いっしょに住んでいた彼の姉妹のために、彼女の希望だったのでその友人たちを訪問する計画を立てはじめました。しかし主は、彼の生涯にもう一つの悲しみを加えることを適当と思われました。突然、予期しない時にロックウッド姉妹（バトラー長老の姉妹）が亡くなったのです。

バトラー長老には、善良で高潔な女性による心を和らげる感化が必要です。このように女性の伴侶は、彼にとって大きな祝福となるでしょう。過去一五年間の彼の経験を考えると、彼が自分より若い人を愛し、交わることを希望したのは不思議ではありません。

あなたがたは正しく物事を考えていません。主は言われます。

「わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり

わたしの道はあなたたちの道と異なると

主は言われる

天が地を高く超えているように

わたしの道は、あなたたちの道を

わたしの思いは

あなたたちの思いを高く超えている」。主はそのなさり方によって私たちを驚かされます。

バトラー長老は体力も霊的な力も強く、主はヨブになさったごとく、またモーセになさったごとく、バトラー長老を試みられました。私はバトラー長老の中に、神の前に心を低くした人を見ます。バトラー長老は、若い時とは違った精神を持っています。彼はイエスの足元で教訓を学んできました。苦しみ悩んだ彼の妻の世話を長い間したあと、炉の火の中から精錬され、清められて出て来たのです。私は兄弟を神の僕の一人として尊敬し、愛しています。

あなたがたの姉妹がクリスチャンとして神に導かれ、教えられるならば、私はもうこれ以上何も言わず、神にお任せします。人間の知恵によって、主の計画を台無しにし、その御業を妨

げないようにしてください。バトラー長老は、強く、親切で、知的な女性の助けを必要としています。その女性は、彼の有用な範囲で彼と協力することができ、彼を励まし、その手を支え、主のために立派で受け入れられる働きをする助けとなる人です。あなたの姉妹がそのような女性であるなら、バトラー長老と結ばれることに光栄を感じるでしょう。

最初私は、そのようにすることはバトラー兄弟の感化力を損うだろうと考えました。しかし、時間をかけて問題を考えてみて、今は別の考えになってきました。私は、バトラー長老が私の家を訪問してくださる前に、この結論に達したのです。

私はこの問題に関してバトラー長老と一言も話してはいないということを、了解してください。彼はそれについて一言も触れてはいません。

手紙七七、一九〇二年

愛するケック兄弟、姉妹（一九〇二年五月二三日）

私の書いた手紙に少し書き加えたいと思います。私たちは、バトラー長老とたいへん有益な話し合いをしました。彼はこの前の水曜日の朝、ヒルズバーグに向かって出発しました。W・

C・ホワイトとその妻は、彼とともに馬車に乗って行きました。

私の兄弟姉妹、私は、あなたがたが、あなたがたの姉妹とバトラー長老の結婚について主のもとにもってゆかれるよう望みます。あなたがたの反対を祈りをもって考え、私が書いた言葉に照らして、あなたがたの姉妹がバトラー長老と結婚する気になるなら、この結婚が神の計画であるかもしれないと考え、あなたがたの反対をやめることができるかどうか考えてみてください。

バトラー長老は、有用で知性のある人で、聖書をよく研究しています。彼の奉仕は、その働きを助けることのできる女性と結婚すればはるかに価値あるものとなります。思慮深く知的な女性の助けがあれば、はるかに多くのことを彼はできるということを考えてみてください。彼は一人で生活し、一人で旅行すべきではありません。早くよい妻を見いだすことができれば、それだけ彼の働きのためによいのです。妻はこれらのことを彼のためにできますが、男性の助け手ではそれはできません。たとえば、衣服の世話、すなわちほりがついていないか、また群衆の前に立つ準備がいつでもできているかどうかを見てあげることなどです。

この結婚に対する反対を撤回することが最善ではないでしょうか。神が定められたことに反

対することは、いずれにしても最善ではありません。主は、あなたがたの姉妹とバトラー長老との結婚は、結婚しない時よりもっと多くのことをなしとげることを見ておられるからです。人が言うことはこの問題に何の関係もありません。それが神の目的ならば、私たちは神と戦うべきではありません。

手紙七八、一九〇二年

息子からの愚かな勧告

あなたのお父さんを非難しないでください。あなたが感じているように感じるべきではありません。お父さんは神にとがめられるようなことは何もしてはいません。神の譴責は、人の心にあるのみです。お父さんは決してその子どもたちを恥ずかしめるようなことはしていません。彼は主の道を歩み、正義を行い、正しい判断をしています。主は彼の前に道を開き、彼が主の民のために大いなるよい業をするようにさせてくださいます。キリストが彼の救い主です。キリストを見る時、彼はキリストの姿に変えられるのです。

あなたのお父さんは、親切なやさしい夫でした。長年の間、彼は妻に忠実であり、常に妻を愛してきました。死によって、彼は長い間特別に世話をした人と別れました。それから彼の姉妹が彼から取り去られ、彼の家庭は壊れてしまいました。このような事情のもとで、あなたのお母さんの死後、彼が自ら真理へと導いた女性に心をひかれるようになったとしても不思議ではないでしょう。この女性は若くはありませんが、彼の仕事の助けとなることができる年齢です。あなたのお父さんの年齢が、彼の幸福の妨げとなるべきでしょうか？……

あなたのお父さんが、この女性と結婚すれば、神はお二人を大いに祝福してくださいと思います。しかし今までの経過を見ると、これ以上この話は進まないように思います。この結婚を認めることを拒否した人々は、いつかその行動の結果と直面しなければならなくなることを覚えておくべきです。しかし私は、この問題を、それに関係してきた人々に任せるほかはありません。（一九〇二年七月二十八日、ジョージ・バトラーの息子ハイランド・バトラーに宛てて書かれた）

『性的行動、姦淫、離婚に関する証』三五、三六ページ

エレン・ホワイトは再婚しないことを選んだ

私の夫が死によって取り去られて以来二一年間、私は再婚のことを一度も考えたことはありません。なぜかといえば、神がそれを禁じられたのではなく、ただ一人でいることが私にとって最善であつたからです。神が私にゆだねられた仕事を推し進めるために、だれも私とともに苦しむべきではないと思つたからです。そして、奨励や叱責を与える証を述べる私の責任と仕事に関して、だれも私に影響を与える権利を持つべきではないからです。

このことを行うにあたって、夫から助けと励ましと同情を受けましたが、彼は私の道を妨げることとはまったくありませんでした。今は彼の同情と祈りと涙がないことに、大きな大きな寂しさを感じます。そのことは、私のほかにはだれもわかりません。しかし、私の仕事はなされなければなりません。神がお与えになる譴責や奨励の言葉を語るにあたって、私が少しでも人間の力の影響を受けたと推測されてはならないのです。

この仕事に関連するすべての困難とすべての試練の中で、私はずっと孤独でした。まったく

孤独だったのです。神だけが私の助けでした。この世で私のなすべき最後の働きは、まもなく終わります。私は、できるだけ誤解されないように、私の気持ちを明らかにしておかねばなりません。

原稿二二七、一九〇二年

年齢が非常に離れている場合

現代人の体力と精神力の弱さの原因の一つは、結婚する男女の年齢が非常に離れていることです。年老いた男が若い妻を選ぶことがしばしばあります。それで夫の年齢は延ばされますが、妻は年老いた夫に与える活力の欠乏を感じます。女性は、自分よりはるかに年長の男性を愛したとしても、そしてこのような犠牲を喜んで払いたいと思っても、生命と健康を犠牲にすることは義務ではありません。彼女はその愛情を抑制しなければならなかったのです。彼女には自分自身の興味よりもっと高い考慮を払うべきことがあったのです。もし子どもが生まれた場合、どんな状態になるでしょうか。若い男性がかなり年長の女性と結婚した場合は、もっと

悪い状態になります。年齢差の大きい結婚で生まれた子どもたちは、多くの場合よくバランスのとれた精神を持っていません。また体力も十分ではありません。このような家族は、しばしばいろいろな変わった心配な性格を表します。彼らはしばしば早く死に、たとえ大人になっても多くの場合、身体的に、知的に、また道徳的に欠陥があります。

父親は、弱っている機能では、若い家族を適切に育てることができないのです。

『セレクトッド・メッセージズ』二巻四二三、四二四ページ

第一〇章 生活のエネルギーを保つ

短い話と長い生命

愛する兄弟「ジョージ・バトラー」

私たちは試練に会うでしょう。しかし私は自分に要求されている以上の仕事を課しているあなたや他の働き人たちに告げるよう命じられました。与えられた勧告は、話を短くせよということです。長い話は分けてその半分を話せば、長い全体の話より、聞く人の心によりよく残ります。この勧告はあなたに対してと同様、私に対しても与えられました。私は特別のメッセー

ジが与えられた時以外は、簡潔に話すように決心しました。それがいちばんいいからです。

私は老年になっていますが、それを感じていません。私は九歳の時以来いつも苦しんできました。そして七八歳になって、若い時のように苦しまなくなりました。しかし今からは、私は自分の力に留意しようと決心しました。長い話で人々を疲れさせないようにします。年輩で経験豊かな働き人の一人であるあなたも、黙示録を書いたヨハネのように長く生きて証をしてくださるよう望みます。

私たちはみな一人ひとり神の訓練を受けています。神に頼りましょう。私たちは神の助けが常に必要だからです。あなたは一度に多くを話しすぎます。そして私もそうです。不必要な負担を負うのは最善ではありません。私たちは、もっと証の集会が必要です。私の言葉をよく考えてみてください。あなたの力を節約してください。私は年をとった人がこんなに重荷を負うことを恐れます。地上歴史のこの時に適した、はっきりした証を述べることを望みます。あなたが明晰な頭脳を持ち、同じ尊い信仰を持つ人々と語り合うことを望みます。

一致をもたらすために最善を尽くしましょう。私は望んでも過去の経験を変えることはできません。主は私を導き、私たちの仕事のすべての前進に、神の御力の証拠を与えてくださいま

したので、私たちが今真理として保っている立場を二重に確信しているのです。私たちは、何が真理であるかを定めるのに、このような主の力のあらわれに対して不信を持つことはできません。私たちは最初の確信を最後まで持ち続けるように命じられています。今や私たちは、真理が何であるかをはっきり悟り、敵がひそかに私たちを出しぬかないようにしなければなりません。

私たちは、ハスケル長老やラフバロ―長老と同じように、この御事業の初期の歴史を知っています。一八四三年と一八四四年の経験を通った人で、今なお生存している人はわずかです。私たちの生命力に注意し、働きすぎないようにしましょう。

手紙八八、一九〇六年

眠れない時は祈りなさい

一八九二年六月二三日、また一晚過ぎました。私は三時間眠っただけです。私は、いつものように苦痛はありませんでしたが、不安で神経質でした。しばらく横になって、眠ろうと努め

ましたが、その努力をやめて、心をすべて主に集中しました。私にとって、「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる」(マタイによる福音書七の七)という約束はほんとうに尊いものでした。私は熱心に、主イエスだけが与えてくださることのできる慰めと平和を祈り求めました。私は苦痛の中から自制力を失わないように、主の祝福を求めました。一瞬でも自己に頼ることはしませんでした。

『セレクトッド・メッセージズ』二巻二三五ページ

昼間の休み

愛する「S・N・」ハスケル兄弟^{*}

^{*}この手紙は、ハスケル兄弟が七三歳、エレン・ホワイトが七九歳の時に書かれた。

あなたが、働ける程度以上に仕事をしないように勧めます。体を休める状態に置くことができるように、休みのない、心を疲れさせる仕事は少なくすべきです。昼間に睡眠をとってくだ

さい。そうすれば、もっとたやすく考えることができます。考えは明瞭になり、言葉には説得力が出てきます。そして、あなたの全身全霊をもって神とつながっていてください。霊的な光を受けるために、聖霊を受け入れてください。聖霊の導きのもとに、主を知る道を進んでください。主の示しに従って、進んでください。そして、主の命じられることを行ってください。主を待ち望めば、あなたの力は新たにされます。

しかしあなたもわたしも、たえず緊張しているように命じられてはいないのです。私たちは、神が要求なさるものはいつも神に捧ぐべきです。そして神はその契約を示されます。「主を畏れる人に主は契約の奥義を悟らせてくださる」(詩編二五の一四)。私たちは父なる神とイエス・キリストの奥義を一層深く教えられます。私たちは美しく装った王の幻を見、私たちの前には、神の民のための休みが与えられます。私たちは神が建てられる都に間もなく入るのです。それは、私たちが長く語ってきた都です。

『セレクトッド・メッセージズ』二卷二三〇、二三一ページ

適当な食事と休息

愛するベーツ兄弟*

*ジョゼフ・ベーツの生涯最後の年に彼に宛てて書かれた。彼は八〇歳で死去。

あなたはある期間一日一食しかとっていないということを聞きました。しかしそれは、あなたの場合まちがいです。私は、あなたには栄養のある食事が必要で、節食しすぎている危険のあることを示されました。あなたの体力は厳しい訓練に耐えないでしょう。

あなたは集会で教会を指導する重荷を負うべきではありません。あなたより若い人がすべきで、あなたはその責任を負うべきではないのです。あなたは自分で集会をしなければならないと感じて、あちこちの集会の責任を持つべきではありません。あなたの精神と体力はそれだけの仕事には耐えられないからです。神があなたを活発な体力的重荷から解放されたあとも、主が求めておられると感じてさらに責任を積み重ねるのは危険です。あなたはきれいに気持ちよ

く重荷を置き、静かな休みを求め、あなたの最後の変化にふさわしくなるようにすべきです。再臨信徒の兄弟たちがあなたの指導を求めないとき、あなたは悩み、不満に感じています。彼らが教会の指導をあなたに求めるのはまちがっていることを私は示されました。

あなたが二日間も断食するのは誤りです。神はそれを要求してはられません。注意して、一日に二回はよい完全な食物を十分とってください。あなたの控えめの食事を変えなければ、体力は減少し、精神もバランスがとれなくなってしまうです。

私はチャールズ・ジョーンズ兄弟に、あなたがいろいろな教会に行って働くことを奨励したり許したりしないよう忠告しました。あなたは体も精神も、働くような状態にはありません。あなたは働きをやめ、休息し、楽しく過ごし、働きの責任や神の御事業について心を悩まさなくてもよいのです。隠やかで静かな楽しい気持ちで、神の働きに自分自身をゆだね、柔らかな、温かい心で天国に入るために成熟していくべきです。神はあなたを愛しておられます。しかし年をとるとともにあなたの強い特有な性格は、神の御事業を助けるより、むしろ傷つけています。

あなたは神の御手の中に休み、あなたが真理を説教する仕事は終わったと思うべきです。こ

の方面の責任は負わないでください。自分の楽しみのために証をすることはかまいません。しかし、教会教理的な説教をしたり、公の集会をするために旅行したりすることは、もう神があなたをその責任から解放されたのです。

手紙二、一八七二年

健康改革の行き過ぎた考え

質の悪い、半分腐った果物や野菜を、数ペニー節約できるからといって食卓に置いてはなりません。このようなやり方は損失です。聖霊の宮として最善の働きにふさわしいものとなるように養わなければならない体が、おろそかにされています。克己や犠牲について語られる多くの話は、全く不適當で無用なものです。

M 兄弟は家族と離れていた間、不十分な食事と、生活の便宜や注意深い世話がなかったために、気候の変化や病気に耐える力をなくしました。彼は、健康改革と克己についての見当違いでゆがんだ考えの犠牲となって亡くなりました。彼は、いつも自分の都合はほとんど考えず、

自分を取り扱うのに自分の考えに任せていました。彼は費用を節約するためには、どんなことでもしました。このような良心的な人々が、健康改革の極端な考えによって害を受けるのです。

Rさんの家族は、彼女の健康改革の考えによって害を受けました。ジョン兄弟は勤勉な働き人でしたが、彼の胃にはいる食物は、彼の栄養になっていませんでした。食物は彼の体の消費されたものを補わず、よい血液を造りませんでした。彼が今感じている弱さは、ほんとうの病気のためではなく、血液が良くないからです。

神が考える力をお与えになった男女が、なぜ理性を働かせないのでしょうか。力がなくなってきた時、なぜ生活習慣や食事のことを考えないのでしょうか。そして、食事を変えてその結果を見ないのでしょうか。いわゆる健康改革の結果の苦しみは、真の改革をしていないからです。食事の問題についての狭い考えや過度の無理は、体力、知力及び道德の力を著しく弱めるのです。

私たちの伝道は、慈悲深い方法で行わねばなりません。健康的で完全な食物を胃に与えなければ、決してよい結果にはなりません。なぜなら、健康で完全な食物でなければ、血液から栄

養分を奪い、そのために全組織が混乱し、精神は病み、神への健康的で完全な働きの代わりに、不完全で有効でない奉仕を捧げる結果となってしまう。……体が特別な配慮を必要としていることを考えないために、苦しんでいる人々が、どこにでもあります。

手紙一二、一八八七年

忠実な健康改革^{*}

^{*}この部分は、一九〇九年の世界総会の時、代議員たちに対して読まれたものの一部。

健康をいかにして保つかという問題は、基本的に重要な問題の一つです。神を畏れてこの問題を学ぶ時、食事を簡素にすることは、私たちの体と魂の成長のために最善であることを学びます。忍耐を持ってこの問題を研究しましょう。この問題で賢く行動するには、知識と判断力が必要です。自然の法則に逆らわないで、服従しなければなりません。

肉食や茶、コーヒー、濃厚で不健康な食物の調理の害についての教えを受けた人々や、犠牲

を払って神と契約を結ぶ決心をした人々は、不健康なことがわかった食物に対する食欲に捕らわれることをやめます。神は、食欲が清められ、よくないものに対して克己が行われることをお命じになります。これは、神の民が完全な民として主の前に立つ準備としてなさなければならぬことです。

信者と告白している人々のうち、ある人々は証の書のある部分を神よりのメッセージとして受け入れていますが、彼らが好んでいるものをとがめている部分は拒否しています。このような人々は、自分や教会の幸福に逆らっているのです。私たちは、光のあるうちに光の中を歩むことが大切です。健康改革を信じるといいながら、日常生活においてその原則と反対のことをしている人々は、自分の魂を傷つけ、信者にも未信者にもまちがった印象を与えています。

『教会への証』九卷一五三、一五四ページ

健康に適する住居の場所

住居用の建物はすべてできるかぎり排水の良い、高い所に建てなければならない。そうすれ

ば土地は乾燥し、湿気や毒気から生ずる病気の危険が防止される。この問題があまりに軽視されている場合が多く、低い土地や排水の悪い場所の湿気やマラリヤのため、つねに不健康で恐ろしい病気にかかり、多くの人が死ぬのである。

家の建築にあたって完全な換気と、よく日光が当たるかどうかをしらべて着手することが特に重要である。各室に空気が十分に通り、日光がよくはいるようにすべきである。寝室は、昼夜空気がよく流通するように設計しなければならない。日々窓を解放して空気と日光を入れることのできないへやは寝室に使用するには適しない。たいていの国では、寝室は寒い日や雨の日にはよく暖め、乾燥できるように暖房のくふうが必要である。

客間はたえず使用する他のへや同様に注意し、他の寝室と同じように空気と日光がよくはいり、常時使用せぬへやにたまりがちな湿気をとるためなんらかの暖房のくふうが必要である。日が当たらないへやに眠る者や、よく乾燥せず、空気にさらしてない寢床に休む者は、自分の健康を危険にさらし、その生命を左右されることがしばしば起こる。……

老人の世話をする者は老人には特に暖かい気持ちのよいへやが必要であることを記憶しなければならぬ。年が進むにつれて精力は衰え、非衛生的な影響に抵抗する活力が少なくなるも

のであるから、老人には十分な日光と新鮮な清い空気を与える必要がさらに大きいわけである。

『アドベンチストホーム』一五五、一五六ページ

いやしの処方箋

福音がその純潔さと力をもったまま受け入れられるときに、それは罪によって生じた病気をいやす。義の太陽は「その翼には、いやす力を備えて」(昇る(マラキ書四ノ二・口語訳))。

この世の与えるものは、失望した心をいやし、精神の平和を与え、憂いを除き、あるいは病気を払いのけることができるとはかぎらない。名声、天才、才能などといったものは、悲しみに満ちた心を喜ばせたり、衰えた生命を回復するためには無力である。魂の内にある神の生命が人間の唯一の望みなのである。

全身に及ぶキリストの御愛が人を活気づける力となるのである。それはすべての重要な部分すなわち脳や心臓や神経にいやす力をもって触れる。それによって人間の最高のエネルギーが

覚せいされ、活動するようになる。これは生命力を破壊するような罪と悲しみ、憂慮や心労から人間を解放する。そして平静さと落ち着きを与える。またそれはこの世の何ものも破壊することのできない喜び、すなわち聖霊による喜び、健康的なまた生命を与える喜びを心の中に植えつける。

「わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」との救い主のお言葉は、肉体と精神と霊の病気をいやす処方である。人間は自分のまちがった行為によって苦痛を自ら招いたにしても、キリストはあわれんでごらんになる。彼らはキリストに助けていただくことができる。彼に頼る者のためにキリストは大いなることをしてくださる。

『ミニストリー・オブ・ヒーリング』八五ページ

イエスは世の人にとっていやしの恵みの泉であつた。ナザレで人目につかず暮しておられた年月の間、イエスのいのちは同情とやさしさという流れとなって人々にそそがれた。老人たちも、悲嘆にくれている者たちも、罪の重荷を負っている者たちも、無邪気によるこんで遊んでいる子供たちも、森の小さな動物たちも、荷物をつけた忍耐強い動物たちも、イエスがいらっ

しやればみなもつと幸福になつた。

『各時代の希望』上巻六七ページ

運動の大切さ

不活動はたいていの病人にとっていちばん大きな害になる。有用な軽度の労働は心身を過勞させず、かえつて病者によい影響を及ぼし、筋肉を強め、循環をよくし、この多忙な社会にあつて、自分が全く不必要な人間ではないという満足感を病人に与える。最初はわずかなことしかできないかもしれないが、間もなく体力が増進していくのに気づき、働きの量も、これにもなつて増し加えていくことができる。

運動は消化器の機能を健全にし、胃弱な者を助ける。食事直後の過激な勉強、乱暴な運動は消化の働きを妨げるが、食後姿勢を正しくして短距離の散歩をすることは大いに益となる。

運動の重要性については実に多くの言葉が述べられ、また書かれているが、なお運動を怠る人が多く、そのため組織がふさがつて肥満し、または過剰な食物を排泄するため精力が尽き

て、やせたり弱くなったりする者がいる。肝臓は血液から不純物を除く役目が過重となり、そのために病気になる。

すわることが多い習慣の人は天候が許す限り夏冬を通じて毎日屋外で運動をしなければならぬ。歩行は馬や車に乗るよりも多くの筋肉を働かせるからよいことである。活発に歩くと、肺は拡張しないではいられないから、肺も健康的に活動させることになる。

こういう運動は健康のためには薬よりもよい場合が多いのである。

『ミニストーリー・オブ・ヒーリング』二二六、二二七ページ

歩行にまさる運動はない

弱くて怠惰な人は活動したがらず、空気や日光を受けないような傾向にうち勝って、戸外の散歩や庭園での働きをすべきです。それは疲れるかもしれませんが害にはなりません。私の姉妹、あなたは疲れを覚えるかもしれませんが、運動は害になりません。そのあとは気持ちよく休めます。活動しないと、動かさない器官は弱くなります。そして、その器官を使うと苦痛

や疲労を感じるようになります。筋肉が弱くなっているからです。運動させると苦痛がある筋肉を、使用しないでいるのは良いやり方ではありません。痛みは、しばしば活動しなかったためにほとんど生命を失っている部分に、生命と活力を与える自然の働きなのです。長く使わなかった筋肉を動かすと苦痛を感じるのは、自然が生命に目覚めさせているのです。

歩行は、それができる所では常に、病んでいる体の最善の薬です。運動によって、体のすべての器官が用いられるからです。転地療法にたよる多くの人は、筋肉の運動による方が、転地よりもっとよい効果をあげることができます。ある場合には、運動不足が腸と筋肉を弱め、萎縮させています。用いなかったため弱くなったこれらの器官は、運動によって強くなります。歩行の代わりになる運動はありません。歩行によって血液の循環も非常によくなるのです。

『教会への証』三巻七八ページ

第一章 苦悩における不屈の精神^{*}

^{*}一八九一年の終わりに、エレン・G・ホワイトは、世界総会の要請にこたえて、オーストラリアに新しく始められた仕事を強化するために旅行しました。滞在は九年間に及びました。到着して間もなく、苦痛の多い長引く病氣にかかりました。この部分の文章はこの病氣の際の彼女の不屈の精神を記録しています（『セレクトエッド・メッセージズ』二巻二三三―二四二ページ参照）。

長引く病氣の中で

どの手紙も、一ページから二〇〇ページにわたって、私が書いたもので、そのほとんど全部が、枕を使ってベッドによりかかり、半分横になり半分座ってか、または、あまり気持ちの良

くないいすに座って、元気を出しながら書いたものです。

座ることは、私の腰と背骨の下部に、非常な苦痛を与えます。もしサニタリウムにあるような安楽いすがこの国（オーストラリア）にもあれば、三〇ドル出しても私は喜んで買います。

……私が正しく座って、頭をあげていることは、とても疲れます。私はいすの背に枕を置いて休み、半分よりかかっていなければなりません。これが現在の私の状態です。

しかし私は少しも失望してはいません。私は毎日支えられているのを感じます。退屈するような夜の長い間、眠ることなどまったく考えられない時、多くの時を祈りに用いました。すべての神経が苦痛のために叫んでいるように思われる時、私が、自分自身のことを考えて気が狂ったようになる時に、キリストの平和が私の心にあふれてきて、私は感謝と賛美に満たされるのです。私はイエスが私を愛してくださることを知っています。そして私もイエスを愛しています。ある時は三時間しか眠りませんでした。ある時は四時間、そして、多くの場合二時間でした。しかしこの長いオーストラリアの夜の暗闇の中で、私の周囲は輝き、神との交りを楽しんだのです。

はじめに私がどうすることもできない状態になった時、広い海を越えて来たことを深く後悔

しました。なぜアメリカにいなかったのだろう。なぜこんな犠牲を払ってこの国に来たのだろう。何回も何回も私はベッドの掛ぶとんに顔を埋めて、思う存分泣きました。しかしいつまでも涙にくれてばかりはいませんでした。

私は自分に言いました。「エレン・G・ホワイト、あなたは何を考えているのですか。あなたが行くのが最善だと教会が判断したところに行くことが自分の義務と思ったから、オーストラリアに来たのではありませんか？それがあなたがいつもしてきたことではありませんか」「はい」と私は答えました。

「それならあなたがほとんど見捨てられたと思い、失望を感じるのはなぜですか。それは敵のしわざではありませんか」

「そうです。そう思います」と私は言いました。

私はすぐに涙をふいて、「もう十分です、もう物事の暗い面は見ません。生きるも死ぬも、私のために死んでくださった方に魂をお任せします」と言いました。

私は主がすべてを良くしてくださることを信じ、どうすることもできない八か月の間、気落ちすることも疑うこともなく過ごしました。今はこのことをこの国の信者のためにも、アメリ

カの信者のためにも、私のためにも、主の大きな計画の一部と見ることをできるようになりました。その理由も、どうなるのかも、説明はできませんが私はそう信じています。そして私は苦しみの中にあっても幸いです。私は天の父なる神に頼ることができます。その愛を疑いません。日夜見守ってくださる保護者があり、私は主を賛美します。心に感謝があふれるので、唇は主を賛美するのです。

手紙一八a、一八九二年

祈りと油注ぎーしかし直ちにいやされないこともある

一八九二年五月二一日。ほとんど一睡もしない苦しい夜は終わりました。昨日の午後、「A・G・」ダニエルズ長老夫妻、「G・C・」テニー長老夫妻とストックトン兄弟、スミス兄弟が、主が私をいやしてくださるようにとの祈祷をお願いしたのにこたえて、家に来られませんでした。私たちは熱心な祈りの時を持ち、大きな祝福を受けました。私も気持ちになりましたが回復はしませんでした。聖書の指示していることでは全部しました。私は神がよ

いと思われる時にいやしてくださることを信じて、主のお働きを待ちます。私の信仰は、「願いなさい。そうすれば与えられる」(ヨハネによる福音書一六の二四)との約束を捕らえていきます。

私は主が私たちの祈りを聞いてくださったことを信じます。私は病氣から直ちに解放されることを望み、自分の限りある判断ではそうすることによって神の業が現れると思っています。祈っている時私は大きな祝福を受けました。そしてその時与えられた、「私はあなたのあがない主、私はあなたをいやす」という確証を堅く捕らえていきます。

原稿一九、一八九二年

イエスは私たちの悲しみや苦しみを知っておられる

一八九二年六月二六日。夜は長く退屈ですから、朝が来るとうれいす。しかし夜眠れない時、決してまどろむことなく私を守ってくださる方を思って、心は感謝でいっぱいになります。イエスは私たちの負っている苦しみも悲しみもすべてを知っていてくださるということ

は、何とすばらしいことでしょう。私たちのすべての苦しみの時、イエスも苦しんでくださったのです。私たちの友だちのうちで人間の嘆きや肉体の苦痛を知らない人もいます。彼らは病気になることがないので、病人の感情の中に完全に入っていくことができません。しかしイエスは、私たちの弱さを感じて同情してくださいます。イエスは偉大な医事伝道者です。彼はご自分で人性をとり、義とあわれみを和解させるために、新しい時代の頭となられたのです。

原稿 一九、一八九二年

「私を健康な果実を結ぶ枝としてください」

一八九二年六月二十九日。私の朝起きた時の祈りは、「イエス様、あなたの子を今日お守りください。あなたのお守りのもとにおいてください。私を健康で、生きたぶどうの果実を結ぶ枝としてください」です。キリストは、「わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである」（ヨハネによる福音書一五の五）と言われました。キリストにあり、キリストを通して、私たちはすべてのことをすることができるようのです。

天使にあげられ、天の聖歌隊の音楽を聞いておられたイエスは、地上では子どもたちの悲しみに同情し、彼らの子どもとしての嘆きにも耳を傾けられたのです。彼は、子どもたちの悲しみをしずめ、絶望を忘れさせる、やさしい同情の言葉で励まし、彼らの涙を乾かしてくださいました。バプテスマの時、イエスの上に鳩のような形でくださった象徴は、彼の品性のやさしさを表しています。

原稿一九、一八九二年

「不親切な言葉を語らないように」

一八九二年六月三〇日。非常に疲れた一夜が過ぎ去ろうとしています。ひどい苦しみがありますが、救い主は私を見捨てておいでにならないことを知っています。「イエスよ、私の口であなたを汚すことがないように助けてください」と私は祈ります。私が不親切な言葉を出しませんように。

原稿一九、一八九二年

「私は不平を言わない」

一八九二年七月六日。主に私の恐れや困惑をすべてお話しすることができるのは、ほんとうに感謝です。私は主のみ翼のもとにあることを感じます。かつて無神論者が、神を畏れる青年に尋ねました。「あなたの拜んでいる神様はどのくらい大きいですか」。青年は、「非常に大きいので、無限を満たしておられます。しかしまた小さくて、すべての清められた人の心に住んでおられるのです」と答えました。

尊い救い主よ、私はあなたの救いを待ち望みます。「涸れた谷に鹿が水を求めるように、神よ、わたしの魂はあなたを求める」(詩編四二の二)。私はイエスをもっとはつきり見たいと願います。私はイエスのしみのない生涯を考え、その教えを瞑想することを好みます。私は幾たび、この言葉を繰り返したことでしょう。「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」(マタイによる福音書一一の二八)

大部分の時間私の体は痛みに満ちていますが、私は不平を言ってクリスチャンの名にふさわ

しくない者とはなりません。この苦しみの教訓は、神の栄光に導くものであり、体の健康によくないひどい状態のもとでは持続した骨折りを避けるようにと、他の人たちに警告する手段であると思います。

原稿一九、一八九二年

「主は私を強めてくださる」

一八九二年七月七日。主は恵みによって私を強め、大切な手紙を書くことができるようにしてくださいました。私のところへ兄弟がたびたび相談のために来ます。私のこの長い苦しみは主の栄光のためであることを強く確信しました。私はつぶやきません。夜中に目が覚める時、イエスが私を見ておいでになることを感じます。イザヤ書五十一章は私にとって特に貴重です。イエスは私の重荷をすべて負ってくださいます。この章を確信と希望をもって読んでいます。

原稿一九、一八九二年

退却する考えはない

一八九二年七月一日。私はエミリー（エミリー・キャンベル。ホワイト夫人の旅行の付添いで秘書を務めた）を五時に起こして、私のために火を起こし、着物を着る手伝いをしてもらいました。いつもよりよく休めたことを主に感謝しました。眠れない時間は、祈りと瞑想に用いました。疑問が心に迫ってきます。どうして健康の回復という祝福を受けないのだろうか。この長い病気は、私がオーストラリアに来たことに対する神の不興の証拠と考えるべきであろうか。私ははっきり答えました。否、と。決してそうは考えません。アメリカを去る前は、時々、私の年で、過労のために弱っている者を、遠く離れた国に行くように主はお求めにならないと思っていました。しかし私自身はっきりした光がない時にはいつも、（世界）総会の声に従うようにしてきました。私はオーストラリアに来て、信者が助けに必要な状態にあることがわかりました。ここに来てから数週間は、私の生涯でいまだなかったほど一生懸命に働きました。個人的信仰の必要について語るように御言葉が与えられたのです。……

私はオーストラリアにいます。主がお求めになる場所に私がいることを信じます。私には苦しみがありますが、退却する考えはありません。イエスは私のもの、私はその子どもという、祝福に満ちた確信が与えられています。暗黒は義の太陽の明るい光によって追い払われました。私たちの苦しみを苦しまれた方のほかに、だれが私の苦しみを理解することができでしょうか。私たちの弱き思いに触れた方、そして誘惑される者を助ける方法を知っておいでになる方以外のだれに、私のことを話すことができるでしょうか。

私が回復を熱心に祈っても、主は答えにならないように思われ、気落ちしました。その時、愛する救い主は、御自分の臨在に気づかせてくださいました。主は言われます。「自分の血であなたを買いとった方に頼ることができないのですか。私はあなたをたなごころに、彫り刻んだのです」。それを聞いて私の魂は、神の臨在によって強められました。私が自分自身から引き上げられ、神の臨在の中にあるように感じます。

原稿一九、一八九二年

神は何が最善かを知ってえられる

一八九二年七月一日。病にかかって数か月間苦しんだ時、祈ってもすぐに答えられないので意外に思いました。しかし、「わたしの恵みはあなたに十分である」(コリントの信徒への手紙二・一二の九)という約束は、私の場合成就しました。私の側には何の疑いもありません。

私の苦しみの時は、祈りの時となりました。私は悲しみをだれに持っていけばよいかを知っていたからです。私は無限の力にすぎることによって弱い力を強くする特権を持っていました。昼も夜も私は神の約束という動かない岩の上に立っています。

私の心は愛に満ちた信頼を持ってイエスに注がれています。彼は何が私に最善かを知っているのです。神のお約束がないなら、私は夜、きつとさびしく感じたことでしょう。

「わたしを呼ぶがよい。

苦難の日、わたしはお前を救おう。

そのことによって

お前はわたしの栄光を輝かすであろう」(詩編五〇の一五)

原稿 一九、一八九二年

苦しみの数か月よりの教訓

私は苦しみと、体の自由もきかない大きな試みの中を通っていましたが、その中で私は、金よりも価値のある尊い経験を得ました。私がオーストラリアとニュージーランドの教会を訪問するために、自分のやりたい計画を捨てなければならぬと最初に悟ったとき、アメリカをあとにして、この遠く離れた国に来ることが、私の義務であるかどうかを本気で考えました。私の苦痛はひどかったのです。夜の眠れない時間に、私はヨーロツパを去ってアメリカに向かつてからの経験を繰り返し繰り返し考えました。それは心配と苦痛、そして重荷の連続でした。私は、これはいったい何の意味があったのだろうと考えたのでした。

私は注意深く、過去数年間私がたどった道と、主がお与えになった働きを考えてみました。

神は一度でも私をお見捨てになつたことはなく、著しい方法で御自身を私に現わしてくださいました。そして私にはつぶやくことは何ひとつなく、かえって私のすべての経験を通して、尊いものが金の糸のように流れているのを見ました。主は、私が必要としているものを、私よりよく知っておいになり、私を御自身の近くに引き寄せてくださったのを感じました。そして私にしてくださいることについて、神に命令するようなことをしてはいけないと感じました。神との不調和が、私の苦しみやどうしようもない状態になる初めだったのです。しかし、私の苦しみが神のご計画の一部であることを感じるようになるまでに、大した時間はかかりませんでした。半ば横になり、半ば座って、私の不自由な手を使える位置に体を置き、痛みに苦しみながらでしたが、かなり書くことができました。この国に来てからこのサイズの紙で一六〇〇枚を書いたのです。

過去九か月間、私はしばしば二時間しか眠れませんでした。そして時に闇が私を取り巻きました。しかし私は祈りました。そして神に近づく大きな心の慰めを実感しました。

「神に近づきなさい。そうすれば、神は近づいてくださいます」(ヤコブの手紙四の八)

「主は激しい流れのように臨み

主の雲がその上を吹く」(イザヤ書五九の一九)

との約束は私に成就しました。主にあって私は輝いていました。イエスはもったいないほど私に近づいてくださいました。そして私に与えられた恵みは十分であったことがわかりました。私の魂は神を見つめ、私は、私を愛し御自分を私のために与えてくださった方への感謝に満ちた賛美でいっぱいです。私は心から、「わたしは自分が信頼している方を知っており」(テモテへの手紙二・一の一二)とすることができました。「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずです。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます」(コリントの信徒への手紙一・一〇の一三)。イエス・キリストによって、私は勝ち得てあまりあるものとなり、勝利したのです。

私は自分の苦しみにおける神の目的を読むことはできませんが、神は何が最善であるかを知っておられます。ですから私は、心も体も魂も、私の忠実な創造者である神にゆだねます。「というのは、わたしは自分が信頼している方を知っており、わたしにゆだねられているものを、その方がかの日まで守ることがおできになると確信しているからです」(テモテへの手紙

二・一の一二

手紙七、一八九二年

記憶力の減退を予期せよ

神に奉仕して年をとった人は、自分の周囲に起こっていることについてぼんやりしていて、最近取り決めたことも、すぐ忘れることがあります。しかし子どもの頃の情景やでき事などは、はっきり覚えています。

『神の息子、娘たち』七八ページ

神の愛のうちに休む

神と主イエス・キリストを崇めるのは、私たちが神の愛のうちに休む時です。あなたは主の証人の一人であり、神は決してあなたを離れず、見捨てたりなさいません。私はあなたに、次

のように告げるように言われました。神はあなたのすべての罪を許してくださいました。そして、彼の白い義の衣を着せてくださったのです。今、神があなたにお求めになるのは、神の愛のうちに休むことです。神はあなたを守ってくださいます。あなたは主イエス・キリストのために戦い、信仰を守りました。それゆえに、信仰を守り、救い主の御名を拒まなかったすべての人に生命と永遠が与えられる日に、あなたのために備えられた生命の冠があなたへの報いとなるのです。

あなたの精神が明晰でなくなったことは、キリストがあなたの尊い救い主でないとの証拠ではありません。今あなたに子どもの時代が返ってきたとしても、神はあなたをなお御自分の子として取り扱ってくださいます。あなたの信仰生活は、昔と同じように今も証をしています。

あなたは神の言葉を信じ、困難や試練の時、その言葉に従って行動しました。使徒のように、あなたも、「わたしは、戦いを立派に戦い抜き、決められた道を走りとおし、信仰を守り抜きました。今や、義の栄冠を受けるばかりです。正しい審判者である主が、かの日にそれをわたしに授けてくださるのです。しかし、わたしだけでなく、主が来られるのをひたすら待ち望む人には、だれにでも授けてくださいます」(テモテへの手紙二・四の七、八)と言うことがで

熟年へのメッセージ

きる
ので
す。

手紙
二九
九、
一九
〇四
年

第一二章 死に直面している人への確証と慰め

忠実な助け手に対する同情と希望のメッセージ^{*}

^{*} マリアン・デービスは、一八七九年、ホワイト夫人のスタッフに加わり、アメリカ、ヨーロッパ、およびオーストラリアで二五年間、ホワイト夫人と共に仕事をしました。彼女は一九〇三年に結核にかかり、一年後にその生涯を閉じました。ミス・デービスは、忠実で信頼のできる文筆の助手であり、ホワイト夫人が心より愛した人物でした（『セレクトッド・メッセージズ』二巻二五一―二五四ページ参照）。

マサチューセッツ州 メルローズにて

一九〇四年八月一七日

愛するマリアン・デービス姉妹

私は家にいたいのですが、どの集会に出席することになるかは、はっきりしません。ともかく最善を尽くしましょう。……

私は主があなたを力づけてくださるように祈り、快方に向かうことを願っています。キリストのみ手を堅く握り、しっかりと主にすがってください。……

マリアン、失望してはいけません。あなたの病気は主の御手のうちにあり、治療に関しては、A 医師と B 医師に任せ、必要なことをやらせてもらってください。今の病気が治ったら、あなたにやっていたきたい本がいくつかあります。少し苦痛でも、必ず食事をとってください。長く食べなければ、食べないほど、弱くなってゆきます。……私たちは次のようなことを考えてみたらと思います。主は私たちをどのように必要とされるでしょうか。神様は力に満ちた方ではありませんか。神の力に頼りましょう。どんな人も主イエスのようにあなたを助ける

ことはできません。神に頼ってください。神様が面倒を見てくださいます。

手紙三七八、一九〇四年

マサチューセッツ州 メルローズにて

一九〇四年八月二十四日

愛するマリアン・デービス姉妹

不安な思いが少しでもあなたの心に入っていないようにしてください。あなたの病気がひどくてお気の毒に思います。健康の回復のためにあなたができることは何でもしてください。費用の請求書の支払いはみな私がします。私の体の調子は良くありません。近い所でも馬車に乗って旅行することはできません。自動車に乗っての長い旅行もしません。私とあなたが生きていく限り、私の家はあなたの家と違って……。

マリアン、私は家を離れている間中ほとんどおいしい食べ物はありませんでした。が、食べる

ことは決してやめませんでした。やめれば何もできなくなるからです。おいしい食物がない時でも、生きるために食べました。ここにきてからおいしい食べ物を食べました。私は神を信頼し、あなたのため、私自身のために熱心に祈ります。私たちは、不安や心配を持つべきではありません。主を信頼すればよいのです。あなたと私に必要なことは、主を信じ頼ることだけです。彼は、御許に来て信じる者を完全に救ってくださることができる方です。「私の手を堅く握りなさい」とイエスはあなたと私に言われます。私たちの救い主キリストーあなたの救い主であり、私の救い主でもある方を正しく考えるように、勧められています。あなたは、神の栄光を輝かせることができるすべての機会を喜んできました。あなたは、神の最後のラッパがなる時、心からの喜びのうちに神の都に受け入れられるでしょう。

マリアン、あなたは正しい教えを人間の魂に実際に接触させ、彼らがインスピレーションを捕らえ、健全な生活に導かれるために、私といっしょに働いてきました。「健全な言葉」は金銀や地上のどんな魅力あるものより、尊ぶべきものです。あなたは真理を愛してきました。あなたは主なる救い主が著しく無視されていることを強く感じてきました。神と同じ心になれたら！―これがあなたの望みでした。神の真理を離れて人が真の救いの道を昇ることはできま

せん。

「わたしの魂よ、主をたたえよ。

わたしの内にあるものはこぞつて

聖なる御名をたたえよ」(詩編一〇三の一)

さあ、あなたも私も、毎日感謝の礼拝を捧げましょう。信仰の祈りに答えて、長年の間あなたに生命を与えてくださったのは、神様ではなかったでしょうか。弱いあなた自身を神の御手に任せ、まったく神に信頼なさい。私たちは神の言葉を生活の唯一の大原則、天が私たちの手に与えた万能薬と考えています。あなたと私はいっしょになって、人々の前に、聖潔・慈悲・真理・愛を交えた、真の健全な言葉を示そうと努めてきました。私たちはそれを単純な形で示し、人々が、愛と聖が一つになったキリスト教の中心を理解するように努めてきました。私たちはキリスト教をこの世における人間の生活の冠、栄光として示すために、できるだけのことをしてきました。この世は、神に愛され、あがなわれた尊い者として神の都に入る準備をする場所です。そこで私たちは、イエスが私たちのために備えに行かれた住まいに入るのです。だから主をほめましょう。主をほめたたえましょう。

マリアン、どうぞ食べてください。あなたの地上の医者もあなたが食べることを望み、偉大なる医事伝道者であられるイエスもあなたが食事をすることを望んでおられます。(M・J・)ネルソン姉妹はあなたの望むものを何でも求めてくれるでしょう。あなたの生命が助けられ、働きを続けられるなら、私がいちばん喜びます。しかしあなたの生涯も私の生涯も、イエスにあって眠る時が来るとしても、身体の組織が必要としている栄養を拒否して生命を短くしてはなりません。食べたくても食べたくなくても、食べてください。こうして回復に向かうためのあなたの分を果たしてください。回復のために最善を尽くしてください。そうすれば、あなたに休みをお与えになることが主の御旨であつたとしても、あなたはできるだけのことをしたことになるのです。私はあなたの働きを喜んでいます。主を賛美しましょう、マリアン、大医師イエスはあなたをいやすことがおできになるのです。愛をこめて。

手紙三七九、一九〇四年

ネブラスカ州 カレッジビューにて

一九〇四年九月一六日

愛するマリアン姉妹

あなたの容態をいつも心にかけています。そしてあなたの心に悩みがあることを悲しんでいます。できれば慰めてあげたいと思います。尊い救い主イエスは、今まで何回も、必要な時に、いと近き助けではありませんでしたか。悩むことをやめ、聖霊を悲しませないでください。このことはあなたが人に何回も語ったことです。今あなたは病気ですが、病気でない人々からの言葉があなたを慰め、そして主があなたを助けてくださるようと祈っています。

あなたが生涯を終えることが主の御旨であつたら、あなたの全身を―体も心も魂も、正義と愛の神の御手にゆだねることが、あなたの特権であると思ってください。神はあなたが想像しているような、あなたを責める気持ちは持つておいでになりません。主はあなたを愛しておられないと考えることはやめてください。神がいつくしみのうちに備えてくださったところに、あなたは自身をのこりなく投げ出してください。主はあなたが主の招きに耳を傾けるのを待

っておられます。……あなたは神が厳しい取り扱いをなさらねばならないようなことは何もしてはいません。私にはよくわかります。主の愛を信じ、御言葉の通りに受け取るのです。疑いや不信が私たちの心を捕らえてはなりません。神の偉大さがわかって、そのために私たちの信仰が混乱させられてはならないのです。

神が私たちを助けて、柔和と謙遜に導いてくださるよう祈ります。キリストは、王の衣と冠を横に置いて、人と交わり、人が完全になることができることを示してくださいました。慈悲の衣をまとい、この世界において、完全な生活をなさり、その愛の証拠をお与えになりました。彼は天の宮廷における高い統治の立場より、身を低くして、人間の性質をおとりになりました。彼の生涯は私たちの模範です。神の偉大さがよくわかって、神の愛に対する私たちの信仰を消すことにならないようにしましょう。キリストは悲しみの人となり、悩みをお知りになりました。キリストに捧げた心は聖なる琴となり、聖なる音楽を奏でるのです。

ネブラスカ州 カレッジビューにて

一九〇四年九月二六日

愛するマリアン姉妹

私たちがまた会う時まで、あなたの生命が保たれるよう祈ります。――きっとあなたは死なな
ないで生きていますよ。……

イエスをごらんなさい。生きているにしても死ぬにしてもイエスに頼りなさい。彼はあなたの
の救い主です。生命の源です。あなたがイエスにあって眠るならば、彼はあなたを墓から出し
て光栄ある永遠の生命を与えてくださいます。イエスが今からずっと平和と慰め、希望と喜び
を与えてくださるよう祈ります。

全的にイエスに頼りなさい。彼はあなたを離れず、お見捨てにはなりません。彼は「わたし
は、あなたをわたしの手のひらに刻みつける」と言われます。マリアン、もしあなたが、私よ
り先に行っても、天国でお互いに会うでしょう。私たちは見られているように見、知られてい
るように知るので。キリストの平和があなたの心にあるように祈ります。キリストがその約

束に真実であられるので、あなたも真実をもって彼を信頼してください。あなたの弱った震える手を、彼の強い手の中に置き、彼があなたを強め、励まし、慰めてくださいますように。私は今からここを去る準備をします。今あなたといっしょにいることができたらどんなにいいでしょう！心より愛をこめて。

手紙三八二、一九〇四

がんのため死に臨んでいる牧師への慰め

私たちはあなたを忘れてはいません。家庭礼拝の時、私たちの祈りのうちに覚えています。

私は幾晩も目を覚まして、あなたのために祈っています。

ほんとうにお気の毒に思います。私は神の祝福があなたの上にあるように祈ります。神は何の慰めもない状態に置かれることは決してありません。この世はとるにたらぬ小さなものですが、兄弟姉妹よ、イエスは、「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる」（マタイによる福音書七の七）と

言われます。この約束の成就をあなたのためにお願いしています。……

私の兄弟。ある晩私はあなたによりかかり、こう言っているようでした。「もうしばらくですよ。もうわずかの苦しみですよ。あとわずかの時間の苦悩、そして休みが来るのです。祝福された休みです。あなたは特別な方法で平和を見いだすでしょう。人は皆試され、試練を受けるのです。私たちは皆苦難の杯を飲み、悩みのバプテスマを受けなければなりません。しかしキリストは、すべての人のために、死をその最も苦しい形で味わわれたのです。彼は人をあわれみ、同情なさることを知っておられます。彼のみ腕にお休みなさい。彼はあなたを愛しておられます。永遠の愛を持ってあなたをあがなわれたのです。死に至るまで忠実であってください。そうすれば生命の冠を与えられます。

この世界に住むすべての人は、試練の意味を知るでしょう。神は恵みを与え、決してあなたをお見捨てになることはありません。神の約束を覚えてください。――「書き記せ。『今から後、主に結ばれて死ぬ人は幸いである』と。」「霊」も言う。「然り。彼らは労苦を解かれて、安らぎを得る。その行いが報われるからである」(ヨハネの黙示録一四の一三)。――勇気を出してください。できれば今あなたといっしょにいたいのですが、できなくても私たちは、よみ

がえりの朝、会うでしょう。……」

私はC姉妹にも慰めの言葉を語っていました。私は彼女を励まし、部屋は、神の天使でいっぱいになったように思われました。お二人とも勇気を出してください。主はあなたがたを離れず、お見捨てになることはありません。

『セレクトッド・メッセージズ』二巻二五六ページ

行為は永遠に残る

神の使命者は、死によってその手がきかなくなるまで、真理の標準を高く掲げなければなりません。死の眠りにつく時、かつて彼らを知っていた場所も、もはや彼らを知らなくなります。彼らが説教した教会、生命の言葉を掲げるために訪れた場所はなお残っています。山や丘、人が見たいろいろなものも、なおそこにあります。これらすべてのものは、やがて過ぎ去ってしまいます。地球が前後によるめき、小屋のように取り除かれる時が来ます。しかし神の働き人の思想、目的、業は、今人の目に見えなくても、最後の審判と報酬の大いなる日に明ら

かになります。今忘れられているものも、受け入れられるか、責められるかの証として、現わされるのです。

愛、親切、自己犠牲―これらのものは決して失われることはありません。神に選ばれた人は、朽ちるものから朽ちないものへと変わり、彼らの親切な言葉や行為は明らかにされ、永遠に残るのです。どんなに小さいわずかなことでも、無我の奉仕は決して失われることはありません。キリストのいさおしによって義とせられ、その言葉と行為は永遠に残るのです。

『レビュー・アンド・ヘラルド』一九〇四年三月一日

キリストは私たちを安全に御国に導いてくださる

死に臨んだクリスチャンが、見守っている人たちに、自分は欺かれていた、神はなく、キリスト教には真実性はないという証をした例があったでしょうか。それにひきかえ、無神論の暗い衣をまとった多くの人々が、冷酷な死の使いの前に倒れました。学問をしたという人々がその不信仰を語り、彼らの無神論を誇示した例をいくつもあげることができます。しかし死に臨

んで彼らは、恐怖のうちに、希望の星のない将来を見たのです。死に臨んで彼らは、「私は神は存在しない、忠実な人に報いはない、悪い者に罰はないと信じようとしたが、その試みは無駄であつた」と言い、「私は失われた者に定められた運命を受けねばならないことがわかつた」と言いました。

トーマス・スコット卿は死に臨んで、「私はこの瞬間まで、神も地獄もないと信じていたが、今私はこの二つの存在と、神の正しい審判によつて破滅する運命にあることを知り、また感じている」と言いました。

ヴォルテールは一時期、時代の名士でした。すばらしい邸宅に住み、あらゆるぜいたくをほしいままにしていました。王たちも彼を尊び、世界の偉人たちが彼との交際を求めました。ある時人々は、彼の馬車から馬をはずし、彼らが馬の代わりに馬車を引いて勝利の行進をして町を回りました。……

次に死の床についている一人のクリスチャンを見ましよう。スコットランドのハルバートンです。彼は貧しく、また激しい苦痛に苦しんでいました。ヴォルテールが持っていたような、心を慰めるものは何もありませんでした。しかし彼はヴォルテールよりはるかに豊かでした。

「私は間もなく死ぬでしょう。よみがえりの時、私は、墓から出て、私の神を見、永遠に生きるのです。私は、私が見いだした彼の名を祝福し、彼にあって喜んで死にます。私は生まれたことを神に感謝します」と彼は言いました。

デービス・ブルースター卿の晩年について、彼の娘はこう書いています。「彼は救いの道がこんなに簡単であることを神に感謝しました。難しい議論もなく、困難なことをする必要もありません。主イエス・キリストを信じることで生きることです。彼は神に頼り、神よりの平和を楽しみました」。この偉大な科学者の最後の言葉は、「人生は私にとってとても明るく、前途にも光がある。私はもろもろの世界とその中のすべてのものを造られたイエスを見る。その真の姿を見るであろう。私は長年の間、光なるキリストを持ってきた。それはほんとうに明るい光であり、私は安全で、心より満足している」というものでした。

「罪人の道は厳しい」ですが、知恵の「道は楽しく、平和に満ちて」います。墮落の道は、初めは花々で明るく見えるかもしれませんが、その道にはとげがあるのです。その入口に輝いている希望の光は、絶望の闇に変わり、その道を歩む者は、終わることのない夜の暗い陰の中に落ち込んで行くのです。

それにひきかえ、キリストをガイドとする人は安全に導かれます。道は険しく、坂は大きく、左右に落とし穴があるかもしれません。私たちの旅路は、悩みに耐えなければならないかもしれません。疲れて休みがほしい時に、悩みが続き、弱っている時に戦わなければならない、絶望状態の時に、希望を持たなければならいかもしれません。しかしキリストを道案内とすれば、必ず最後には希望の港に着くことができます。私たちの前に、キリストは荒れた道を歩き、私たちが歩くために道を平らにしてくださいました。

知恵の道を歩く人は、悩みの時にも、すばらしい喜びがあります。彼らが愛しているお方が、目には見えませんが、いっしょに歩いてくださっているからです。一步一步昇るにつれて、だんだんはつきり、彼の手が触れているのを認め、見えない神よりの栄光の輝きが、より明るく彼らの道を照らします。彼らの賛美の歌は、より高らかに響き、昇って行って、御座の前の天使の歌声と一つになるのです。「神に従う人の道は輝き出る光、進むほどに光は増し、真昼の輝きとなる」

『サイNZ・オブ・ザ・タイムズ』一九〇四年八月三日

キリストによって清められた墓

キリストは死を通ることによって、墓を清められました。主イエスは、墓場の束縛を破ってくださいました。ヨセフからかりた墓で、「わたしは復活であり、命である」(ヨハネによる福音書一一の二五)と宣言されたのです。墓はイエスの臨在によって清められました。十字架を負われたイエスの足跡が彼の生涯に見られ、彼の品性を表しています。

手紙一〇三、一八九八年

私たちが洗濯をし、アイロンをかける時

私たちは私たちが信じているお方を知っています。人々は、私たちが心を天に向けすぎていると言いかもしれませんが、私たちはよくわきまえています。私たちはほとんど四八年間働い

てきて、神への奉仕についてある程度知っています。死別について私は一人になった時最もよくわかりました。彼は私のかたわらに立ち、彼の大きな愛情に私は三〇年間頼ってきました。その彼が亡くなってしまったのです。しかし私は一人ぼっちではありません。キリストが私の助け主です。私はカーテンがまき上げられ、栄光の中にあるキリストを私たちが見ることできたらよいのと思います。私たちは主の家族の一員なのです。すなわち天の主の子どもたちなのです。キリストが私たちの助け手としてかたわらにおいてになるのを知ることが、私たちの特権です。

キリストは、「わたしはあなたの行いを知っている」と言われました。キリストはあなたが完全な生活をしていて、キリストのことを語り、考えることを好むかどうか、また彼を賛美することがあなたの喜びであるかどうかを知っておられます。あなたは最後に天に行って、天の聖歌隊に加わることを期待していますか。品性については、墓に行った時と同じ姿で墓から出てくるのです。なぜならこの朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを着るからです（コリントの信徒への手紙一・一五の五四参照）。その時変化するのは体です。だから今は洗濯をし、アイロンをかける時です。私たちの衣を洗い、小羊の血によつ

て真つ白にする時です。

原稿八四、一八八六年

収穫のために熟する

マサチューセッツ州ウスターで八月二二日から二八日まで開かれたキャンプ・ミーティングは、私にとって特別に関心のある時でした。そこで私は多くの信者と会いました。そのうちのある方々は、第三天使の働きの初めからこれにかかわった人々でした。この前のキャンプ・ミーティング以来、忠実な旗手の一人であつたヘイスティングス兄弟は、職務にあつて倒れました。年をとつて衰弱しておられる方々を見て、悲しく思いましたが、彼らが熱心に生命の御言葉に耳を傾けているのを見てうれしく思いました。神の愛と真理が彼らの心に輝き、その顔を明るくしているように見えました。神の僕たちの口からの神のメッセージを聞くと、その目はしばしば涙でいっぱいになっていました。それは悲しみの涙ではなく、喜びの涙でした。この老齡の旅人たちは、ほとんどすべての集会に出席していました。あたかもトマスのように

に、イエスが来られて、「安かれ」と言われる時、彼らがそこにはいないようなことになるのを恐れているかのようでした。

熟しているかどうかのように、これらの尊い試練を通った忠実な人々は、収穫にふさわしいかたがたでした。彼らの仕事はほとんど終わりました。彼らはキリストが天の雲のうちに力と大いなる栄光を持って現れるまで、生きていることを許されるかもしれません。また彼らは、いっ列を離れて、イエスにあって眠るかもしれません。しかし闇が地をおおい、暗黒が人々をおおう時、これらの光の子らは、救いの時が近づいたことを知り、顔を上げて喜ぶことができるのです。

第一三章 死別の時

泣くことは罪ではない

愛する姉妹

ご主人と別れ、一人になられたことは同情に耐えません。私もあなたが今たどっている道を通りましたから、それがどんな経験であるかわかっています。この世界にはどんなに多くの悲しみ、どんなに多くの心を痛めること、どんなに多くの涙を流すことがあるでしょう。肉親と死別した人々に、「泣いてはいけません。泣くのはよいことはありません」と言うことは正

しくありません。このような言葉は少しも慰めにはなりません。泣くことは罪ではないのです。亡くなった人が何年も病弱と苦痛で苦しんだ人であったとしても、そのことは私たちの目から涙をぬぐうものではありません。

私たちの愛する者が亡くなります。そこで神に対する彼らの責任は終わるのです。死ぬことは重大で厳粛なことを考えますが、生きていることははるかに厳粛なことです。生きている間の毎日が、負うべき責任に満ちています。私たちの個人的関心、言葉、行動は、私たちと関係のある人々に影響を与えます。私たちはイエス・キリストに慰めを求めるべきです。尊い救い主、彼はいつでも人間の嘆きに同情してください。……あなたの力の源にしっかりとすがってください。

『セレクトッド・メッセージズ』二巻二六四ページ

主こそあなたの慰め

愛する姉妹

G 姉妹よりの手紙を今受け取り、ご主人が亡くなられたことを知りました。心より御同情申し上げます。訪問できる場所にいましたら、ぜひおうかがいしたいのですが……。

私はあなたに申し上げたいのですが、主は不幸のうちにあなたを苦しめることを喜ばれません。ご主人は私が考えていたよりずっと長く生命を与えられました。それは神の慈しみです。そして多くの苦しみした後、イエスのうちに休ませてくださったのです。……あなたのご主人も私の夫も、今は休んでいます。もう彼らに痛みはありません。彼らは休んでいるのです。

あなたが悩み、悲しんでおられることを、お気の毒に思います。しかし尊い救い主イエスは生きておられます。あなたのために生きておられるのです。イエスは御自身の愛の中に慰めを得るようにお望みになります。心配しないで、主に頼ってください。……不平を言うてはいけません。嘆き悲しんではいけません。暗い面を見ないでください。神の平和があなたの心を支配してくださるように。そうすればあなたは、その苦しみのすべてに耐える力を持ち、忍耐する力を与えられて喜ぶでしょう。主をほめましょう。神の恵みと力を語りましょう。あなたの心を取り巻いている雰囲気明るくしましょう。

不平の言葉をもって神を辱めることがありますように。心と魂と声で神を賛美しましよ

う。すべてのことの明るい面を見ましょう。あなたの家に雲や影を持ち込まないようにしましょう。あなたの顔の光でありあなたの神であるお方をほめたたえましょう。こうして、すべてのことがいかに円滑に進むかを見てください。

『セレクトッド・メッセージズ』二巻二六六、二六七ページ

夫を亡くした時のエレン・ホワイト

最近夫を亡くした時、私は永遠の世界を近くに見ることができました。ちょうどそれは私が大いなる白い御座の前に連れてこられ、私の生涯がそこでどんなに見えるかを見たように思いました。そこには私が誇ることができものは何もありません。主張できるような功績もありません。私は、「神様、私にはあなたの恵みを少しでも受ける資格はありません。価値のない者です」と叫びました。私の唯一の望みは十字架につき、よみがえられた救い主にあります。私はキリストの血の功を求めました。イエスは信頼するすべての人をまったく救ってくださいます。

私の心が心配で乱れている時、快活な顔の表情を保つことは、しばしばとても難しいことです。しかし私の悲しみが周囲の人々に暗い影を投げかけることを許すことはありません。苦しみや死別の時、その悲しみ以上に悲嘆にくれることがあります。それは抑えることをせずに悲しみに身を任せることが習慣になっているからです。イエスの助けによって、私はこの弊害をとどめようと決心しました。しかし、この決心はひどく試みられました。

私の夫の死は私にとってひどい打撃でした。突然だったので余計にひどく感じました。彼の顔に死のしるしを見た時、私は感情を抑えることがほとんどできませんでした。あまりの悲しみに叫びたいと切望しました。しかしどうしても私の愛する人の生命を救うことはできないことを知っていました。私は悲しみに溺れてしまうことはクリスチャンらしくないと感じました。私は天よりの助けと慰めを求めました。そして神のお約束は確かでした。主の御手は私を支えました。抑えることもせず悲嘆にくれることは罪です。キリストの恵みによって、私たちは落ち着くことができ、厳しい試みの中でも快活であることさえできます。

キリストが弟子たちと最後に会われた時のことから、勇氣と忍耐の精神を学びましょう。彼らは別れる直前でした。救い主はカルバリーに導く、血にそまった道に入ろうとしておられま

した。彼が通ろうとしておられた場面よりもつとつらい場面は、かつてありませんでした。弟子たちは、キリストの苦難と死を予告する言葉を聞いて、心は悲しみに沈んでいました。また疑いと恐れで悩みました。しかし大きな声で叫んだり、悲しみのために自分を失うことはありませんでした。この最後の厳粛な、大切な意味のある時間に、救い主は弟子たちに慰めと確証の言葉を語られ、そのあと一同は賛美の歌を歌ったのでした。

『セレクトッド・メッセージズ』二卷二六七、二六八ページ

夫ジェームズの死の直後、エレンが見た夫の夢

それから数日の間、私はなすべき仕事についての光を主に求めていました。夜中、私は夢で馬車の右側に乗っていました。夫は馬車の左側の席に座っていました。彼は青白い顔でしたが、静かで落ち着いていました。「まあ、あなた。私のそばに再びいてくださって、とてもうれしいです。私は私の半身が取り去られてしまったと感じていました。あなた、私はあなたが死ぬのを見ました。葬られるのを見ました。主が私をあわれんで、あなたをもう一度返してく

ださって、今までのようにいつしよに働かせてくださるのでしょいか」と叫びました。

彼はたいへん悲しそうにしていきました。「主はあなたと私にとって何が最善かを知っておいでになります。私の仕事は私にとって大切なものでした。私たちはまちがいをしました。私たちは重要な集会に出席するようにとの兄弟がたの緊急な招待に応じたのです。断わる気持ちはありませんでした。この集会は、思ったより二人を疲れさせました。兄弟たちは喜びましたが、彼らはこの会合で、私たちの年齢で、安全に負えるより大きい重荷を私たちが負ったことに気がつきませんでした。彼らは私たちが長い間負ってきた無理の結果を、決して理解しないでしょう。神は、私たちが長い間負った重荷を彼らが負うように望まれました。私たちの神経のエネルギーは、いつも緊張し、兄弟たちは私たちの動揺を誤解し、私たちの重荷が、心の働きを弱めていたことを理解しませんでした。私はまちがっていました。その最大のものは、神の民に同情するあまり、他の人が負うべき仕事を引き受けてしまったことでした。

さて、エレン、あなたは今までと同じように、重要な会合に出席するように希望されるでしょう。しかしこのことを神の前に置き、熱心な招待に対してもすぐ答えないようにしてください。あなたの生命は、いわば一本の糸につるされているようなものです。あなたは静かな休み

が必要です。すべての緊張や、好ましくない心配から解放されなければなりません。私たちは、人々が必要としていることで、私たちが天より光を与えられ、他の人には光のないことについて彼らに示すことができたことを、長年にわたって書くことによって多くのことをするこ
とができたはずでした。あなたの力が回復した時、あなたは声によるより、ペンによってはるかに多くのことができるし、必ずそのようになるにちがいありません」

彼は私を見、訴えるように言いました。「エレン、あなたはこの注意を無駄にしないでしょ
うね。人々には私たちの生活が御事業の進展と密接に関係していたため、私たちがどんなに体
が弱っているなかで、人々に奉仕してきたか、彼らには決してわからないでしょう。しかし神
はすべてを御存知です。私は急を要するとき、生命と健康の法則を無視して無茶苦茶に働きま
した。それが悔いています。主はそれほどの重荷を私たちに要求し、他の多くの兄弟たちには
わずかしが要求なさったものではありません。私たちはもっと早く太平洋岸に行くべきでした。
そして書くことに時間とエネルギーを使うべきでした。あなたは今それをしてくれますか。あ
なたの力が回復したら、ペンをとって、私たちが早くから予想していたことを書き、急いで、
しかしあわてないでやってください。人々が必要とする大事なことがあります。これをあなた

の第一の仕事としてください。あなたはそのいくつかを語らなければならないでしょう。しかし私たちを圧倒したような責任は、避けてください」

私は、「ええ、あなたはいつも私といっしょにいて、いっしょに働いてください」と答えました。彼は、「私はバトル・クリークに長く滞在すぎました。私は一年以上前にカリフォルニアに行くべきでした。しかしバトル・クリークの伝道と、伝道機関を助けたいと思いました。私はまちがっていたのです。あなたの心はやさしいので、私と同じ過ちを犯しやすいのです。あなたの生活は神の御業に役に立つことができません。これらの尊い事から、高貴な光の宝石を人々の前に示すよう主は望まれました」と言いました。

私は目を覚ましました。しかしこの夢は、現実のように思われました。今、あなたがたは、私が世界総会での責任を負うためにバトル・クリークに行くことに何の義務も感じない理由がわかるでしょう。私は世界総会の中に立つ義務はないのです。主がそれを禁じられました。それで十分です。

手紙一七、一八八一年

夫の死後責任を負う誓い

（二八八八年、カリフォルニア州オークランドで経験した）この苦しい病気の中で、夫が死に直面した時経験したことを私ははつきり思い出しました。その時私はたいへん弱っていて、彼とともに祈りました。私は彼のかたわらに座って、彼がイエスにあって眠るまで彼の手握っていました。そこで自分が義務の場所に立つと決心した厳粛な誓いは私の心に深く刻まれています。その誓いは、敵を失望させること、ねたみと悪い推量をする残酷さが教会を腐敗させているということを兄弟がたに熱心に訴えるということです。私は彼らに、互いに愛し合うように、そして彼らに向けられたイエスの愛を覚えて心をやさしくするように訴えたいと思います。彼は、「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」（ヨハネによる福音書一五の一）と言われました。夫の死の床の横にいたとき、私の前におかれた働きについて、語ることも書くことも十分にはできませんが、夫のベッドの横に座って、死にゆく彼の手

を握っていた時示された私の仕事の深い意味を、見失うことは決してありません。

原稿二一、一八八八年

ジエームズ・ホワイトの死についてのエレン・ホワイトの回想

夫が死んでから、彼のことを深く考えていた一人の兄弟が、「彼を埋葬しないで、再び生命を与えてくださるよう主に祈りしよう」と言いました。私は、「いいえ、私はこの大きな損失はわかりますが、私は反対です」と言いました。私は夫がその仕事をなし終えたと感じました。彼が真理を前進させるために努力してどんな大きな重荷を負ったか、私しか知りません。彼は三人分の仕事をしたのです。

仕事を始めた頃は、すべての方面からその前進が妨げられるように見え、夜毎に彼は、「エレン、祈らなければならない。神の力を理解するまでやめてはならない」と言いました。彼は横になって何時間も眠らず、「エレン、私は悩んでいる。私が倒れたり、失望したりしないように、祈ってほしい」と言いました。私たちは二人で声をあげて涙ながらに祈りました。「神

様ありがとうございます。神は私に平和を約束してくださいました。主に光を見いだしたのです。私は倒れません。私は最後まで戦います」との言葉が彼の唇から出るまで祈り続けました。私はこのような苦しみを彼に再びさせようとするのでしょうか。いいえ、決して彼を、安らかな眠りから骨折りと苦痛の生活に呼び戻そうとは思いません。彼はよみがえりの朝まで、休むのです。

夫は一八八一年に亡くなりました。その時から今日まで、いつも彼がいなくて寂しく思います。彼の死後一年間、私は夫がいなくなつて心が痛みました。しかし主は、私が死にそうになった時、一瞬のうちに私をいやしてくださいました。それはヒルズバーグで開かれたキャンプ・ミーティングの時で、夫の死後約一年たっていました。それ以来私は主のみ栄えを表すことができれば、喜んで生き、また喜んで死ぬという気持ちになりました。

手紙三九六、一九〇六年

第一四章 聖書の人物よりの教訓

アブラハムの信仰

アブラハムがその子イサクを燔祭として捧げるようにとの驚くべき命令を神より受けたのは、老齢になってからでした。彼の時代でもアブラハムは老人と考えられる年でした。青年時代の熱情はさめ、困難に耐えて冒険をおかすのは、もはや容易なことではありませんでした。青年の時は元気があって、嵐が来ても自信を持ってこれに当たることができそうですが、老年になってその足が墓場に向かってよろめく年頃になると、心も弱くなります。

しかし神は摂理のうちに、アブラハムに対する最も厳しい試練を、年齢の重荷を感じ、心配や骨折りから逃れて休みを望むようになる時まで、とっておかれました。主は彼に語り、「あなたの息子、あなたの愛する独り子イサクを連れて……彼を焼き尽くす献げ物としてささげなさい」といわれました。この老人の心臓は、恐怖で止まるほどでした。このような子どもを病気で失うことでも、愛している父親にとっては、ほんとうに心が裂かれることで、彼の白髪になつた頭を悲しみでうなだれさせたことでしょう。しかし今彼は、自分の手でその子どもの大事な血を流すように命じられたのです。彼にとってこれは恐るべき不可能なことと思われませんでした。

しかし神が語られた言葉には従わなければなりません。アブラハムは長年苦しい経験をしてきました。しかし義務を免除されるわけにはいかなかったのです。彼は信仰の杖をとり、黙つて苦悩の中に、若さに輝く子どもの手を取り、神の命令に従つて出かけたのです。偉大な老父祖も人間でした。彼の感情も愛情も私たちと同じでした。彼は、老後の慰めであり、主の約束が与えられていたその息子を愛していました。

しかしアブラハムは、イサクが殺されたら神の約束はどのように成就されるかと疑問に思っ

たりはしませんでした。彼は心を痛めながらも立ち止まってその意味を問うようなことはせず、神の命令をその通りに実行し、子どもの震える体にナイフを突きさそうとしたとき、「その子に手を下すな、何もしてはならない。あなたが神を畏れる者であることが、今、分かったからだ。あなたは自分の独り子である息子すら、わたしにささげることを惜しまなかった」という言葉を聞いたのです。

この信仰の偉大な行為は聖書の歴史のページに書き留められ、世の終わりに至るまで、模範的な例として輝いています。アブラハムは、老齢だからといって神に従わないで許してもらったことを求めませんでした。彼は、「私の髪は白く、壮年のときの力はなくなりました。イサクがいなくなったら私の弱っていく余生をだれが慰めてくれるでしょうか。年をとった父親が、いかにして一人息子の血を流すことができるでしょうか」とは言いませんでした。神が命じられたことに人は何の疑問も抱かず、不安も言わず、途中でくずおれることなく従わなければならないのです。

今日の教会にはアブラハムの信仰が必要です。それによって、神の愛の明るい光をさえぎり霊的成長を妨げる、教会を取り巻く闇を払うことができるのです。どんなに年をとっても、神

に従わなくてよいということにはなりません。私たちの信仰はよい業に富むべきです。業のない信仰は死んだものです。すべての義務を行い、イエスの名においてなされたすべての犠牲は、大きな報いをもたらすのです。義務を果たすとき、神は祝福を与えてくださいます。しかし神は、私たちが能力のすべてを捧げることを要求なさいます。心も体もすべてを捧げなければ、真のクリスチャンになることはできません。

『教会への証』四卷一四四、一四五ページ

ダビデの祈り

私はダビデが老年になってもお見捨てにならないように主に求めたことを示されました。この熱心な祈りに導いたものは何であつたでしょうか。ダビデは彼の周囲の多くの老齢の人たちが不幸なのを見ました。そして品性の不幸な特徴は年をとるにつれて強くなってゆくのを見たのです。生来、打ち解けにくい、貪欲な性質の人々は、年をとるともっと不愉快な人になりました。ねたみ深く、怒りやすく、忍耐のできない人は年をとると余計そうなるのです。

ダビデは、壮年の時は神を恐れているように見えた王や貴族が、年をとってから自分の最良の友や親族をねたむようになるのを見て、心を痛めました。彼らは、友だちが自分に関心を示すのは利己的な動機からだと考えて、いつも恐れていました。また彼らは、信頼すべき人々についても、その人々のことを何も知らない人々の暗示や偽りの勧告に、耳を傾けていたのです。彼らのまちがった判断に人々が同調しないと、嫉妬心を制御できないで、心は炎のように燃えました。彼らの貪欲は恐ろしいほどです。彼らは自分の子どもや親戚が、彼らが早く死んで、そのあとを取り、その財産を所有し、彼らが持っていた尊敬を自分たちが受けることを願っている、しばしば考えました。ある人はねたみと貪欲の感情に支配されて、自分の子どもを殺してしまいたいと思ったほどです。ダビデは、ある人々が壮年で元気な時はその生活が正しかったのに、老年になると克己心を失うように見えるのに気がつきました。サタンが入ってきて、その心を導き、不安にし、不満な気持ちに誘います。彼は老年になって多くの人が神を離れ、彼らの敵の嘲笑と譴責を招いているのを見ました。ダビデは深く心を動かされました。ダビデは自分が老齢になった時の様子を考えて、悩みました。彼は、神が自分を離れ、彼が見た他の老年の人々と同じような道を自分もたどって不幸になり、主の敵から非難されるように

なることを恐れました。

この心の重荷を感じて彼は熱心に祈ったのです。

「老いの日にも見放さず

わたしに力が尽きても捨て去らないでください。

神よ、わたしの若いときから

あなた御自身が常に教えてくださるので

今に至るまでわたしは

驚くべき御業を語り伝えて来ました。

わたしが老いて白髪になっても

神よ、どうか捨て去らないでください。

御腕の業を、力強い御業を

来るべき世代に語り伝えさせてください」(詩編七一の九、一七、一八)

ダビデは老年につきまとう悪より守られる必要を感じたのです。

ダビデは前もって計画した

仕事をするのに、ダビデは、老年の人々によい模範を残しました。彼はそれを処理できるうちに片づけ、死に近づいて精神的な力がはつきりしなくなった時、心を神より引き離すこの世間的性質のものが何もないようにしました。

『S D A バイブル コメンタリー』二巻一〇二五ページ

ペテロはいかにして死に直面したか

キリストを拒否したあと、再びもとの立場に復帰してから、ペテロは断固として危険を冒し、十字架につけられてよみがえり、昇天された救い主を、すばらしい勇気と大胆さをもって

宣べ伝えました。独房で横になった時、キリストの言葉を思い出しました。「あなたは、若いときは、自分で帯を締めて、行きたいところへ行っていた。しかし、年をとると、両手を伸ばして、他の人に帯を締められ、行きたくないところへ連れて行かれる」。こう言ってイエスはこの弟子に、どんなにして彼が死ぬかをお知らせになりました。十字架の上にその手を伸ばすことさえもお告げになったのです。

ペテロはユダヤ人であり外国人だったので、おち打たれ十字架につけられました。この恐るべき死を予想して、使徒はイエスの裁判の時主を裏切った罪の大きさを思い起こしたのです。かつては十字架を認めることにまったく準備ができていなかったのですが、今や福音のために生命を捧げることは喜びとなりました。ただ主を裏切った自分が、主と同じ方法で死ぬことは、あまりに大きすぎる栄誉であると感じたのです。ペテロは心からその罪を悔い、群れの羊、小羊を養うという高い召しを受けたことでわかるように、その罪はキリストに許されました。しかし彼は自分自身を許すことはできませんでした。最後の恐るべき場面の苦悩を考えることすら、彼の悲しみと後悔のつらさを減じることはできなかったのです。最後の恵みとして彼は死刑を執行する人々に、十字架に逆さにつけられることを願いました。その求めば許さ

れ、偉大なる使徒ペテロは、逆さはりつけによって死んだのでした。

『レビュー・アンド・ヘラルド』一九一二年九月二六日（『患難から栄光へ』
下巻二三八、二四〇ページ参照）

パトモスにおける年老いた使徒

キリスト教会が組織されて以来、半世紀以上たっていました。その間、福音の使命は絶えず反対されました。キリスト教会の敵はその努力をゆるめず、ついにローマ皇帝の権力を得てキリスト教徒に反対することに成功したのです。

引き続いて起こった恐ろしい迫害のとき、使徒ヨハネは、信者たちの信仰を固め強めることに、力を尽くしました。彼は相手が論駁できない証を持っていたのです。そしてそれは、兄弟たちが彼らにふりかかる試練に勇氣をもって忠実に立ち向かう助けになりました。クリスチャンたちが、いやおうなしに直面した激しい反対のもとで、信仰をぐらつかせているような時、年老いた、信頼できるイエスの僕ヨハネは、十字架にかけられて、よみがえられた救い主の話

を、力強く雄弁に繰り返しました。彼はゆるぎない信仰を持ち、その唇からはいつも同じ喜びの使命が語られました。「初めからあつたもの、わたしたちが聞いたもの、目で見たもの、よく見て、手で触れたものを伝えます。すなわち、命の言について。……わたしたちは見て、あなたがたに証しし、伝えるのです」(ヨハネの手紙一・一の一、二)

ヨハネは非常に長生きをしました。彼はエルサレムの滅亡と、堂々とした神殿の荒廃を目撃しました。救い主と親しくつながっていた弟子たちの最後の生き残りとしての彼の言葉には、イエスがメシアであり、世のあがない主であるという事を説くにあたって大きな影響力がありました。だれも彼の誠実さを疑うことはできませんでした。そして、彼の教えによって多くの者が不信心から真理へと導かれました。

ユダヤ人の役人たちは、キリストの御業にゆるぎない忠誠を尽くしているヨハネに、激しい憎しみを抱いていました。ヨハネの証が人々の耳に鳴り続けているかぎり、クリスチャンに反対する自分たちの努力は何の役にも立たないと、彼らは言いました。イエスの奇跡や教えが忘れられるためには、その勇敢な証人の声を黙らせなければならぬと言ったのです。

そのためにヨハネは、信仰を試みられるためにローマに呼び出されました。その当局者たち

の前で、使徒の教理は誤って述べられました。偽りの証人たちは、扇動的な異端を教えているとして彼を告訴しました。こうした告訴によって敵はこの弟子を死刑にさせたいと願ったのです。

ヨハネは明瞭に、説得力を持って弁明しました。しかも非常に単純、率直であつたので、彼の言葉には力強い効果がありました。聞く者たちは彼の知恵と雄弁に驚きました。しかし彼の証に説得力があればあるほど、反対者たちの憎しみは深くなりました。ドミティアヌス皇帝は激怒しました。彼はキリストの忠実な支持者ヨハネの論法を論駁することも、ヨハネが真理を語るときに伴った力に対抗することもできませんでした。それでも彼は、必ずヨハネの声を沈黙させようと決意しました。

ヨハネは煮えたぎる油の大がまの中に投げ込まれました。しかし主は、燃えさかる炉の中の三人のヘブル人を守られたように、この忠実な僕の命を守られました。こうして欺瞞者ナザレのイエス・キリストを信じる者たちはみな滅びると、言葉が語られたとき、ヨハネは、「わたしの主は、サタンとその天使たちが主を辱め苦しめようと計るすべてのことを、辛抱強く受けられるのである。キリストは世を救うために命を捧げられた。わたしは主の御業のために苦し

むことを許され、光榮である。わたしは弱く、罪深い者であるが、キリストは清く、罪のない、純潔なかたであつた。主は罪を犯さず、語られる言葉にも悪意は見られなかった」と言いました。これらの言葉には影響力がありました。ヨハネは、彼を大がまに投げ込んだ同じ男たちによって、大がまから出されました。

再び迫害の手が使徒ヨハネの上に重くのしかかりました。皇帝の命令によりヨハネは「神の言葉とイエスの証しのゆえに」有罪を宣告されて、パトモス島に追放されました（黙示録一九）。ここではもはやヨハネの影響力は及ばず、やがて彼は困難と失望のうちに死ぬに違いないと、彼の敵たちは思いました。

表面から見ると真理の敵は勝利したように見えたが、神の見えない手は、暗黒の中で働いていました。神は、キリストが御自身と教会を照らす神の真理の光とについての、更にすばらしい啓示をお与えになることができる場所に、忠実な僕を置くことを許されたのです。ヨハネを島流しにすることによって、真理の敵たちは忠実な使徒の声を永久に沈黙させることを願いました。彼はパトモスで神よりのメッセージを受け取り、その影響を敵はとどめることができず、終末に至るまで引き続いて教会を強めることになったのでした。ヨハネを島流しにし

た人々は、その悪行の責任を逃れることはできませんが、神の手によつて、神の計画を実行するものとなりました。光を消そうとしてなされたことが、かえつて真理を大胆に浮き彫りにしたのでした。

パトモスはエーゲ海にある不毛の、岩の多い島であり、ローマの政府により犯罪者の流刑の場所として選ばれていました。しかし神の僕にとって、この陰気な住居は天にいたる道となりました。ここで、生活の忙しい場面から、また、これまでの活発な働きから遮断されて、ヨハネは神やキリスト、また天使たちとの交わりを持ち、彼らから今後の教会のための指示を受けました。この世界歴史の終末の場面に起こる諸事件のあらましが、彼の前に示されました。そしてヨハネは、そこで神から受けた幻を書き記しました。彼の声が、彼の愛し仕えたかたをもはや証できなくなつたとき、その不毛の島の岸辺で彼に与えられたメッセージは、この地上の国々に関する主の確かな目的を伝える輝かしい明かりとして輝き出るのでした。

パトモス島の崖や岩間で、ヨハネは創造主と交わりました。彼は過去の生活を振り返つて、これまで受けてきた祝福を思い、平和な気持ちでいっぱいになりました。彼はクリスチャン生涯を送ってきて、「死から命へと移つたことを知っています」と、心から言うことができまし

た（ヨハネの手紙一・三の一四）。ヨハネを追放した皇帝はそうではありませんでした。彼はただ戦争と大虐殺の野に、みじめな家庭に、嘆き悲しむやもめや孤児に、優越を望む彼の野心の実を見るにすぎなかったのです。

ヨハネは彼の孤立した家の中で、これまで以上に深く、自然の書や靈感のページに記されている神の力の啓示を学ぶことができました。彼にとって創造の業を瞑想し、造物主をあがめることは喜びでした。以前には彼の目に飛び込んできたものは、森でおおわれた山々や緑の谷、実り豊かな平原でした。そして、自然の美しさの中に、創造主の知恵と巧みをたどることが彼の喜びでした。今、ヨハネは、多くの人たちにとっては陰気でもしろくもなさそうな風景に取り巻かれていましたが、彼にとって、それはまた別でした。彼の周囲のものは荒れ果てて、味気ないものであったかもしれませんが、彼の頭上に広がる青い大空は、彼の愛したエルサレムの上の大空のように輝かしく美しかったです。荒れて、ごつごつした岩に、海原の神秘に、大空の輝きに、彼は大切な教訓を読みとりました。これらすべてに、神の力と栄光を語るメッセージがありました。

使徒は、地に住む人たちが神の律法をあえて犯したために地に汜濫した洪水の跡を、周囲に

見ました。水がどつと出て、海の深みから、また地から投げ上げられた岩は、神の怒りの激しくほとばしる恐ろしさを、鮮明に思い出させました。淵々呼びこたえる多くの水の音の中に、預言者は創造主の声を聞きました。無情な風にたけり狂う海は、彼にとって、立腹された神の怒りをあらわしていました。激しく立ち騒ぐ大波は、目に見えない手により定められた限度に抑えられ、無限の力を持つ神の支配を語っていました。そして対照的に、彼は、地の虫けらにすぎない人間が、持っていると思ひ込んでいる知恵と力に得意になって、まるで神も彼らと似たようなものであるかのように、宇宙の支配者であられる神に背いている、その人間の弱さと愚かしさを知りました。岩は彼に、彼の力の岩であられるキリストを思い起こさせたのです。この岩かげに彼は恐れなく身を隠すことができました。岩の多いパトモス島に追放された使徒から、神を求める最も熱烈な魂の切望と、最も熱情的な祈りが捧げられたのでした。

『レビュー・アンド・ヘラルド』一九一二年九月五日（『患難から栄光へ』
下巻二七一―二七六ページ参照）

ヨハネの生涯の最良の時

ヨハネの経歴は、神が年老いた働き人をお用いになる方法の顕著な実例を示すものである。ヨハネがパトモス島に追放された時、多くの人々は彼の奉仕が終わった、折れた古い葦は今にも倒れるであろうと思っていた。しかし主は彼をまだ用いることが適当であるとご覧になった。以前の働き場から追放されたが、彼は真理のあかしを立てることをやめなかった。パトモスにいてさえも彼は友人や改心者をつくった。彼のメッセージは喜びのメッセージであり、よみがえられた救い主が、天において彼らのためにとりなしをしておられ、ついにはその民を迎えにもどって来られることを宣べ伝えるものであった。そして主のために奉仕を続けて年をとった後、彼は生涯のこれまでのどんな時よりも豊かに天来の交わりを受けたのである。

『患難から栄光へ』下巻二七六、二七七ページ

年老いてからヨハネは、自分の生活にキリストの生活を表しました。ほとんど百歳近くまで

生き、繰り返し繰り返し、十字架につき、よみがえられた救い主の物語をしました。迫害が信者に臨み、経験の若い人々には、キリストをしっかりとつかむことを緩める危険がありました。が、年老いた、そして試練を経たイエスの僕は、しっかりとその信仰を維持続けたのです。

『SDAバイブル・コメンタリー』七巻九四七ページ

聖書の人物の経験より学ぶ慰め

迫害のもとに受けた使徒ヨハネの経験には、クリスチャンにとってすばらしい力と慰めの教訓があります。神は悪い人々の計画を阻止なさるのではなくて、彼らの策略を、試みや戦いの中にいながら信仰と忠誠を守り通す人々の利益となるように導かれます。福音の働き人は、しばしば迫害の嵐、激しい反対、不当な恥辱の真ただ中で働きを進めることがあります。そのような時、試練や苦悩の炉の中で得られる経験は、そのために受ける痛みのもすべてに値するものだということを思い出しましょう。こうして神はその子らをご自身のもとに引き寄せられて、彼らの弱さと神の力をお示しになるのです。神は、神により頼むことを彼らにお教えにな

るのです。こうして彼らに危急に立ち向かう準備をさせ、責任のある地位につき、与えられている力を尽くして大切な目的を果たすようにさせてくださいます。

各時代にわたって、神に任命された証人は、真理のために恥辱や迫害に身をさらしてきました。ヨセフは徳と高潔を守り続けたためにそしられ、迫害されました。神に選ばれた使命者ダビデは、敵から猛獣のように追われました。ダニエルはあくまでも天に忠誠であつたために、ししの穴に投げ入れられました。ヨブはこの世の財産を奪われ、肉体的に非常に苦しめられ、親せきや友人に嫌われました。それでも彼は高潔を保ち通しました。エレミヤは、神から語るようにと与えられた言葉を語らないではいられませんでした。彼の証は王やつかたちを非常に怒らせ、そのため彼は胸の悪くなるような土牢に入れられました。ステパノはキリストと十字架につけられた主のことを宣べ伝えたために、石で打たれました。パウロは異邦人に対する神の忠実な使命者であつたために、おちで打たれ、石で打たれ、ついに死刑にされました。ヨハネは「神の言葉とイエスの証しのゆえに」、パトモス島に流されました。

こうした人間の不動の信念をあらわす模範は、神の約束―神の内住と支えてくださる恵みの確かなことを証しています。彼らはこの世の権力によく耐える信仰の力を、りっぱに証

しています。どんなに暗い時にも神に頼り、どんなに厳しい試練にあい、嵐にもまれても、天父が船のかじを握っておられることを感じることは、信仰の働きです。信仰の目だけが、現在の事柄のあなたをながめ、永遠の富の価値を正しく評価することができます。

『レビュー・アンド・ヘラルド』一九一二年九月一二日（『患難から栄光へ』

下巻二七八、二七九ページ参照）

ソロモンの背教の生涯

ソロモンの生涯は、青年だけでなく、成人した人、老人など、人生の丘を下り、西に没しつつある太陽を見ている人々にも警告に満ちています。

ソロモンは、品性が頑丈な樫の木のようにでなければならぬ時に、誘惑の力に負けて、確固とした立場から落ちました。彼の力がいちばん強くなければならぬ時に、人間として最も弱い状態を表したのです。

このような例から私たちは、目を覚まして祈ることが、若くても年をとっていても、ただ一

つの安全な道であることを学ばねばなりません。サタンは、私たちが神の力によって守られていなければ、魂のとりでをほとんど目に見えないくらい弱くするような状況を作り出すのです。私たちは一步一步、「これは主の道ですか」と問う必要があります。

生命のあるかぎり、愛情や情熱を確固たる目的を持って守っていく必要があります。神の御事業が前進すべきところにはどこでも、内からの腐敗、外からの試練があります。サタンは、誘惑が魂に圧倒的な力を持つてくるような状況を作ります。一瞬でも安全ではありません。神に頼る時のみ、その生命はキリストとともに神のうちに隠れているのです。

神の言葉と聖霊の証の中に警告されているにもかかわらず、多くの人は危険に目を閉じて、サタンに惑わされ、欺かれ、おのが道を歩み、誘惑に陥ってしまいました。こうして彼らは絶望に陥るのです。これがソロモンのたどった道でした。しかし彼にもなお助けがありました。彼は罪の行動を真に悔い改め、助けを見いだしたのです。

ソロモンのように、自分たちも回復できると思って進んで罪を犯してはなりません。罪に陥ることは永遠の滅びに至る危険が常にあるのです。しかし墮落した人も絶望する必要はありません。老人で、一度は神に尊ばれてもその魂を汚し、道徳を犠牲にして情欲の祭壇にささげた

人でも、もし悔い改めて罪を捨て神に帰るならば、希望はあります。

ソロモンの場合のように、尊い才能の誤用は、すべての人への警戒となるべきです。……彼の歴史は、老いも若きも主の道を離れた必然の結果を学ぶ警告の灯です。

ソロモンは神の御旨とまったく反対の行動をしました。神は彼を、神の真理の宝庫となさいました。しかし彼は神よりの信頼に不忠実でした。悪の交わりがよい生き方を腐敗させました。彼は異教の国々、特にエジプト及びフェニキアなどと政治的同盟を結びました。一步の誤りは、次の過ちに導きます。これらの国民との交際を通して、彼らの異教の習慣が彼にとって忌むべきものでなくなり、ついに彼らの官能的な習慣と最も暗黒な礼拝がパレスチナに入ってきました。ソロモンの繊細な感受性は鈍くなり、良心は無神経になりました。彼は弱く心がぐらつくようになったのです。彼の即位当時の正義は、暴虐に変わりました。かつて民の守り手であった者は専制君主になりました。彼のぜいたくと浪費を支えるために、貧しい人々にも重税をかけたのです。

神殿を献堂した時、民に対して、「それゆえあなたがたの心がわが神主の前に全くあるように」と言った彼自身が、それを犯すものとなったのです。彼は、心と生活において自分の言葉

を否定しました。彼は放縦を自由と誤解しました。光と闇、キリストとベリアル、純潔と不純、善と悪とを結合させるためには、どんな価も払おうとしたのでした。私たちは神よりの警告に注意を払い、最も賢い人と言われた彼を征服したこれらの罪に近づく第一歩を避けようではありませんか。

手紙八b、一八九一年

ソロモンの弱さは警告の灯

ソロモンについて、靈感を受けた記録は、その妻たちは、「王の心を迷わせ、他の神々に向かわせた。こうして彼の心は、父ダビデの心とは異なり、自分の神、主と一つではなかった」と書いています。

これは笑ってすませるような問題ではありません。イエスを愛する人は、他者の不法な愛情を求めません。すべての必要はキリストのうちに備えられています。表面的な愛情は、サタンがエバに約束した心を高揚させる喜びと同じ性質のものです。それは神が禁じておられるもの

をほしがることです。多くの人々は、もう取り返しのつかないようになってから、危険を冒さないようにと他の人々に警告することができませんが、それでは遅いのです。知性、地位、富は、決して徳性の代わりとはなりません。清い手、純潔な心、高貴で熱心な神に対する献身、これこそ主がオフルの金のくさびより高く評価なさる真理です。

悪の影響は永続する力です。私はこのことを神が私に示されたように、神の戒めを守る民に示すことができればと思います。ソロモンが背教した悲しい記憶が、すべての人を同じ危機から避ける警告となりますように。彼の弱点と罪が、次々に子孫に伝えられました。神に愛されたいといわれた地上で君臨した最大の王は、誤った愛情のために心が汚染され、はじめにも神より見離されたのです。地上最強の王も、自分の欲情を支配することができませんでした。ソロモンは、「火の中をくぐり抜けて来た者のように」救われたかもしれませんが、彼の悔い改めは、彼の罪の証拠として残った高い所を消し去ることも、石を取り壊すこともできませんでした。彼は神の性質にあずかる者とならないで、欲情に支配されることを選び神を汚したのです。

自分のいやしい行動をおおうためにソロモンの例を用いる人々に、ソロモンの生涯はどんな

遺産を残したのでしょうか。私たちはみな善か悪の遺産を残すのです。私たちの生涯や模範は祝福でしょうか、それともろいでしょうか。人々は私たちの墓を見て、「彼は私を滅ぼした」、あるいは、「彼は私を救った」と言うのでしょうか。

ソロモンの生涯から学ぶ教訓は、もはや山を登るのではなく、西に傾いている太陽に向かっていて、高齢者の生涯に特別な道德的関連があります。イエス・キリストに対する愛と信仰によって支配されていない青年の品性に欠点を見るのは当然でしょう。私たちは青年が正義と悪の間を動揺し、定められた原則と彼らの足を滅びに導くほとんど抵抗しがたい悪との間をよるめいているのを見ます。しかし熟年に達した人々には、もっと良いことを期待します。品性は確立し、原則は根をおろし、汚染の危険を越えていると考えています。しかし、ソロモンの事例は、私たちへの警告灯となっています。人生の戦いを戦った老年の巡礼者が、自分たちは立っていると思うとき、倒れないようにとの注意が必要です。ソロモンの場合は、生まれつき大胆で確固としており、決断力に富んでいたのに、誘惑者の力の前に、風に吹かれる葦のようにぐらついたのです。古い節くれだったレバノンのヒマラヤ杉や、バンヤンの頑丈な櫟の木も、誘惑の嵐の前に曲がるのです。目を覚まして絶えず祈ることは、魂の救いを望むすべての人にと

って、何という教訓でしょう。内なる腐敗、外なる誘惑と戦うべく、絶えず心にキリストの恵みを保つための、何という警告でしょう。

『S D A バイブルコメンタリー』二巻一〇三一、一〇三二ページ

世俗的名声か信仰的廉潔か

白髪の人々には、義務の立場からしりぞみするような危険はないといわれますが、ソロモンの実例の中に、老年になってから、神との結びつきを失ったことを学びます。なぜかという、彼が名声や栄誉、この世の富を求めたからです。また、偶像を拝む国から妻たちを求め、その国々と同盟を結んだからです。この同盟によってオフルから金、タルシシから銀を得たことは事実です。しかしそのために徳性、原則、品性の廉潔を犠牲にしたのでした。

ユダヤ国家の歴史から、私たちは、老若を問わず、周囲の偶像教の国々からはっきり分離していなければならなかったことを見ます。神は今日も一つの民を持っておられます。現在も昔と同じように、神の民ははっきり分離していなければなりません。精神的にもその感化も、純

潔で世から汚されてはなりません。この世は真理と正義に反する標準を掲げているからです。

『レビュー・アンド・ヘラルド』一八八七年一月四日

善と悪への感化

ソロモンの悔い改めは真実のものであった。しかし、彼が示した悪行の害毒は、取りかえすことができなかった。彼が背信した間にも、王国の中には、彼らにゆだねられた信頼にこたえて、純潔と忠誠を保った人々があつた。しかし、背信した者も多かった。そして、偶像礼拝と世俗の風習の導入によって引き起こされた悪の勢力は、王の悔い改めによって、簡単に阻止することはできなかったのである。

善事に対する彼の影響は大いに弱められた。彼の指導に全的信頼をおくことをちゅうちよする者が多かった。彼は自分の罪を告白し、後世のために、彼の愚行と悔い改めの記録を残したのではあるが、彼の悪行の及ぼした害毒を完全にぬぐい去ることを望むことはできなかった。彼の背信に勢いを得て、ひたすら、ただ悪のみを行う者が多かったのである。そして、彼に続

いた多くの王たちの墮落を見るとときに、そこに、ソロモンが神から与えられた能力を悪用したこと
の悲しい影響をたどることができるのである。……

ソロモンの生涯が教えている多くの教訓の中で、善または悪に対する影響力ほど、強調されたものはない。われわれの範囲はどんなに狭いものであっても、われわれは、なお、善または悪に対して影響を及ぼすのである。それは、われわれの知識と支配の範囲を越えて、他の人々に祝福かのろいを与えるのである。それは、不満と利己心に満ちた陰うつなものでもあれば、また何か心に秘められた罪の恐ろしい毒気をもったものでもあり得る。それとも、それは、信仰と勇気と希望に満ち、生命力にあふれ、愛の甘い香りに満ちたものでもあり得るのである。確かに、善であれ、悪であれ、影響の力は大きいのである。

『国と指導者』上巻五九、六〇ページ

解説

「若者は死ぬかもしれない、老人は死ななければならない」という英国の諺があります。まことに厳粛な人生の現実であり、老いのあとには確実に死がやってきます。昔は「死」をタブーとし、それについて語ることも、書くことも避けてきました。近年は「死学」などという学問があり、近代医学と相俟って自分の死に注文をつけることさえ日常化してきました。

このたびエレン・ホワイトの『熟年へのメッセージ』を出版することになりました。これはエレン・ホワイト図書管理委員会が彼女の著述のあちこちから一冊にまとめたもので、原題は“The Retirement Years”(一九九〇年、レビュー社発行)「引退の年月」となっています。私自身も通読してみ、信仰の思いが全ページを通して見られ、残る人生についての多くの示唆に満ちた教訓を得て感謝しました。

編集部では山形俊夫先生に翻訳をお願いし、その上で編集スタッフで校閲をさせていただきました。編集出版会議では、果たしてこの本をこのまま出版してよいものか、あるいは一部省

略したらどうかといった意見が出ました。気になった部分は、ある面であまりに率直すぎて、読者に強烈な勧告となりはしないか——特に高齢者の経済生活に関すること、高齢者の性の問題など——でした。読み方によっては、「子どもに財産を残さず、献金として捧げよ」と強調されているようですし、また、『性的行動、姦淫、離婚に関する証』など今まで聞いたことのない書名まであげられ、個人の生活に属することにまで立ち入る勧告に戸惑ってしまいます。

エレン・ホワイトの勧告を読むとき、ぜひ、彼女の勧めている原則はいったい何か——という点に目を向けるようにしてください。『アドベンチストホーム』四二〇、四二一ページには、「小さな土地を手に入れて、自分や子どもたちのために家を持つように教えなさい」「神は神の民が住まなくてはならない家を要求するようなことはなさらない」とも述べられており、本書の勧めと食い違っているように思えます。なるべく全体を読みつつ何がいちばん大切なのだろうかと正しく考え、判断してゆくことが必要です。

家や財産のこと時代や国によってそれぞれ事情が異なります。わが国では土地を買い、家を持つことは経済的にたいへんな負担です。また、神は私たちが平和に人生を送り、それぞれ

幸福な歩みをするように願っておいでになるのであって、何もかも捨てて無一物になるように求めてはられません。

老齡期における再婚というきわめて現実的な問題についても、エレン・ホワイトは時に再婚を勧め、時に慎重であるように勧めています。

わが国は、一九世紀の米国とは違う社会的、文化的状況におかれています。どうぞ本書に書かれています個々のメッセージの中の一連の原則に注目し、それらを個人としてどのように適用し、それぞれの状況に対応していったらいいのかを、賢明な判断、理性的な常識を働かせつつ考えてみてください。彼女は神を第一にするように——という点を明確に述べていますが、同時に老齡期の心、思い、重荷をよく知っており、主にある平和と希望を持って主の来臨の日を待つようにと勧めています。『熟年へのメッセージ』が読者の信仰を励まし、すばらしい祝福となりますように祈ってやみません。

訳者の言葉

人生の歩みはだれにとってもただ一度の経験であり、どの時期にも、それぞれ特有の問題があります。しかし、ある評論家は、「美しく老いることは難しい」と言いましたが、熟年と言われる時期には、その前には経験しなかった難しい問題も起きてきます。イスラエルの王であったソロモンも、熟年を「悪しき日」と言っています。健康が衰える、仕事や責任がなくなる、友人も減っていき、心を悩ますことも多くなっていくなかで、なお、生きがいと喜び、希望に満ちた生活が続けていくためには、天来の知恵と導きがいるのです。

私たち一人ひとりを御心に留め、愛してくださいさる神は、聖書とともに、ホワイト夫人の靈感によるペンを通して、人生の日没である熟年が、輝く時となる道を細かに示してくださいました。飛行機は着陸する時が難しいといわれます。人生も精いっぱい活躍したあと、速度を落と

してうまく着陸するために、本書は最も適切な示唆を与えています。一般に老後の準備は、遅くとも四〇代には始めなければならないといわれていますが、この本の編集者も言っているように、熟年になる前の人にもこの本は貴重な心得を与えています。人間が避けることができない死、特に愛する者との離別の経験についても著者は、自身の経験のうちから、温かい励ましの言葉を残しています。

永遠の御国に移る準備の仕上げの時としての熟年の過ごし方についても、ゆとりのある言葉を残しています。

どんな人生を送っても、最後が輝いた日没となるように、この書物が多くの人に読まれることを願っています。

翻訳にあたってお世話になった清野喜夫先生、村上良夫先生、そのほか福音社の方々に深く感謝の意を表します。

一九九五年一二月

山形俊夫

熟年へのメッセージ —輝く秋を迎えるために—

転載・複製を禁ず

1996年2月1日初版第1刷発行

著 者 エレン・G・ホワイト
訳 者 山 形 俊 夫
発行者 曾 根 田 健 二
発行所 郵便番号241
横浜市旭区上川井町1966番地 福 音 社
電話(045)921—1414
FAX(045)921—4349
振替00270—8—599
(落丁、乱丁がありましたら、お取り替えいたします)

印刷・真興社 製本・関山製本社

PRINTED IN JAPAN